

ミヤマヨメナ

Aster savatieri Makino

被子植物 [双子葉・合弁花] キク科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：

近畿：

選定理由： 既知の生育地点数が10以下であり、最近の情報が少ない。

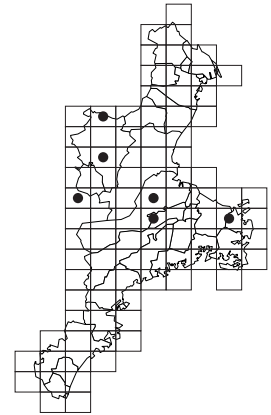
種の概要： 川岸や山地林下に生える多年草。根出葉は開花時にもありロゼット状で長い柄がある。茎は20~50 cmになる。5~6月に枝先に白色から淡青紫色の花を咲かせる。

分布： 温帯下部に生育し、国内では本州から九州に分布。県内では伊賀市、名張市、松阪市、伊勢市で記録がある。

現況・減少要因： 中勢の山間地を中心に生育している。減少しているかどうかは不明な点が多いが、もともと生育地はそれほど多くはない。

保護対策： 川岸の工事や森林伐採の時には生育地に配慮することが大切である。

特記事項： 蛇紋岩地域に生育するシュンジュギクは本種の亜種であり、ミヤコワスレは本種を原種とする園芸品種である。



(山路武夫)

ネコノシタ

Wedelia prostrata Hemsl.

被子植物 [双子葉・合弁花] キク科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：

近畿：A (CR)

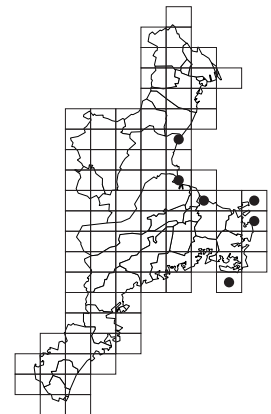
選定理由： 既知の生育地点数は10以下。生育地への開発圧が強い。

種の概要： 海岸の砂地に生える多年草。茎は長く地を這い、節から根を下ろす。葉は対生で卵形披針形、葉面剛毛がある。花は7~10月に頭花をつける。

分布： 国内では本州（関東および北陸地方以西）から沖縄、小笠原。国外では中国（本土、台湾）、ベトナムに分布。県内では津市、明和町、伊勢市、鳥羽市、志摩市で記録がある。

現況・減少要因： とくに個体数が激減している種ではないが、生育地での生育面積は狭く、小群落状である。開発等で砂浜の自然環境が改変されると容易に消滅する可能性が高い。

保護対策： 関係者間の情報交換を積極的に行い、地域ぐるみの監視体制をつくっていくことが大切である。



(岡 與一)

スブタ

Blyxa echinosperma (C.B.Clarke) Hook.f.

被子植物 [単子葉] トチカガミ科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：VU

近畿：A (CR)

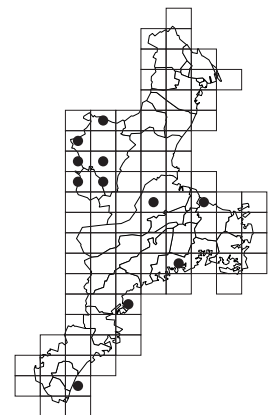
選定理由： 既知の生育地点数は10程度であり、乾田化の進む現在では生育地そのものが減少している。

種の概要： 湿田や浅い池に生育する1年生の沈水植物。線形の葉を多数根生し、葉腋から花柄をのびし白い小さな花を水面上に咲かせる。花期は8~10月である。

分布： 国外では東南アジア、極東、オーストラリア。国内では本州から九州。県内では伊賀市、名張市、松阪市、明和町、南伊勢町、尾鷲市、御浜町、紀宝町で記録がある。

現況・減少要因： 山間の小さな水田や溜池に生育している。減少要因は水田の乾田化および除草剤の影響が考えられる。

保護対策： 残された生育地の保全のため、地域の人に絶滅危惧種保護への理解を促すことが大切である。



(山路武夫)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ミズオオバコ

Ottelia alismoides (L.) Pers.

被子植物 [単子葉] トチカガミ科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

旧県：—

環境省：VU

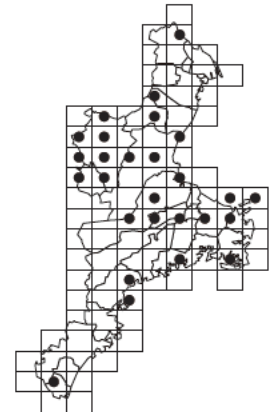
近畿：—

選定理由： 既知の生育地は多数あげられる、前回は取り上げられなかったが、今回の調査で、多くのところで環境が悪化または改変されて、個体数が激減している。

種の概要： 水田や溝、溜池に生える沈水性一年草。花は淡紅色で8~10月水面に咲く。葉の形がオオバコに似ており、水中に生えるのでこの名がある。

分布 アジアとオーストラリアに分布し、国内では北海道、本州、四国、九州、琉球。県内ではいなべ市、桑名市、四日市市、鈴鹿市、亀山市、津市、松阪市、多気町、伊賀市、名張市、鳥羽市、伊勢市、志摩市、南伊勢町、紀北町、尾鷲市、熊野市、紀宝町など。

現況・減少要因： 水田の乾田化にともなう水路の消滅や溜池の消滅等、生育環境の激減により、現在生育しているところでも、個体数は激減している。



(加田勝敏)

イトモ

Potamogeton berchtoldii Fieber

被子植物 [単子葉] ヒルムシロ科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：NT

近畿：A (CR)

選定理由： 既知の生育地点数は20以下であり、生育地の改変などの人為圧力がきわめて強く、減少するおそれがある。

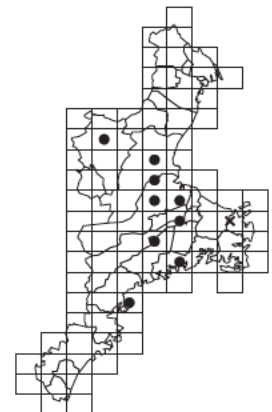
種の概要： 多年生の沈水植物。湖沼、溜池、小川などの浅水中に生育。造成地の調整池などの新しく創造された環境にも出現することがある。水中茎は糸状で細く、断面は楕円形。葉は線形、無柄、鋭頭で、長さは2~6 cm。花期は6~8月で、茎の先端部の葉腋から花茎を伸ばす。秋になると枝の先端部が殖芽となり水底で越冬する。和名は葉の外形が糸状であることに由来、漢字名は糸藻。

分布： 世界中に広く分布。国内では全国各地に分布し、県内では津市、松阪市、多気町、玉城町、伊勢市、南伊勢町、大紀町、紀北町、伊賀市で記録がある。

現況・減少要因： 津市1、松阪市4、多気町1、玉城町1、伊勢市1、南伊勢町1、大紀町1、紀北町1か所。伊賀市では1959年に記録があるが、その後については不明。伊勢市では一時的に発生したもので、その後消失した。

保護対策： 生育地である溜池などで改修工事等を行う場合には、生育場所の干出を避け、改修後の個体群の存続を可能にする配慮が必要である。

文献： 96。



(中 優)

ツツイトモ

Potamogeton pusillus L.

被子植物 [単子葉] ヒルムシロ科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

旧県：—

環境省：VU

近畿：—

選定理由： 既知の生育地点数は約10。クローン繁殖を行うので個体数は不明。生育環境の開発にともなう減少が懸念される。

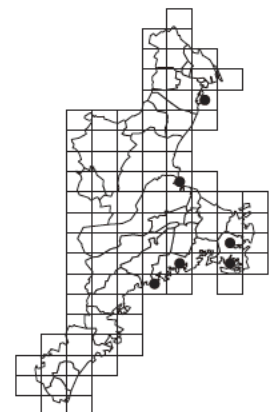
種の概要： 湖沼（とくに海跡湖）、河川、水路、養魚池などに生育する繊細な多年生の沈水植物。葉は無柄で線形、長さ2~5 cm、幅0.5~1 mm、鋭頭。托葉の両側が合着して筒状となる。花茎は長さ1.5~2 cm。花穂は長さ5~7 mm、花は上下2段に分かれてつく。殖芽は小さく、長さ1.5~2 cm。

分布： 国内では、全国に分布。海外では、汎世界に分布。本県では、四日市市、松阪市、志摩市、南伊勢町、大紀町に分布。

現況・概要： 自生地の状態は安定しているが、いくつかの海跡湖では開発が計画されている。また、放棄された養魚池については、埋め立てられる可能性が高い。

保護対策： 生育環境である海跡湖の開発を抑制する必要がある。

文献： 11、14。



(藤井伸二)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

カワツルモ

Ruppia maritima L.

被子植物 [単子葉] ヒルムシロ科(APGⅢ:カワツルモ科)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: NT

近畿: A (CR)

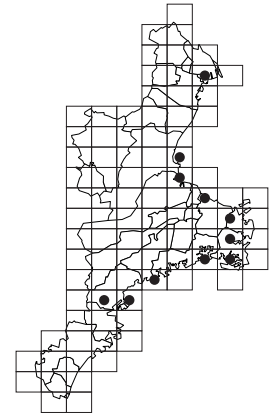
選定理由: 既知の生育地点数は10ほど、生育地が点在しており、個体群は分断されている傾向がある。

種の概要: 海水の流入する汽水中に群生する多年草。地下茎が水底を這い、各節から水中茎が伸びる。葉は、針状で互生、長さ5~10 cm、幅0.3 mm内外。花は6~8月、葉腋からでて両性、花被はない。

分布: 国内では北海道、本州、四国、九州、沖縄。世界中に広く分布。県内では桑名市、四日市市、津市、松阪市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町、大紀町、紀北町からの記録がある。

現況・減少要因: 県内では河口域、養魚場跡、海跡湖等に生育している。養魚場は水質の悪化や埋め立てで、今後減少あるいは消滅の可能性がある。河口域も河川改修の影響が懸念される地域もある。尾鷲市矢ノ川河口域からも過去の記録があるが、河川工事により消滅した。

保護対策: 河口域や養魚場跡には、本種以外に水草類や塩湿地植物が多く生育している。これらの植物群が消滅してしまうことのないよう、自生地の自然環境の保全について、十分な配慮が必要。



(山本和彦)

コアマモ

Zostera japonica Asch. et Graebn.

被子植物 [単子葉] アマモ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: —

近畿: A (CR)

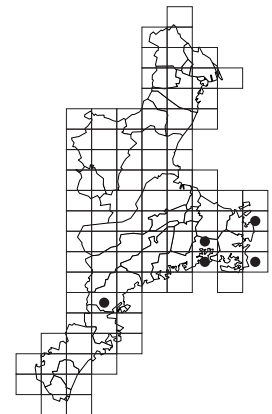
選定理由: 既知の生育地点数は10以下であるが、うち4か所の生育地は開発圧が強い。

種の概要: 湾の奥や河口の干潟などの浅い水底の砂泥に生える多年草。根茎は細く、径0.5~1.5 mmで、横に這い、節から根と葉だけをつける枝と、葉と花序とをつける枝を出す。葉は長さ10~40 cm、幅1.5~2 mm。

分布: 国内では北海道から沖縄の海岸。国外では東アジアの亜寒帯から熱帯。県内では鳥羽市、志摩市、南伊勢町、紀北町の6か所で確認されている。

現況・減少要因: 鳥羽市では湾内に、志摩市の1生育地では砂浜に自生、他の4地点は河口付近に生育している。河口付近の生育地は、いずれも開発圧が強く、いつまで群落が維持されるか危惧されるところである。

保護対策: 河川改修にあたっては、本種の自生地をできる限り温存する工法を実施することが必要である。



(山本和彦)

イバラモ

Najas marina L.

被子植物 [単子葉] イバラモ科(APGⅢ:トチカガミ科)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: —

近畿: C (VU)

選定理由: 既知の生育地点数は20以下であり、生育地の改変などの人為圧力がきわめて強く、減少するおそれがある。

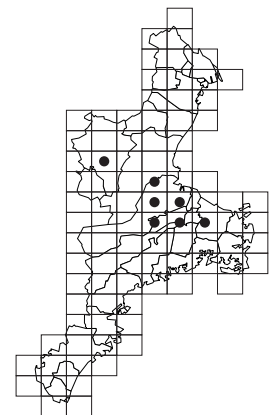
種の概要: 一年生の沈水植物。湖沼、溜池、まれに流れのゆるやかな河川や水路などに生育。水中茎は円柱状で、分岐しながら横に広がり、草長は2 mに達することもある。葉は対生で基部は葉鞘となり、葉身の長さは2~6 cm。葉縁に刺状の大きな鋸歯があることが多い。花期は6~8月。形態の変異が著しい種である。

分布: 世界中に広く分布。国内では全国各地に分布し、県内では松阪市、多気町、玉城町、大紀町、伊賀市で記録がある。

現況・減少要因: 松阪市4、多気町4、玉城町3、大紀町1、伊賀市1か所。いずれの生育地も2000年前後の確認であり、最も古い記録でも1997年である。

保護対策: 生育地である溜池などで改修工事等を行う場合には、生育場所の干出を避け、改修後の個体群の存続を可能にする配慮が必要である。

文献: 96.



(中 優)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

キンコウカ

Narthecium asiaticum Maxim.

被子植物 [単子葉] ユリ科(APGⅢ:キンコウカ科)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: —

近畿: C (VU)

選定理由: 既知の生育地点数は5以下であり、個体数は100未満。採取圧が強い。

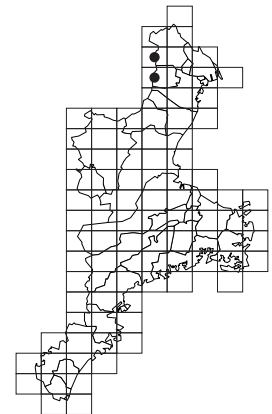
種の概要: 地下茎は長く横に這い、長さ10~35 cmの単面葉を根生する。花茎は25~35 cm、多数の黄色の花が上向きに咲き、花糸を縮れた白毛を密生する。花期は7~8月。

分布: 日本固有種。国内では北海道、本州(北部・中部・近畿)。県内では鈴鹿山脈の北・中部に生育する。

現況・減少要因: 本種は冷温帯の湿原または水湿地に生育する。そのため水環境の変化の影響を受けやすい。また採取圧はきわめて強い。

保護対策: 安定した水の確保、そのための水源地の保護および採取圧に対する強い規制が必要である。

文献: 34, 81.



(葛山博次)

ヤマトユキザサ

Maianthemum viridiflorum (Nakai) H.Li

被子植物 [単子葉] ユリ科(APGⅢ:キジカクシ科)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: —

環境省: —

近畿: B (EN)

選定理由: 既知の生育地点数は3。個体数は50未満と思われる。三重県内で確認できる自生地は、今のところ台高山脈北部のみである。

種の概要: 山地帯から亜高山帯下部の樹林下に生育する多年草。ユキザサに似るが、ユキザサの花は雌雄同株、柱頭は丸いか浅く3裂するのに対し、ヤマトユキザサは雌雄異株、柱頭は深く3裂する。花期は6~7月。

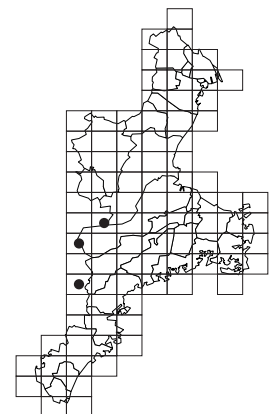
分布: 日本固有種。奈良県以北の本州に分布。県内では台高山脈北部からの標本記録および矢頭による三重大学平倉演習林(1969)および大台ヶ原の日出ヶ岳(1972)からの報告がある。

現況・減少要因: 日出ヶ岳および三重大学平倉演習林での現況は不明。ニホンジカの食害により絶滅した可能性もある。台高山脈北部自生地は2012年に新たに確認されているが、ニホンジカが容易に侵入できないような崖地や岩上にかろうじて生存している状況である。

保護対策: ニホンジカの食害対策が必要。

特記事項: 近畿地方での自生地は、奈良県と三重県のみで、奈良県では大峰山脈と大台ヶ原に分布している。

文献: 48, 100, 138, 139.



(山本和彦)

イワショウブ

Tofieldia japonica Miq.

被子植物 [単子葉] ユリ科(APGⅢ:チシマゼキショウ科)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: —

近畿: A (CR)

選定理由: 既知の生育地点数は10以下であり、生育立地が限られている。

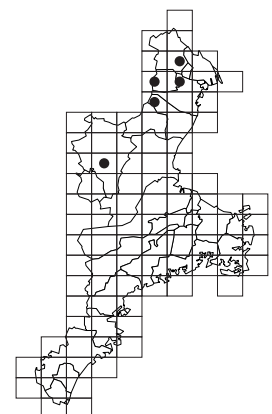
種の概要: 多年草。根茎は短く斜めにでる。葉は茎の下部に2列につき、直立する。

8~9月には、花茎の頂に総状花序が出て、苞の腋に3個の白花がつく。

分布: 本州(西限は伯耆大山)の固有種。亜高山帯の湿原に生育するが、県内では標高の低い湿地にも生育する。北勢と伊賀地域で記録がある。

現況・減少要因: いなべ市、菰野町、伊賀市で各1か所の生育地が確認されている。菰野町の生育地は標高が高いが、他の生育地は湧水に涵養された丘陵地に生育するもので、開発による生育地の減少が危惧される。

保護対策: 生育地は湿地であるので、湿地全体の保全が重要である。



(後藤稔治)

維管束植物

蕨類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ハナゼキシヨウ

Tofieldia nuda Maxim. var. *nuda*

被子植物 [単子葉] ユリ科(APGⅢ:チシマゼキシヨウ科)

三重県:絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県:絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省:

近畿:準 (NT)

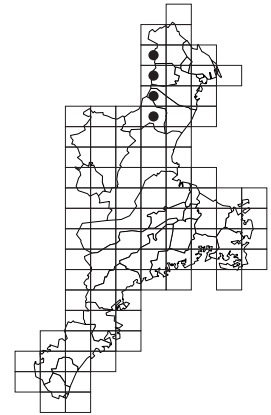
選定理由: 既知の生育地点数は10以下であり、採取圧がある。

種の概要: 山中の湿った岩に生える多年草。地下茎は短く根が発達している。根生葉は線形・鎌形の単面葉である。花茎は高さ10~30 cm、茎葉は線形で根生葉より小さい。花は7~8月。総状花序で白色、斜上する。苞は卵状披針形、小苞は花の下にあり、杯状で中裂する。花被片は3~4 mmで6、雄蕊は6で花被片とほぼ同長である。

分布: 国内では関東地方以西、九州に分布。県内ではいなべ市大安町、菰野町、鈴鹿市、亀山市で記録されている。

現況・減少要因: いなべ市大安町1、菰野町1、亀山市関町2か所で生育している。比較的安定した場所に生育しており、減少要因としては採取が考えられる。

保護対策: 自生地の環境を現状のまま維持し、採取を禁止する策を講じる。



(市川正人)

タマガワホトトギス

Tricyrtis latifolia Maxim.

被子植物 [単子葉] ユリ科(APGⅢ:同)

三重県:絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県:

環境省:

近畿:C (VU)

選定理由: 既知の生育地点数は5以下である。

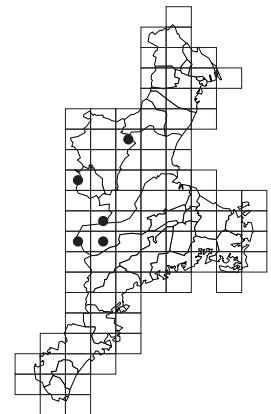
種の概要: 深山の涼しい溪流沿いの岩壁などに生育する多年草。茎は40~80 cm。葉は広楕円形で長さ8~18 cm、基部は心形で茎を抱く。茎や葉にはほとんど毛がない。茎頂と上部葉腋に腺毛のある散房花序をつける。花被片は黄色で内側に茶褐色の斑点がある。花期は7~9月。

分布: 日本固有種。北海道から本州北部に分布。県内では松阪市、伊賀市、名張市に生育している。

現況・減少要因: 松阪市の自生地は、数は多くないが長年10数個体が生育し続けている。生育地が谷筋の岩壁に限られているため、増水時の崩落等による消失や、開花時の採集により減少する可能性がある。

保護対策: 生育地は登山者や釣り人がたまたま通るだけの深い山中であり、花期以外は目立つ草でもないので、自然の中にそっとしておくのもよい。

特記事項: 名前の「タマガワ」は京都府井出の玉川から借りたもの。



(山路武夫)

チャボホトトギス

Tricyrtis nana Yatabe

被子植物 [単子葉] ユリ科(APGⅢ:同)

三重県:絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県:絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省:

近畿:

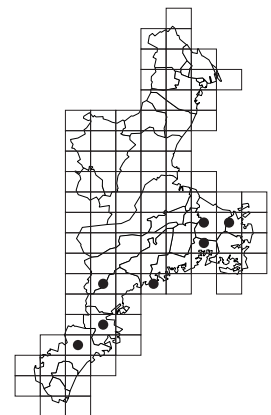
選定理由: 既知の生育地点数は10以下であり、生育地の個体数は100未満である。

種の概要: 常緑広葉樹林に生える。茎は高さ2~15 cm、硬い毛がある。葉は倒披針形で、長さ5~15 cm、光沢のある緑色の表面に紫色の斑紋があり、基部はしだいに狭くなる。8~9月に茎頂または上部の葉腋に1~2花がつく。花は黄色に紫褐色の斑点があり、径は約2 cm。

分布: 国内では本州(東海地方から近畿地方)、四国、九州に分布し、南限は屋久島である。県内では伊勢市、鳥羽市、紀北町、尾鷲市、熊野市などに分布する。

現況・減少要因: 造成などによる大規模な土地開発のため、減少している。また、園芸採取による減少もみられる。

保護対策: 生育地の保全が必要である。



(中馬千鶴)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ノハナショウブ

Iris ensata Thunb. var. *spontanea* (Makino) Nakai ex Makino et Nemoto

被子植物 [単子葉] アヤメ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: —

近畿: C (VU)

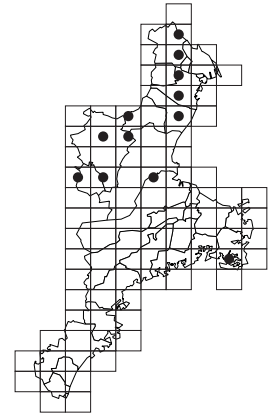
選定理由: 既知の生育地点数は10程度。生育地周辺の開発などにより生育環境が狭められ、個体数も減少している。

種の概要: 日当たりのよい湿地や草原に群生する多年草。花期は6~7月で、花茎は高さ40~100 cmとなり、赤紫色の花を咲かせる。

分布: 国内では北海道、本州、四国、九州。県内では北勢、中勢、南勢、伊賀地域などに点在する。

現況・減少要因: 大規模な開発などにより生育する湿地が減少している。また、湿地の環境変化も大きく、生育地内への帰化植物などの侵入もみられ、本種の個体数も減少してきている。

保護対策: 本種の移植は容易であるが、生育地の湿地環境が保護されることが重要である。安易な移植は慎むべきである。



(桐生定巳)

ヒナノシャクジョウ

Burmanna championii Thwaites

被子植物 [単子葉] ヒナノシャクジョウ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: —

近畿: B (EN)

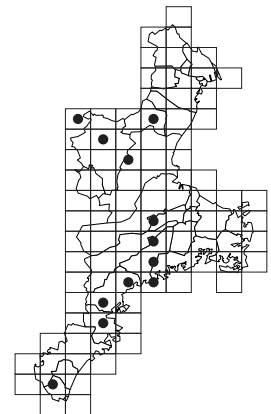
選定理由: 既知の生育地点数は10程度であり、各生育地の個体数はおよそ50未満しかない。

種の概要: 林下の落葉中に生える多年草の腐生植物。高さ3~8 cm、根茎は球状にふくれ、多数のひげ根がある。花は8~10月、白色で柄がなく、やや頭状に集まる。

分布: 国内では本州(千葉県以西)、四国、九州、沖縄。国外では中国(南部)、マレーシア、セイロン島に分布。県内では亀山市、伊賀市、津市、多気町、大紀町、紀北町、尾鷲市、熊野市、紀宝町からの記録がある。

現況・減少要因: 日陰で湿った林内に出現するが、小形で目立たないため、採集記録は少ないものと思われる。現時点では減少しているのかどうかは不明である。

保護対策: 現在確認されている生育地およびその周辺の森林環境を保全することが必要。



(山本和彦)

クロホシクサ

Eriocaulon parvum Koern.

被子植物 [単子葉] ホシクサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: VU

近畿: A (CR)

選定理由: 既知の生育地点数はおよそ30と比較的多く点在するものの、その個体数は少ない。また開発圧が強く、減少傾向にある。

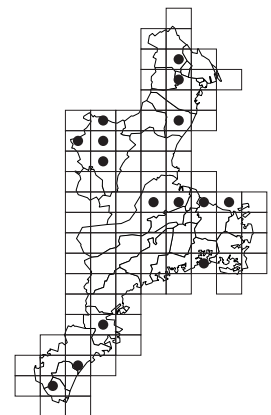
種の概要: 湿地に生える高さ5~20 cmの1年草。8~9月頃茎頂に直径4~5 mmの藍黒色の球形の頭花をつける。ホシクサに類似するが雌花には花弁があり、葯は藍黒色である。

分布: 朝鮮半島。国内では本州から九州。県内では、桑名市、いなべ市、四日市市、鈴鹿市、伊賀市、松阪市、鳥羽市、南伊勢町、尾鷲市、熊野市、紀宝町で記録がある。

現況・減少要因: 県内では、湿地、溜池の周辺、水田等に点在しているが、埋め立て、改修、土地整備、乾田化、農薬汚染等により減少が著しい。

保護対策: 既知の生育地の保全について十分な検討が早急に必要である。

文献: 43.



(加田勝敏)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ナルコビエ

Eriochloa villosa (Thunb.) Kunth

被子植物 [単子葉] イネ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧II類 (VU)

旧県:

環境省:

近畿:

選定理由: 既知の生育地は10程度で、個体数は100以下であり、生育地が著しく人為の影響を受けやすい丘陵地から平野部の草地であり、知らない間に生育地が改変されてしまつて、絶滅する危険性が高い。

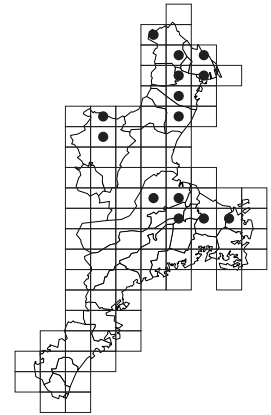
種の概要: 全体に軟毛がある多年草。高さ50~100 cmになり、7~9月頃、長さ5 cm未満の穂を出し、数個の枝を下垂する。花穂が数個ぶら下がった姿が鳴子のようなことが名の由来。

分布: 中国、ウスリー。国内の分布は本州から琉球。県内では、桑名市、いなべ市、四日市市、鈴鹿市、松阪市、伊賀市。

現況・減少要因: 多い所では1地点で100以上の個体数があるが、少ないところでは数個体のところもある。生育地が人里の草地であるので、人為の影響を強く受ける。

保護対策: 目立たない植物であり、一般の人への啓蒙は難しく、自治体へ向けての種についての周知、徹底を行うことにより、地域社会への徹底が図られる。

文献: 47.



(加田勝敏)

ウンヌケモドキ

Eulalia quadrinervis (Hack.) Kuntze

被子植物 [単子葉] イネ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧II類 (VU)

旧県: 絶滅危惧II類 (VU)

環境省: NT

近畿: C (VU)

選定理由: 既知の生育地点数は10程度であり、各地点の個体数は50未満である。

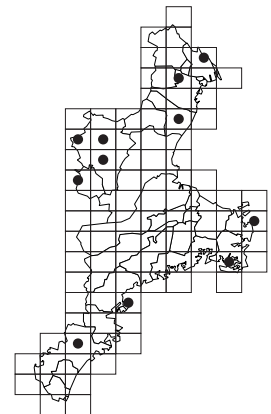
種の概要: 日当たりの良い原野に生える多年草。叢生して直立し株をつくる。外見的にはウンヌケに似る。稈の高さは60~100 cmで基部はほとんどふくれない。基部の鱗片状鞘外面はウンヌケでは黄褐色の短毛を密生するが、本種ではほとんど毛がなくやや光沢を帯びる。また、前者の葉身が基部に毛のあるほかは無毛であるのに対し、本種では両面にまばらに短毛がある。

分布: 国内では関東地方以西、四国、九州、沖縄に分布。県内では桑名市多度町、四日市市、鈴鹿市、伊賀市、名張市、志摩市大王町、紀北町、熊野市で記録がある。溜池の土手にみられることが多い。

現況・減少要因: 桑名市多度町1、伊賀市3、名張市1、志摩市大王町1、紀北町紀伊長島区1か所で生育しているが、いずれも生育個体数は少ない。遷移の進行による植生変化が減少要因になる。

保護対策: 季節的刈り込み等で遷移の進行を止め、生育環境を現状のまま維持する必要がある。

特記事項: 評価後、鳥羽市菅島で新たな生育地が確認された。



(市川正人)

トウササクサ

Lophatherum sinense Rendle

被子植物 [単子葉] イネ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧II類 (VU)

旧県: 絶滅危惧II類 (VU)

環境省:

近畿:

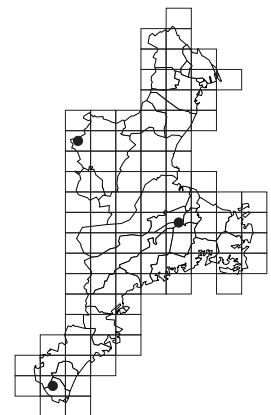
選定理由: 既知の生育地点数は5以下。各生育地の個体数は250未満である。

種の概要: 林地に生える多年草。サクサによく似ているが、個体数は少ない。小穂は狭卵形で、扁平となり明らかに背面がふくらむ。花期は8~10月。

分布: 国内では本州(北陸、近畿以西)から九州。国外では中国(中部)に分布。県内では伊賀、南勢、紀州地域で記録。

現況・減少要因: 多気町多気と紀宝町の2か所で現存が確認されている。過去には伊賀地域にも記録がある。溜池改修や土地整備で減少する可能性がある。

保護対策: 生育場所を保護する必要がある。



(山脇和也)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

タチネズミガヤ

Muhlenbergia hakonensis (Hack.) Makino

被子植物 [単子葉] イネ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧II類 (VU)

旧県: —

環境省: —

近畿: —

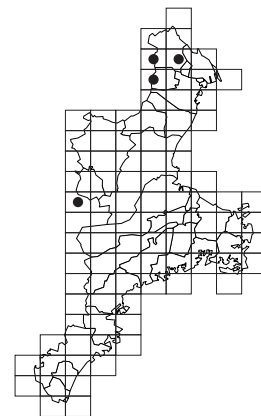
選定理由: 既知の生育地点数は4. 個体数は不明.

種の概要: 温帯林に見られる多年草. 根茎は長く, 革質で光沢のある鱗片に包まれている. 稈は直立し, 高40~80 cm, ほとんど枝を分けない. 花序は円錐状で枝が短く, きわめて細く, 直立する. 小穂は1小花からなり, 灰緑色で長い芒を伸ばす.

分布: 関東以西の本州, 四国, 九州, 济州島, 中国に分布. 県内では桑名市, いなべ市, 菰野町, 名張市からの記録がある.

現況・減少要因: 過去の標本記録がみられるが, 現況は不明. ニホンジカの食害が進んでいるものと思われる.

保護対策: ニホンジカの食害対策が必要.



(山本和彦)

アイアシ

Phacelurus latifolius (Steud.) Ohwi

被子植物 [単子葉] イネ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧II類 (VU)

旧県: 絶滅危惧II類 (VU)

環境省: —

近畿: C (VU)

選定理由: 既知の生育地点数は20以下と比較的多いが, 生育地は改変の影響を受けやすく不安定である.

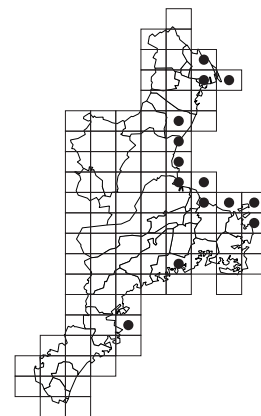
種の概要: 多年草. 稈は節が多い. 根茎はかたくて太く横に這い, 稈は群生し, 高さ80~120 cm, 直立. 葉は広線形または狭披針形, 長さ20~40 cm, 巾1~4 cm. 花序は稈頂にだけでき, 総は5~12個で白緑色. 長さ10~15 cm, 小穂は密生, 革質, 長さ1 cm, 芒がない. 花期は6~10月.

分布: 国内では北海道, 本州, 四国, 九州, 国外では中国, 朝鮮半島の暖温帯から冷温帯. 県内では伊勢湾岸および熊野灘沿岸の海岸砂浜や河口に分布する.

現況・減少要因: 1950年頃までは伊勢湾岸およびそれに注ぐ河川の下流域に広く分布していたが, 海岸砂浜や河口の改変が進行し, 生育地は減少している.

保護対策: 海岸砂浜や河口付近の開発圧, その他の人為圧を抑制する必要がある.

文献: 34. 55. 57. 64.



(葛山博次)

ムカゴツヅリ

Poa tuberifera Faurie ex Hack.

被子植物 [単子葉] イネ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧II類 (VU)

旧県: 絶滅危惧II類 (VU)

環境省: —

近畿: A (CR)

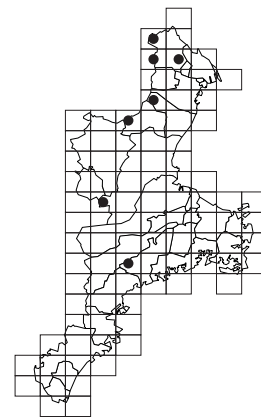
選定理由: 既知の生育地点数は10以下であり, 各地点の個体数も少ない.

種の概要: 多湿な山地にみられる多年草. 稈はやや叢生し, 高さ20~40 cmである. 基部に球形の肥厚部を持つ. 葉は2~4 mm, 明緑色で柔らかい. 4~6月にきわめてまばらに花をつける. 花序の枝は1~3本ずつ出て2~4個の小花からなる小穂をつける.

分布: 日本固有種. 本州, 四国, 九州の温帯域に分布. 県内では桑名市, いなべ市, 津市, 伊賀市, 亀山市, 大台町で記録されている.

現況・減少要因: 桑名市多度町1, いなべ市藤原町2, いなべ市北勢町1, 津市美杉町1, 伊賀市1, 亀山市1, 大台町1か所で生育している. 軟弱な植物であるが, 生育場所から見て持続可能であろう.

保護対策: 継続的な生育状況の把握を行う必要がある.



(市川正人)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ウキシバ

Pseudoraphis sordida (Thwaites) S.M.Phillips et S.L.Chen

被子植物 [単子葉] イネ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省:

近畿: C (VU)

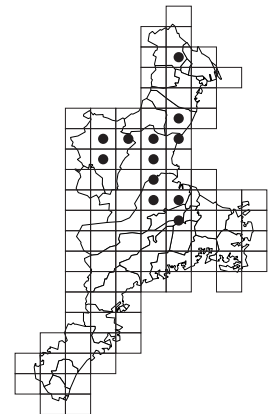
選定理由: 既知の生育地点数は10程度。溜池の開発や改修のため、減少傾向にある。

種の概要: 無毛の多年草で、多くは水上に広がって浮かび、上方は短く斜上し、長さ60 cmになる。葉は線形で、枝は多数まばらにつき、小穂を1個つける。小穂は長さ4~5 mmで、枝に圧着する。花期は8月。

分布: 国内では本州から九州の湿地、沼のほとりにややまれに生える。国外では朝鮮半島、中国に分布。県内では北勢、中勢、南勢、および伊賀地域。

現況・減少要因: 多生育地のほとんどでみられるが、これらの溜池の開発や改修で減少する可能性が高い。

保護対策: 溜池や湿地を保護することが大切である。



(山脇和也)

ワセオバナ

Saccharum spontaneum L. var. *arenicola* (Ohwi) Ohwi

被子植物 [単子葉] イネ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県:

環境省:

近畿:

選定理由: 既知の生育地点数は2。個体数は250未満。

種の概要: 海岸や河川河口部の堤防などに生え、高さが1 mを越える大形の多年草。太い根茎があり、稈は束生し直立する。葉身はススキに似て線形で、長さ30~70 cm、幅4~6 mm、葉鞘の縁や後部には長毛が生える。葉舌は高さ2~3 mm。花序は総状で30 cm前後、総ともに直立する。小穂は長さ4~5mmで基部に長白毛が輪生する。芒は無い。花期は8~9月。

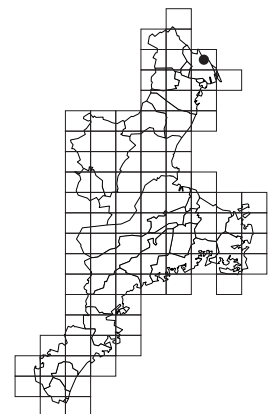
分布: 日本固有種。関東南部から東海の本州。県内では木曾岬町、桑名市に記録がある。

現況・減少要因: 桑名市長島町の木曾川右岸の群落については、定期的に草が刈られ、生育環境が維持され、比較的安定している。堤防改修が減少要因。

保護対策: 河川堤防の除草を定期的に行い、植生遷移を進行させないこと。また、堤防補強など改修工事時には注意を要する。

特記事項: 類似種として国外(旧大陸の熱帯・亜熱帯)や九州南部に分布するナンゴクワセオバナがある。

文献: 31。



(市川正人)

オニシバ

Zoysia macrostachya Franch. et Sav.

被子植物 [単子葉] イネ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省:

近畿: C (VU)

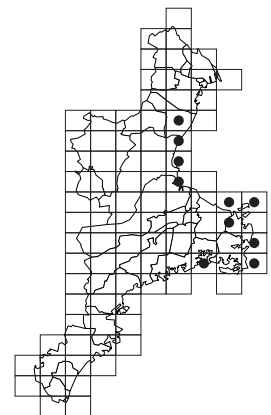
選定理由: 既知の生育地点数は10以下であり、各生育地の個体数は1,000未満。

種の概要: 海岸の砂地に生える多年草。走出枝は地下を横に走り、稈はその節から立ち、高さ10~20 cm。小穂は長楕円形で、長さ6~8 mm、幅2 mm内外。

分布: 北海道(西南部)、本州、四国、九州、沖縄に分布。県内では津市、松阪市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町等の砂浜からの標本記録がある。

現況・減少要因: 津市の標本記録は80年ほど前のものであり、現状は不明。他の地域は現存するが、個体数はそれほど多くはない。自然度の高い砂浜にみられ、県内ではナガミノオニシバより少ない。

保護対策: 本種だけでなく多くの海岸植物が、生育地を失わずに将来に渡って存続していけるような海岸部の保全策、開発の抑制が必要である。



(山本和彦)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ミヤマジュズスゲ

Carex dissitiflora Franch.

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧II類 (VU)

旧県: 絶滅危惧II類 (VU)

環境省: —

近畿: 準 (NT)

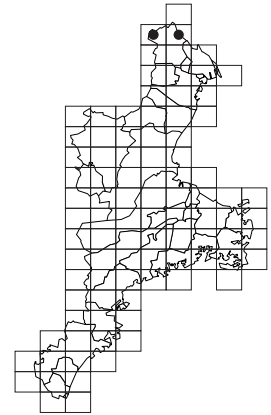
選定理由: 既知の生育地点数は5以下であるが、今後の調査により新たな生育地が発見される可能性が高い。

種の概要: 山中のやや湿った林下に生える全草淡緑色で柔らかいヒゴクサ類のスゲである。やや叢生し、稈は高さ40~80 cm。葉は比較的少なく、幅は5 mmほど。基部の鞘は暗褐色。5~7月に花をつけ小穂は4~6個。きわめて離れてつき雌雄性である。鱗片は長卵形、果胞は披針形で長さ約1 cmである。

分布: 北海道、本州、四国、九州。国外では千島に分布。県内ではいなべ市藤原町・北勢町で記録されている。

現況・減少要因: 山地林下にかかなり広く生育しているが、生育密度は低い。いなべ市藤原町1, いなべ市北勢町1か所で記録されている。

保護対策: 生育地の保全とともに、県内の分布状況を把握することが急務である。



(市川正人)

ヤマアゼスゲ

Carex heterolepis Bunge

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧II類 (VU)

旧県: —

環境省: —

近畿: —

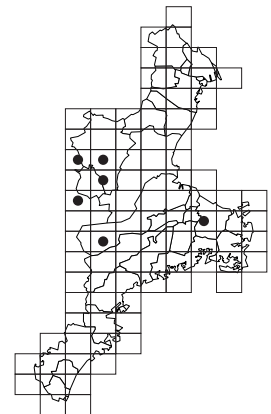
選定理由: 既知の生育地点数は10以下。個体数は各地点それぞれ少なく、減少傾向にある。

種の概要: 溪谷沿いの水辺や水湿地に生える稈の高さが20~60 cm、太い地下茎を持ち、まばらに叢生する多年草。基部の鞘は淡褐色で糸網ができる。葉は3~6 mm。花は5~6月、花穂は3~7個で頂花穂は雄性、側花穂は長さ1.5~6 cm、幅4~5 mmの雌性で上部ほど短く目立つ。果胞は高さ2.5 mm、平たく、表面は平滑で口部は小さく2裂して嘴となる。

分布: 国内では北海道、本州、四国、九州に分布。県内では津市、松阪市、伊勢市、伊賀市、名張市で記録されている。

現況・減少要因: 津市美杉町1, 松阪市飯高町1, 伊勢市1, 伊賀市2, 名張市で記録があるが、少なくとも名張市で現在も生育している。湿地開発や河川開発が減少要因となる。

保護対策: 生育環境に負荷のかかる改変や必要な開発以外はしないことである。



(市川正人)

アズマスゲ

Carex lasiolepis Franch.

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧II類 (VU)

旧県: 絶滅危惧II類 (VU)

環境省: —

近畿: 準 (NT)

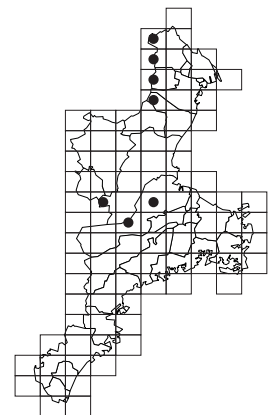
選定理由: 既知の生育地点数は10以下。各生育地の個体数は250未満である。

種の概要: 山地の、とくに岩石の多い疎林の斜面に生える。全体に開出する軟毛がはえ、茎は高さ5~15 cm。果胞は鋭三稜形で、4~6月に熟す。

分布: 国内では北海道(日高)、本州から九州の山地。県内では北勢の鈴鹿山系と津市美杉町大洞山に、過去には松阪市飯高町の局ヶ岳にも記録がある。

現況・減少要因: 鈴鹿山系の鎌ヶ岳・羽島峰峠・藤原岳、中勢の大洞山などに点々とみられる。安定した林内の所もあるが、登山道近くで環境の変化を受けて減少する可能性もある。

保護対策: 登山道の整備による環境の変化や土砂の流出による崩壊を防がなければならない。



(山脇和也)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

キノクニスゲ

Carex matsumurae Franch.

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

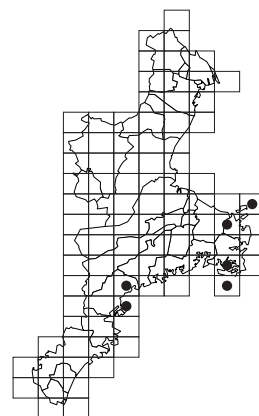
三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: NT

近畿: 準 (NT)

- 選定理由:** 既知の生育地点数は10以下。一部の生育地には開発圧がある。
- 種の概要:** 暖地の海岸に生える。匍枝がなく大株となる。深緑色でほとんどざらつかない。茎の高さ30~40 cm。葉は厚く光沢があり幅8~12 cm。
- 分布:** 国内では本州(富山県, 三重県以西), 四国, 九州。国外では朝鮮半島に分布。県内では鳥羽市, 志摩市, 紀北町に生育する。
- 現況・減少要因:** 現在の生育地は、一部埋め立て計画があるが、大部分は島しょや社寺林内であるため開発のおそれは少ない。生育地が限定されており、個体数も多くないので、採取についての配慮が必要である。
- 保護対策:** 目立たない植物であるので、関係機関や地域住民に対する周知が必要である。また、採取についても、現生育地の個体については採取自粛等を啓発すべきである。
- 特記事項:** 鳥羽市真珠島の生育地は市の天然記念物に指定されている。



(岡 與一)

サワヒメスゲ

Carex mira Kük.

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

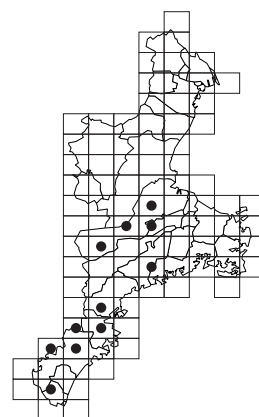
三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: —

近畿: 準 (NT)

- 選定理由:** 既知の生育地点数は10前後である。
- 種の概要:** おもに溪流の岸辺に生える多年草。茎は高さ20~40 cm。小穂は2~4個が接続してつく。頂小穂は雄性で長さ15~20 mm, 黒赤褐色で、広線形。他は雌性で、柄がなく、長楕円形、長さ5~10 mm。
- 分布:** 国内では本州(近畿, 中国地方), 四国。国外では朝鮮半島に分布。県内では松阪市飯高町, 多気町, 大紀町, 紀北町, 尾鷲市, 熊野市, 紀宝町などからの記録がある。
- 現況・減少要因:** 県内ではおもに溪流の岸辺でみられる。南勢や紀州地域の溪流は、2004年の台風21号による水害で、谷が埋まるなどの大きな被害を受けている。それによる個体数の減少もみられるが、今後の大規模な護岸工事による影響も懸念される。
- 保護対策:** 治山工事や河川工事の際には、できるだけ溪流周辺を保全する配慮が必要である。



(山本和彦)

ツルミヤマカンスゲ

Carex sikokiana Franch. et Sav.

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

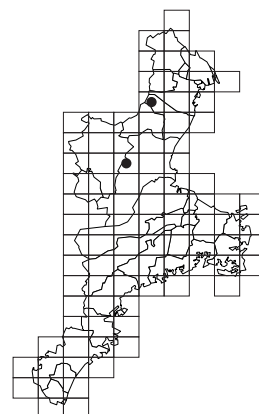
三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: —

環境省: —

近畿: —

- 選定理由:** 既知の生育地点は5以下である。
- 種の概要:** 株はやや叢生するが、地上性の太い匍枝があり他のミヤマカンスゲ類と区別される。果胞はやや大形で無毛。基部の鞘は紫褐色。
- 分布:** 日本固有種。本州(神奈川, 静岡, 三重, 兵庫県), 四国, 九州(北部), 県内では鈴鹿山系南部と伊賀市青山高原に分布する。
- 現況・減少要因:** 林縁の草地やササの中に生え、減少要因は伐採やニホンジカの食害。
- 保護対策:** 伐採時に注意を払い、ニホンジカを寄せつけない対策が必要。
- 文献:** 104.



(山脇和也)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

コミヤマカンスゲ

Carex multifolia Ohwi var. *toriiana* T.Koyama

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: —

環境省: —

近畿: —

選定理由: 既知の生息地点数は3. 個体数は総計250未満.

種の概要: 木漏れ日のあたる林内や林縁に生え, 小さく叢生し, 程が20~30 cmの多年草. 細長い地下茎を数本匍匐させ, 種子で増えるが栄養繁殖もする. 葉は細く幅3~6 mm. 鱗片は基部の鞘とともに赤褐色である. 果胞は長さ3.5~4 mmで毛がある.

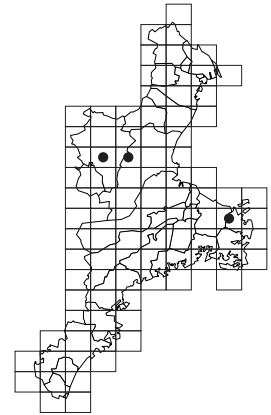
分布: 日本固有種. 関東南部から近畿の本州. 県内では伊賀市, 伊勢市で記録がある.

現況・減少要因: 伊賀市2, 伊勢市1. それぞれの生育環境は今のところ安定しており, 生育が維持されている. 植生遷移が減少要因.

保護対策: 植生遷移の進行に注意し, 現状維持を図る.

特記事項: 県内のミヤマカンスゲ類には5変種があり, 同定に注意を要する.

文献: 104.



(市川正人)

キシウナキリスゲ

Carex nachiana Ohwi

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: VU

近畿: C (VU)

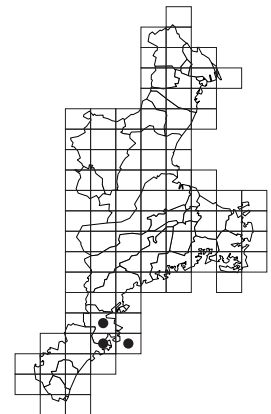
選定理由: 生育地点数は10以下であり, 各地点の個体数は少ない.

種の概要: 暖地の林内で9~10月に花をつける多年草で, 80~120 cmの大形, 頂小穂も雌雄性のスゲ類である. 果胞は長さ3.5~4.5 mmでナキリスゲ類では大きく円盤形で, 縁に短い毛が多く, 両面はほとんど平滑である.

分布: 国内では本州, 四国, 九州. 国外では中国に分布. 県内では尾鷲市の海岸部に生えているが, 海岸部のほかにも生育地があると思われる.

現況・減少要因: 現在, 尾鷲市の3か所でみられる. 土地の改変が減少要因となる.

保護対策: 個体数は少ないが, 土地造成などの開発行為がなければ生育維持は可能である.



(市川正人)

ヒメスゲ

Carex oxyandra (Franch. et Sav.) Kudô

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: —

近畿: 準 (NT)

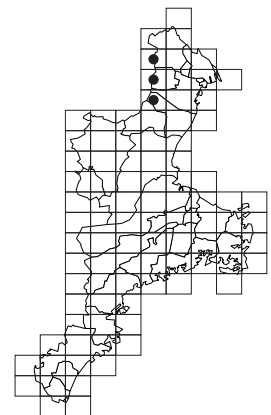
選定理由: 既知の生育地点数は5以下. 各生育地の個体数は250未満である.

種の概要: 山地または高山の林地や草地に生える多年草. 茎は高さ10~30 cm, 細くて果時には倒れる. 葉は鮮緑色で, 幅は2~3 mm. 果胞は5~7月に熟す. 和名は姫菅で全体が小形であるため.

分布: 国内では北海道から九州. 国外では樺太, 千島, 台湾に分布. 県内では北勢地域の鈴鹿山系(御在所岳, 藤原岳など)に分布.

現況・減少要因: 御在所だけにみられる. 個体数はそれほど多くない. 施設の整備や観光客の増加で減少する可能性がある.

保護対策: 登山道や施設の管理を十分に行い, 各生育地への影響を抑える必要がある.



(山脇和也)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

フサナキリスゲ

Carex teinogyna Boott

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧II類 (VU)

旧県: 絶滅危惧II類 (VU)

環境省:

近畿: 準 (NT)

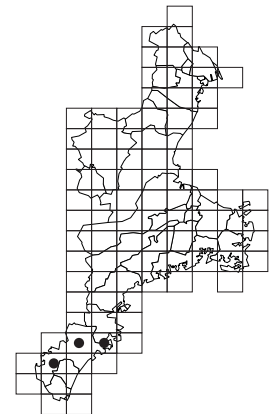
選定理由: 既知の生育地点数は10以下であり、各生育地の個体数は250未満である。生育地域が限られている。

種の概要: 他のナキリスゲ類は山地や海岸等に生えるが、本種は溪流の岩上やその周辺に生育する。8~10月頃開花結実し、柱頭は果実よりはるかに長く、果実が熟しても宿存する。

分布: 朝鮮半島南部、中国、インド。国内では本州（近畿地方以西）、四国、九州。県内では、尾鷲市、熊野市で記録がある。

現況・減少要因: 現時点では大きな変動はみられないが、生育地点が限られており、しかも渓流域に限定されているため、林道工事や護岸工事等の影響を受ける可能性が高い。

保護対策: 小規模工事でも計画時点で調査した上で、先取りした対策を実施することが望まれる。



(加田勝敏)

オニナルコスゲ

Carex vesicaria L.

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧II類 (VU)

旧県: 情報不足 (DD)

環境省:

近畿: A (CR)

選定理由: 既知の生育地点数は1。西日本での分布が局限される。遷移による生育環境の悪化が懸念される。

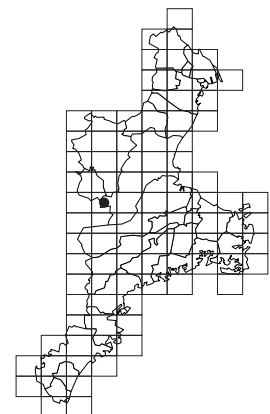
種の概要: 湿原に生育する多年草。地下匍枝を持ち、茎は高さ40~100 cm。葉は幅3~9 mm、葉鞘は血赤色を帯び、少し糸毛がある。上方の数個の小穂は雄性で線形、下方の数個の小穂は雌性で円柱形、長さ3~7 cm。果苞は長さ6~8 mm、上方はやや急に嘴となる。

分布: 国内では、北海道、本州（広島県と近畿以北）、九州（大分県、宮崎県）。国外では、北半球の温帯に広く分布。県内では、津市。

現況・概要: 現状は比較的安定しているが、乾燥化とそれともなう遷移の進行（灌木の侵入と繁茂）が進みつつある。

保護対策: 生育地の開発を規制するとともに、遷移進行を抑制する必要がある。

文献: 15。



(藤井伸二)

オオシロガヤツリ

Cyperus nipponicus Franch. et Sav. var. *spiralis* Ohwi

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧II類 (VU)

旧県: 絶滅危惧II類 (VU)

環境省:

近畿: C (VU)

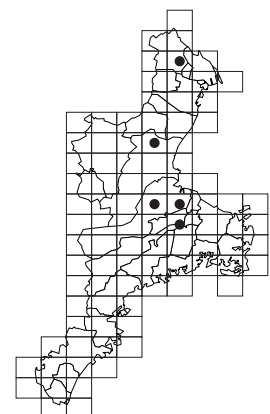
選定理由: 既知の生育地点数は10以下であり、各生育地の個体数は250未満である。

種の概要: 溜池のへりや放棄田などの湿地に生える一年草で、叢生し株立ちをする。稈は5~25 cmで細い。葉は稈より短く淡緑色で細い。基部の鞘は赤紫色、苞葉は2~4枚で葉状である。7~11月頃円筒状の小穂に20~40個の柱頭3の花を螺旋状につける。瘦果はアオガヤツリに似て倒卵形である。

分布: 国内では近畿地方以西、四国。国外では中国に分布する。県内ではいなべ市、津市、松阪市、明和町、多気町の溜池内湿地にみられる。

現況・減少要因: 水位が下がると、干出した泥中で休眠中の種子が発芽することから、他地域でも条件さえ整えば発見が期待される植物である。いなべ市大安町1、津市安濃町2、松阪市2、多気町2か所で確認されている。湖沼開発が減少要因となっている。

保護対策: 生育地の環境を現状のまま維持する。



(市川正人)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

シロガヤツリ

Cyperus pacificus (Ohwi) Owhi

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: —

近畿: A (CR)

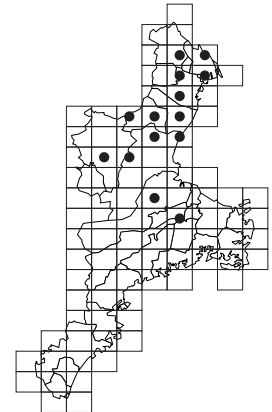
選定理由: 既知の生育地点数は10程度。放棄された水田や溜池の周りに点々と存在するが、整備や改修で激減することが考えられる。

種の概要: 平地の湿地に生えるアオガヤツリによく似たやわらかい一年草。花序は頭状で球形。密に多数の小穂をつける。小穂は長さ3~5 mmで、やや扁平でふつう2列に並ぶ。8~10月に熟す。

分布: 国内では北海道、本州。国外では朝鮮半島に分布。県内では、北勢、中勢、南勢、伊賀の各地域に分布。

現況・減少要因: 桑名市、いなべ市、四日市市、亀山市、津市、伊賀市、松阪市、多気町などの池や湿地に生育する。湿地の整備や開発により減少が予想される。

保護対策: 生育地では圃場整備や埋め立てなどの開発を避けなければならない。



(山脇和也)

ピロードテンツキ

Fimbristylis sericea (Poir.) R.Br.

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: —

近畿: A (CR)

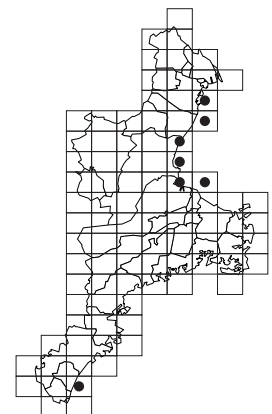
選定理由: 既知の生育地点数は10以下であり、生育地は不安定な状況下にある。

種の概要: 海岸の砂地に生える高さ10~30 cmの多年草。茎、葉ともピロード状の絹毛が密生(名前の由来)。7~10月に茎頂に3~15個の小穂を頭状につける。

分布: 中国、台湾、インド、インドネシア、オーストラリア。国内では本州(茨城県、富山県以西)、四国、九州、沖縄。県内では四日市市、鈴鹿市、津市、明和町、紀宝町で記録がある。

現況・減少要因: 北勢地域の海岸の大半は埋め立てにより生育環境がほとんど残存しないが、現存する生育地では開発圧が強く、護岸工事、埋め立て、公園化等による環境消失と悪化により減少している。

保護対策: 開発、改変等の環境消失および悪化が懸念される状況下にあるので、十分な保護対策や地域住民への啓発による保護意識の高揚が必要である。



(加田勝敏)

アゼテンツキ

Fimbristylis squarrosa Vahl

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 情報不足 (DD)

環境省: —

近畿: A (CR)

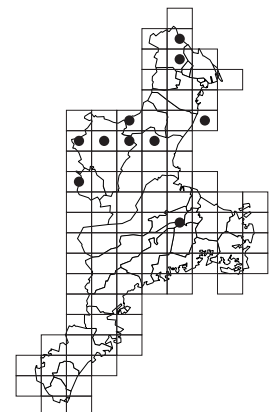
選定理由: 既知の生育地点数は10以下であり、減少傾向である。

種の概要: 山間の湿地や池の周りに生える小形の一年草。コアゼテンツキに似て、高さ15 cm程度、小穂は多数。鱗片の中肋が長く伸び芒となる。柱基に絹毛があるのが特徴。これによく似たメアゼテンツキは鱗片の芒は長く伸びない。

分布: 北海道、本州、四国、九州に分布する。世界の暖帯、熱帯に多い。県内では、いなべ市、桑名市、四日市市、伊賀市、津市、多気町に記録がある。桑名市多度町では現認されている。

現況・減少要因: 開発により湿地や溜池が減少してきている。環境の変化も生育地を狭めている。

保護対策: 無理な開発をなくし、生育地の水利の確保や湿地周辺の草刈等を適度にする。



(南 正祝)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ミカヅキグサ

Rhynchospora alba (L.) Vahl

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省:

近畿: C (VU)

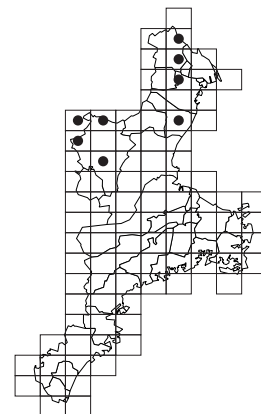
選定理由: 既知の生育地点数は10以下であり, 生育立地が限られている。

種の概要: 湿地に生える多年草で, 高さ10~60 cm。小穂は披針形で淡白色。果実は倒卵形で長さ2~2.5 mm。7~10月に熟す。

分布: 国内では北海道, 本州 (関西以西は少ない), 九州 (まれ)。国外ではヨーロッパ, アジア, 北アメリカ北東部の湿地に分布。県内では標高の低い湿地にも生育する。北勢地域と伊賀地域で記録がある。

現況・減少要因: いなべ市2, 鈴鹿市1, 伊賀市6か所の生育地が確認されている。いずれも, 湧水に涵養された丘陵地に生育するもので, 開発による立地の減少が危惧される。

保護対策: 生育地は湿地であるので, 湿地全体の保全が重要である。



(後藤稔治)

トラノハナヒゲ

Rhynchospora brownii Roem. et Schult.

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省:

近畿: B (EN)

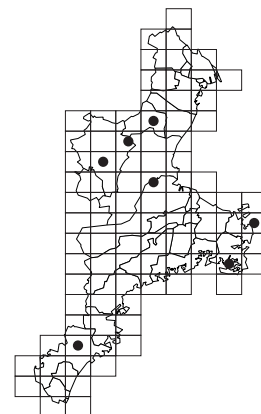
選定理由: 既知の生育地点数は10以下であり, 生育個体数も少ない。

種の概要: 湿った草地に生育する多年草。草丈は60~80 cmあるが茎も葉もたいへん細い。花期は8~9月, 分花序は2~3個, 柄は少し垂れ下がる。

分布: 国外では東南アジア。国内では本州 (愛知県以西) から九州。県内では伊賀市, 亀山市, 松阪市, 鳥羽市, 志摩市, 熊野市で記録がある。

現況・減少要因: 松阪市の生育地は溜池堤防の漏水箇所ので, 個体数は少ない。他の生育地においても個体数は多くないと思われる。減少しているかどうかは不明な点が多いが, もともと生育地点数個体数はともに少ない。

保護対策: 生育地では時々草を刈ることが必要である。



(山路武夫)

タイワンヤマイ

Schoenoplectus wallichii (Nees) T.Koyama

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県:

環境省:

近畿:

選定理由: 既知の生育地点数は3。個体数は少ない。

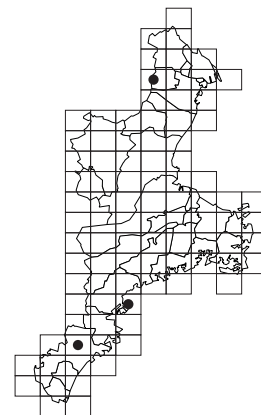
種の概要: 山間の湿地や水田に生える15~40 cmの叢生する多年草。稈は細く4~5稜の円柱形で緑色である。苞は類似のホタルイ類に比べて6~16 cmと長く目立つ。小穂は1~2 cm, 淡緑色, 狭楕円形で先が尖る。鱗片は長さ約4 mmの倒卵形。果実は1.5~1.8 mmの広倒卵形で平たい凸レンズ形, 柱頭は2個, 刺針状花被片は4~5本で果実の約2倍である。

分布: 国内では本州, 四国, 九州に分布。県内では菰野町, 紀北町, 熊野市で記録されている。

現況・減少要因: 菰野町1, 紀北町海山区1, 熊野市五郷町1か所で生育している。湿地開発や農薬汚染が減少要因となる。

保護対策: 不要な湿地開発を慎むこと。水田耕作は自然農法を用いること。

特記事項: ホタルイやイヌホタルイに似るが, 苞が長いので, まずは外見的に識別できる。



(市川正人)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

マツカサススキ

Scirpus mitsukurianus Makino

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省:

近畿: C (VU)

選定理由: 既知の生育地点数は10程度であり, 各生育地の個体数も少ない。

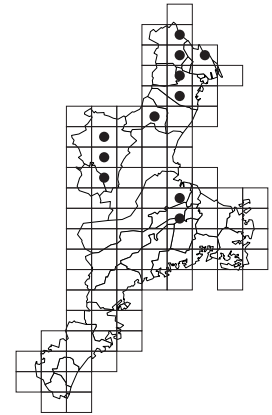
種の概要: 稈は高さ1~1.5 m, 5~7個の節がある。葉は線状で革質, 巾4~8 mm, 上部で多くの枝を分け, 多数の球状花序をつける。花期は8~10月。日当たりのよい湿地を好む。和名は小穂集団を松かさに見立てたものである。

分布: 日本固有種。本州, 四国, 九州の暖温帯。県内ではいなべ市, 桑名市, 四日市市, 亀山市, 伊賀市, 名張市, 松阪市, 玉城町などに分布する。

現況・減少要因: 耕地整理, 溜池改修, 土地の改変等により, 生育地はせばめられている。

保護対策: 生育地の土地の改変, 溜池や湿地の改修, 耕地整理などの人為圧を排除することが必要である。

文献: 43.



(葛山博次)

ミカワシンジュガヤ

Scleria mikawana Makino

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: VU

近畿: B (EN)

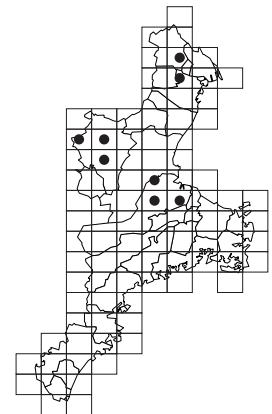
選定理由: 既知の生育地点数は10以下であり, 生育地は湿地で, 開発や遷移の進行で減少するおそれがある。

種の概要: 明るい湿性草地に生育する一年草または多年草。茎は三稜形で稜に翼はない。花期は7~9月。果の格子紋に光沢がない。

分布: 国外ではインド, ニューギニア, アフリカ。国内では本州(千葉県以西), 九州。県内ではいなべ市, 伊賀市, 松阪市, 玉城町で記録がある。

現況・減少要因: 池の岸や草地でまれにみられる。遷移の進行や開発工事で生育地は減少している。

保護対策: 生育地の草刈りも必要であるが, 湿地はその水源も含めて開発しないことが一番大切である。



(山路武夫)

ケシンジュガヤ

Scleria rugosa R.Br. var. *rugosa*

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省:

近畿: C (VU)

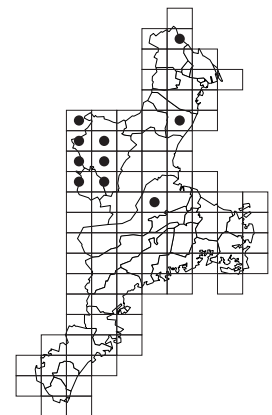
選定理由: 既知の生育地点数は10以下であり, 生育立地が限られている。

種の概要: 一年草。全体が小さく高さ10~30 cm, やわらかく, 白色開出毛がある。果実は球形で, 不完全な格子紋と光沢がある。無毛のものをマネキシングガヤとして区別することがある。

分布: 国内では本州(千葉県以西)から沖縄。国外では台湾, 朝鮮半島, マレーシア, インド, オーストラリアの湿地に分布。県内では北勢地域, 伊賀地域, 中勢地域で記録がある。

現況・減少要因: いなべ市1, 伊賀市8, 松阪市1か所で生育が確認されている。山間, 丘陵地の湿地や溜池の周囲にみられるが, 開発による立地の減少が危惧される。

保護対策: 生育地は湿地であるので, 湿地全体の保全が重要である。



(後藤稔治)

維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ミヤマムギラン

Bulbophyllum japonicum (Makino) Makino

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: NT

近畿:

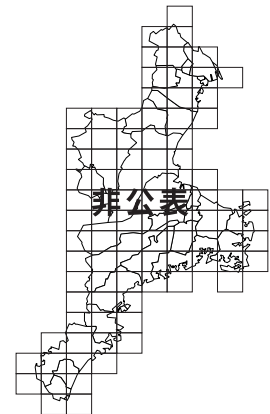
選定理由: 既知の生育地点数は12ほどで、生育地が限られている。

種の概要: 常緑の着生ラン。茎は横に這い、まばらに偽球をつけ、その上から1個の葉が上方に伸びる。葉は披針形、長さ3~8 cm、幅5~10 mm。6~7月、偽球の基部から花柄を出し、紅紫色の小さな花を数個散状につける。

分布: 国内では本州(中部地方以西)、四国、九州、国外では台湾に分布。県内では南勢および紀州地域での記録がある。

現況・減少要因: 県内では安定した森林内の樹幹や岩上に着生している。群生して着生するため、一つの生育地点の個体数は多い。しかし森林伐採等による環境の激変で、消失した地点もみられる。また園芸目的の採取圧も大きい。南西地域の分布情報は60年以上前の標本記録によるものもあり、現在の生育については不明な地域もある。

保護対策: 自生地周辺の生育環境の改変には注意が必要である。またマニアによる乱獲を防ぐために、自生地の情報公開は避けることが望ましい。



(山本和彦)

ギンラン

Cephalanthera erecta (Thunb.) Blume var. *erecta*

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省:

近畿:

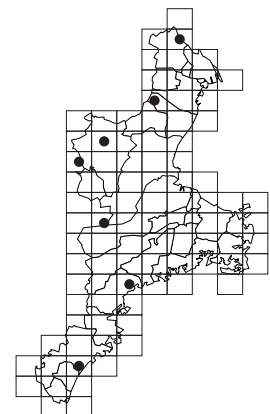
選定理由: 既知の生育地点数は10以下であり、各生育地の個体数は50未満である。

種の概要: 山や丘陵地の疎林下に生える。茎は直立し、高さ10~30 cm、無毛。葉は3~6枚で互生し、狭長楕円形、長さ3~8 cm、基部は茎を抱く。花被は白色で長さ7~9 cm。唇弁は基部に短い距があり、舷部は3裂し、中裂片の中央に5本の条がある。

分布: 国内では本州から九州。国外では朝鮮半島に分布。県内では北勢、南勢、伊賀、紀州地域に生育する。

現況・減少要因: 各地に生育しているが、いずれの地域でも個体数が少ない。また、生育地の植生遷移により、減少している。

保護対策: 個体数が少なく出現頻度も低いいため、生育地の環境を整え、維持することが必要である。



(中馬千鶴)

キンラン

Cephalanthera falcata (Thunb.) Blume

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: VU

近畿: C (VU)

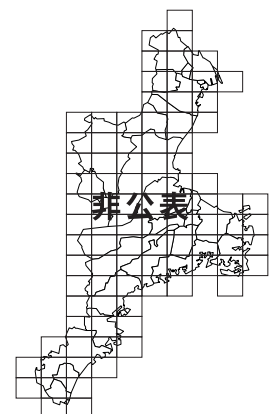
選定理由: 既知の生育地点数は15以下であり、各生育地の個体数はおおよそ10未満の亜個体群しかない。園芸目的で採取され減少している。

種の概要: 山や丘陵地の疎林下に生育する。茎は高さ30~70 cm、稜線がある。葉は5~8枚、長さ8~12 cm、基部は茎を抱く。4~6月、黄色の花を3~12個つける。花被片は15~17 mm、唇弁の基部は筒状で距となり、舷部は3裂、中裂片の内面には赤橙色の縦の条が数本ある。

分布: 国内では本州から九州。国外では朝鮮半島、中国に分布。県内では北勢から南勢および伊賀地域に生育する。

現況・減少要因: 各地に生育しているが、いずれの地域でも個体数が少なく、生育地の植生遷移が進行していて適地が少ない。

保護対策: 花が黄色で目立つため、園芸目的で採取されやすい。分布情報の公表には、慎重な配慮が必要である。



(中馬千鶴)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

クマガイソウ

Cypripedium japonicum Thunb.

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: VU

近畿: C (VU)

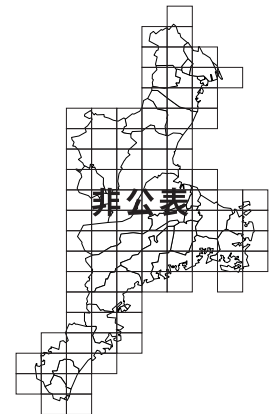
選定理由: 既知の生育地点数は10以上だが、観賞、園芸目的の採取圧が非常に高い。

種の概要: 樹林下に群生する多年草。茎は高さ20~40 cm。径が10~20 cmの扇円形葉が茎上部に2枚つく。葉脈は放射状に多数出る。花は4~5月頃に茎の頂に1個下垂して開く。花は淡緑白色。唇弁が大きな袋状となり、紅紫色の脈が浮き出る。

分布: 国内では北海道西南部、本州、四国、九州。国外では朝鮮半島、中国にも分布。県内では各地の樹林下で稀に群落が確認されている。

現況・減少要因: 山地の樹林下に群生するが、林内の光条件に敏感で、被圧が進むと衰退する。観賞用、園芸目的の採取圧が著しく高い。

保護対策: 採取を禁止し、生育地の光環境を適度に管理することが必要。県指定天然記念物「霧生のクマガイソウ群落」(伊賀市霧生)は衰退が著しく、積極的な保護増殖が望まれる。



(武田明正)

タシロラン

Epipogium roseum (D.Don) Lindl.

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: NT

近畿: 準 (NT)

選定理由: 既知の生育地点数は10以下であり、各生育地の個体数は50未満である。

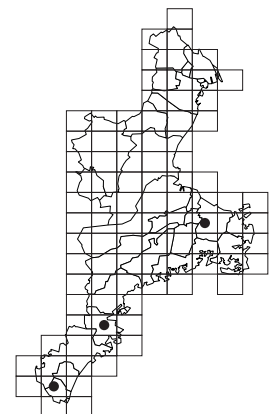
種の概要: 常緑樹林下に生える。地生の無葉緑腐生植物。塊茎は楕円形で長さ20~25 mm。茎は高さ20~25 cmで白黄色、膜質の梢状葉がまばらに数個つく。6~7月に6~20個の白色花を総状につける。花の大きさは約2 cm、外花被と内花被の側弁は披針形、唇弁は広卵形、内面には肥圧した3条があり、そのうえに球状突起が並ぶ。葉梢、苞と内花被には紅紫色の斑点が散在する。

分布: 国内では本州(関東南部)、九州、沖縄にまれ。国外では中国(南部、台湾)、インドシナ、インド、マレーシア、オーストラリアなどに分布。県内では南勢、紀州地域に分布する。

現況・減少要因: 個体数、生育地ともに少ない。

保護対策: 生育地の森林を保全することが必要である。

文献: 8, 122.



(中馬千鶴)

アキザキヤツシロラン

Gastrodia verrucosa Blume

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: —

近畿: —

選定理由: 既知の生育地点数は1であり、個体数も少ないが、今後の調査により新たな生育地が発見される可能性がある。

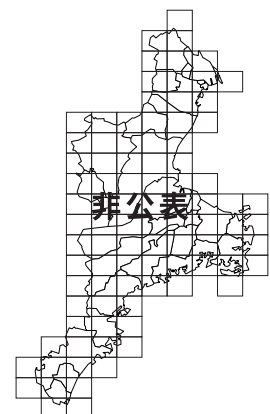
種の概要: 常緑樹林下に生えるが、しばしば竹林下にも生える。地生の無葉緑腐生植物。塊茎は多肉で太く、紡錘形。単細胞毛が密に被う。茎は暗紫黒色、2~3個の鱗片はさや状で茎を抱く。花は紫褐色、鐘状の筒形、長さ約11 mm、唇弁は中央に1条の隆起したしわがあり、基部近くに各1個の4角柱状の突起がある。

分布: 国内では本州(千葉県以西)から沖縄、小笠原、国外ではマレーシアに分布。県内では伊賀地域に生育する。

現況・減少要因: 生育地点数、個体数ともきわめて少ない。

保護対策: 生育地の森林を保全することが必要である。また県内における分布調査が急務である。

特記事項: ハルザキヤツシロランと比べて花期が遅く9~10月に開花、また花の数も2~8個と多い。



(中馬千鶴)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

サギソウ

Habenaria radiata (Thunb.) Spreng.

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：NT

近畿：C (VU)

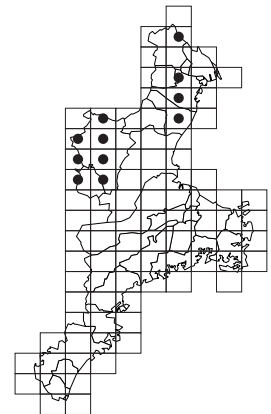
選定理由： 既知の生育地点数は10以上だが、土地開発のため生育地が消滅傾向にある。また観賞、園芸目的の採取圧が著しく強い。

種の概要： 日当たりの良い湿地に生える小形の多年草。茎の高さは15~40 cm。茎の下部に3~5枚の葉をつけ、その上部に数枚の鱗片葉をつける。7~8月頃径3 cm程度でシラサギを思わせる白色の花を頂生する。

分布： 国内では本州、四国、九州。国外では朝鮮半島、台湾に分布。県内では北勢、中勢、伊賀の各地域に分布し、南勢、紀州地域では確認されていない。

現況・減少要因： 北勢、伊賀地域では丘陵地における土地開発により生育地が激減した。観賞用、園芸目的の採取が頻繁である。

保護対策： 採取を禁止し、土地開発にあたっては、本種が生育する水湿地を保全し、観賞・園芸目的の乱獲を防ぐ必要がある。



(武田明正)

クロムヨウラン

Lecanorchis nigricans Honda

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

近畿：—

選定理由： 既知の生育地点数は5以下であり、個体数も少ない。

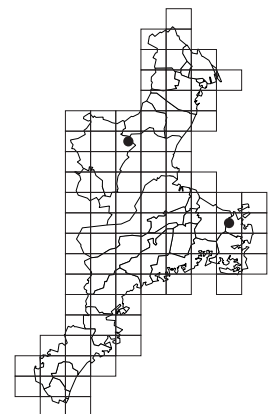
種の概要： 常緑樹林下に生える。茎は細くて硬く、高さ20~30 cm、暗紫色。花の色は白色で5~8花をつける。花期は7~8月。花は午前中に平開し、午後には閉じ始める。唇弁はさじ形で分裂せず、両縁がずい柱と癒合しており、先端部は紫色を帯びる。唇弁内部には紫色の帯状の毛が密に生える。

分布： 国内では本州 (伊豆七島、東海地方、紀伊半島)、四国、九州に分布。県内では伊賀、南勢地域に分布する。

現況・減少要因： 伊勢市では数か所の生育地を確認しているが、県内での調査は不十分なため、他の生育地における現状は不明である。今後の調査により新たな生育地の発見も期待できる。樹林下だけでなく、山地の林縁などにもみられ、道路拡張などの開発による消失が懸念される。

保護対策： 生育地の地形と森林を保全することが必要である。

特記事項： ウスギムヨウランとは花期の違いや唇弁の毛の違いで見分けることができる。



(中馬千鶴)

ボウラン

Luisia teres (Thunb.) Blume

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：NT

近畿：A (CR)

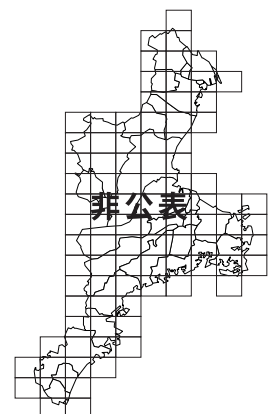
選定理由： 既知の生育地点数は10以下であり、各地点の個体数は50未満である。

種の概要： 常緑の着生ラン。茎は多年生では灰褐色。葉は円柱形緑色、長さ8 cm。花期は7~8月、茎から短い花茎を出し、2~5個の花をつける。クロマツやカキノキなどの樹幹に着生する。

分布： 国内では本州 (和歌山県、三重県)、四国、九州、沖縄。県内では紀州地域に分布。

現況・減少要因： 里山のカキノキや神社の着生樹の伐採により減少している。ときには、暴風により株が落下することもある。また、里山管理が放棄されることにより急激に減少することが予想される。

保護対策： 着生樹は伐採せずに保護することである。



(花尻 薫)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

フウラン

Neofinetia falcata (Thunb.) Hu

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: VU

近畿: A (CR)

選定理由: 既知の生育地点数は10程度、個体数はいずれの生育地でも少なく、採取圧が強い。

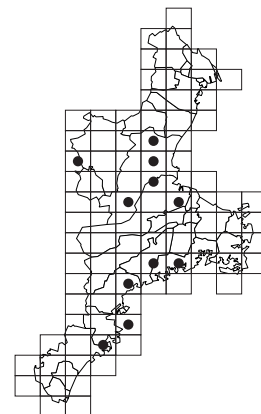
種の概要: 暖地の樹幹や岩石上に着生する。根は細長く四方に走る。革質の葉鞘で密に覆われる。葉は多肉質で湾曲する。6~7月に白色花をつける。

分布: 国内では本州(関東南部以西)から沖縄。国外では朝鮮半島、中国に分布。県内では伊賀、中勢、南勢、紀州地域での記録がある。

現況・減少要因: 園芸目的の採取や着生木となる木の伐採により激滅している。県内には絶滅した生育地も散見される。

保護対策: 採取対策が必要であり、生育地の詳細な情報は公開しない方がよい。

特記事項: 松阪市、紀北町紀伊長島区の生育地は天然記念物に指定されている。



(岡 與一)

ヨウラクラン

Oberonia japonica (Maxim.) Makino

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: —

近畿: A (CR)

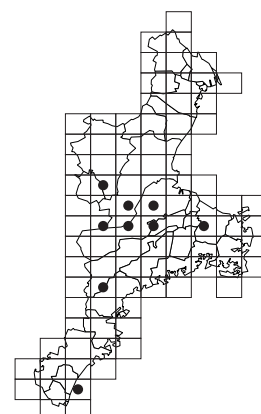
選定理由: 既知の生育地点数は10以下、各生育地の個体数は50未満である。採取圧により減少傾向にある。

種の概要: 樹幹または岩上に着生する。茎の長さ1~4 cmで東生し、下垂する。葉は4~10個左右から互生し、長さ1~3 cm、巾2~5 cm。4~6月淡黄褐色の小花を密につける。

分布: 国内では本州(宮城県以南)から沖縄に分布。県内では伊賀市、名張市、津市、松阪市、多気町、伊勢市、大台町、尾鷲市、御浜町で記録がある。

現況・減少要因: 古い記録が多く、1990年以降の確認は多気町、御浜町、松阪市等からの報告がある。園芸栽培目的の採取や着生木の伐採等により激滅した。

保護対策: 採取対策を講じる必要があるが、現状では隠して守るしか術がない。



(岡 與一)

ウチョウラン

Orchis graminifolia (Rchb.f.) Tang et F.T.Wang

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: VU

近畿: C (VU)

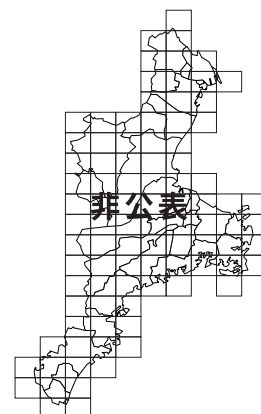
選定理由: 既知の生育地点数は10以下であり、各地点の個体数もかなり少ない。

種の概要: 山地の湿った岩壁などに生える高さ7~20 cmの多年草。葉は広線形で2、3個をつけ、茎は斜上する。花は6~8月に開き赤紫色である。唇弁は3深裂し、中裂片は楕円形で、大きさは側裂片と同じぐらいである。根は球状に肥厚する。

分布: 国内では関東地方以西、四国、九州、国外では朝鮮半島に分布。県内では菟野町、四日市市、亀山市、伊賀市、名張市、大台町、紀北町、熊野市で記録がある。

現況・減少要因: 亀山市、四日市市、大台町、紀北町、熊野市それぞれ1か所が確認されている。きわめて園芸採取圧が高く、大きな減少要因となっている。

保護対策: 園芸採取の対象種であり、人の手が届くようなところには柵をするなど、保護管理対策が必要である。



(市川正人)

維管束植物

蕨類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

コバノトンボソウ

Platanthera tipuloides (L.f.) Lindl. subsp. *nipponica* (Makino) Murata

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省:

近畿: C (VU)

選定理由: 既知の生育地点数は10以下であり, 各生育地の個体数も少ない。

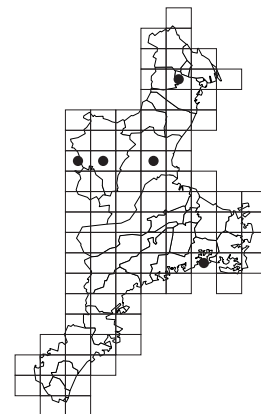
種の概要: 多年草。高さ20~40 cm, 葉は1個, 狭長楕円形から広線形, 巾3~10 mm。花期は6~8月。淡黄緑色の小花を数個偏側性につける。距は後方水平より上に開出する。長さ3~7 cm。

分布: 日本全土。暖温帯から冷温帯。県内では菰野町, 伊賀市, 津市, 南伊勢町などに分布する。

現況・減少要因: 日当たりの良い湿地に生えるが, そうした立地は高茎草本などの侵入も早く, 遷移の進行により, 絶滅したところもある。また採取圧も減少要因となっている。

保護対策: 本種の生育する環境は, 他にも絶滅の危険性の高い種が多く, 植生遷移の進行等環境変化圧の軽減に努めるとともに, 採取圧から守るために分布情報の公表には慎重な配慮が必要である。

文献: 69.



(葛山博次)

トキソウ

Pogonia japonica Rchb.f.

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省: NT

近畿: C (VU)

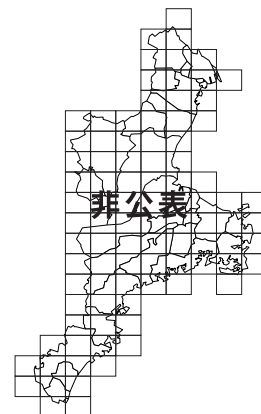
選定理由: 既知の生育地点数は10以上だが, 観賞, 園芸目的の採取圧が強い。さらに, 土地開発によって生育場所である湿地の減少が著しい。

種の概要: 日当たりの良い湿地に生える小形の多年草。茎の高さは10~30 cm。茎の中ほどに葉を1枚つける。花は淡紅紫色で, 5~6月頃茎に頂生し, 横向きに開き, その基部には葉状の苞をつける。類似種のヤマトキシソウは, 花が小さく上向きにつき, 花弁がほとんど開かないので区別できる。

分布: 国内では北海道, 本州, 稀に四国と九州に分布。国外では朝鮮半島, 中国に分布。県内では北勢, 中勢, 伊賀地域に多いが, 志摩地域にも確認されている。

現況・減少要因: 以前は県内の丘陵地の湿地で普通に見られたが, 土地開発のために生育地が激減した。また遷移の進行によって被圧が強くなり個体数が減っている。

保護対策: 土地開発にあたっては, 本種が生育する湿地を保全し, 観賞・園芸目的の乱獲を防ぐ必要がある。



(武田明正)

ヤマトキシソウ

Pogonia minor (Makino) Makino

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省:

近畿: C (VU)

選定理由: 既知の生育地点数は10以下であり, 各生育地の個体数も少ない。

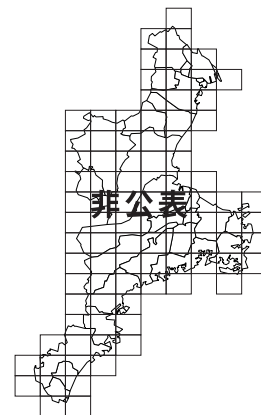
種の概要: 多年草。高さ10~20 cm。花は6~8月, 茎の先端に1個つき淡紅色から白色。花被片はそり返らず, 唇弁も花被片に包まれ, 先端だけわずかに外に出る。3裂した中央裂片の巾は, トキシソウの唇弁に比べて狭い。

分布: 日本全土。国外では台湾, 朝鮮半島。県内では菰野町, 亀山市, 鈴鹿市, 伊賀市, 名張市, 津市, 伊勢市などの暖温帯から冷温帯の丘陵や山間の湧水湿地に分布する。

現況・減少要因: 生育地の開発, 大形草本の侵入・繁茂などで生存が脅かされている。また, 採取圧も減少の要因となっている。

保護対策: 生育地の大形草本などの刈取りによる植生遷移の停止。開発や採取などの人為圧の排除が望まれる。さらに, ラン科植物の分布情報は園芸目的の採取の手助けとなるので, 公表に際しては慎重な配慮が必要である。

文献: 69, 81.



(葛山博次)

ムカデラン

Sarcanthus scolopendrifolius Makino

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：VU

近畿：A (CR)

選定理由： 既知の生育地点数は10以下であり、各地点の個体数は50未満である。

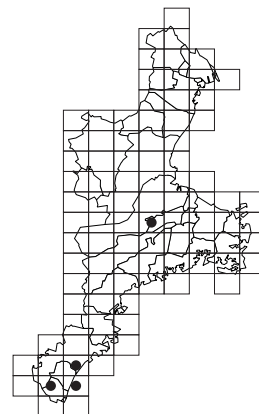
種の概要： 常緑の着生ラン。日当たりのよい岸壁や樹幹上に生える。茎はやや灰褐色、分枝が少なく、所々より太い糸状の根を出す。6~8月に花茎を出し1花をつける。

分布： 国内では本州（岩手県以南）、四国、九州。県内では松阪市と紀州地域（熊野市、御浜町、紀宝町）に分布。

現況・減少要因： 水田や河畔の着生樹を、農業用の道路の敷設のために伐採するので減少している。また、老木になり枯死するものもみられる。

保護対策： 着生樹の保護や、切り倒しを防ぐ方法を所有者に喚起することが必要。

特記事項： 松阪市の生育地は国天然記念物。



(花尻 薫)

クモラン

Taeniophyllum glandulosum Blume

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：

近畿：

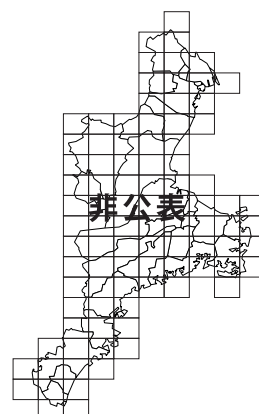
選定理由： 既知の生育地点数は10以下であり、最近の情報が少ない。

種の概要： 長さ2~3 cmの灰緑色の根を放射状に束生し、樹幹に着生する多年草。6~7月に根の中心から短い花茎を出し小さい花を咲かせる。

分布： 国外では朝鮮半島、中国、ヒマラヤ。国内では本州（関東地方以西）から九州。県内では伊賀市、津市、松阪市、南伊勢町、尾鷲市、紀宝町で生育の記録がある。

現況・減少要因： 現在はっきりしている生育地ではウメの木などに着生している。減少しているかどうかは不明であるが、もともと生育地は少ない。

保護対策： 生育地での土地開発や着生樹木の伐採などは避けることが大切である。



(山路武夫)

ヒトツボクロ

Tipularia japonica Matsum.

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

旧県：

環境省：

近畿：準 (NT)

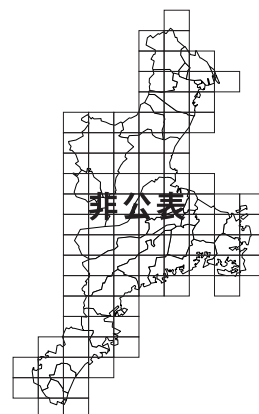
選定理由： 既知の生育地点は5か所。個体数はどの生育地も10未満。園芸採取による採取圧が強い。

種の概要： 暖温帯域の森林の林床に生える多年草。偽球茎は球状に肥厚し1個の葉と花茎を出す。葉は狭卵形で先は尖り、基部は浅心形。表面は光沢のある深緑色、裏面は紅紫色を帯びる。花茎は細く高さ20~30 cm、5~6月黄緑色の小さな花を総状につける。

分布： 本州、四国、九州、朝鮮に分布する。県内では亀山市、菰野町、津市、松阪市、紀北町から記録されている。

現況・減少要因： 紀北町の記録は古く、現況は不明。他は最近確認された生育地で、いずれも個体数はわずかであるが、今のところ健在。ニホンジカの食害や園芸採取目的の乱獲による個体数の減少が懸念される。

保護対策： ニホンジカの食害を軽減すること、自生地情報は公表しないことなどの対策が必要。



(山本和彦)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

リュウビнтаイ

Angiopteris lygodiiifolia Rosenst.

シダ植物 リュウビнтаイ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

近畿：C (VU)

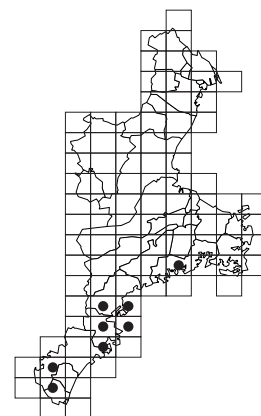
選定理由： 既知の生育地点数は10以上であるが、採取圧による減少が著しい。

種の概要： 葉の高さ2 mにもなる大型の常緑性シダ。根茎は太い塊状、托葉とともに直径30 cmに達する。葉は2回羽状複葉で小羽片は15~25対ある。

分布： 本州（伊豆以西）、四国南部、九州南部、沖縄。県内では南勢（南伊勢町）、紀州（紀北町、尾鷲市、熊野市、紀宝町など）に分布する。

現況・減少要因： 園芸用の採集が主たる減少要因。森林伐採による生育環境の悪化もみられる。

保護対策： 大型種でよく目立つので、誰にでも簡単に採取できる。地域で保護対策を講じないと絶滅のおそれがある。



(花尻 薫)

ホングウシダ

Lindsaea odorata Roxb.

シダ植物 ホングウシダ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

近畿：C (VU)

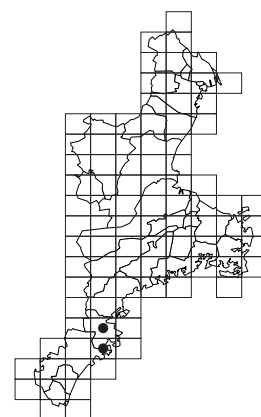
選定理由： 既知の生育地点数は10以下で、生育地間の個体の交流がない。

種の概要： 山地林下の溪流沿いの岩に着生する小形のシダ。根茎はやや長く這い、葉の長さ10~25 cm、葉身は単羽状。上部の羽片は次第に小さくなり葉の先端は尖る。

分布： 台湾、中国南部からアジアの熱帯。国内では伊豆諸島、紀伊半島南部、長崎県の一部、鹿児島県南部、沖縄。県内では紀北町、尾鷲市に限られている。全国的にも生育地が限定されている。

現況・減少要因： 尾鷲市の生育地では開発による環境の悪化が著しく、減少の一途をたどっている。また、水系周辺部の林道、レクリエーション施設の造成や水系での工事もさることながら、マニアによる採集圧も著しい。

保護対策： 市町当局はもとより工事業者への事前の届出・調査の周知・徹底もさることながら、マニアの採集をいかに防ぐかも課題の一つである。



(加田勝敏)

ヒノキシダ

Asplenium prolongatum Hook.

シダ植物 チャセンシダ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

近畿：C (VU)

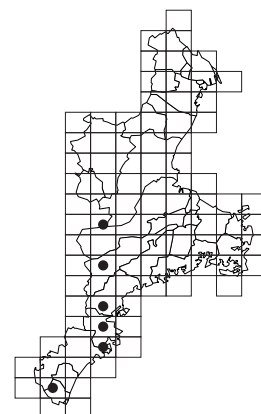
選定理由： 既知の生育地点数はおよそ15。各生育地の個体数は少ない。

種の概要： 常緑性。根茎は短く斜上から直立。鱗片をつけ、葉は叢生する。葉柄は緑色、長さ5~10 cm。葉身は狭長楕円形から披針形で10~20 cm。

分布： 本州（伊豆半島、静岡県天竜市、紀伊半島）、四国南部、九州。国外では朝鮮半島、台湾、中国、ベトナム、インド、スリランカに分布。県内では松阪市、大台町、紀北町、尾鷲市、熊野市、紀宝町に記録がある。

現況・減少要因： 愛好家による採取や林道の開設や林地開発により減少傾向にある。

保護対策： 継続的に生育状況を調査する必要がある。



(岡 與一)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

アツイタ

Elaphoglossum yoshinagae (Yatabe) Makino

シダ植物 ツルクジノオ科(Christenhusz et al. 2011: オシダ科)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：VU

近畿：B (EN)

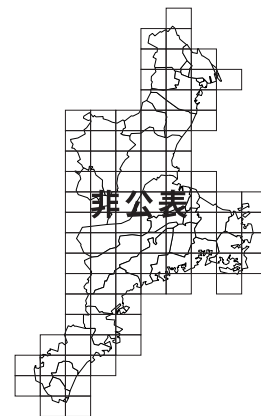
選定理由： 既知の生育地点数は10以上であるが、採取圧、開発圧などにより減少が著しい。

種の概要： 山林中のやや陰湿な岩上か樹幹に着く常緑性シダ。根茎は横走し、栄養葉の長さは5~10 cm。葉身は長楕円状披針形、長さ10~30 cm。

分布： 本州（関東以南）、四国、九州。県内では度会町、大紀町、大台町、紀北町、尾鷲市、熊野市、紀宝町に分布する。

現況・減少要因： 園芸用採取と森林伐採による環境の悪化により減少した。

保護対策： 生育地の公表には位置の明示を避ける必要がある。



(花尻 薫)

オシダ

Dryopteris crassirhizoma Nakai

シダ植物 オシダ科(Christenhusz et al. 2011: 同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：

環境省：

近畿：

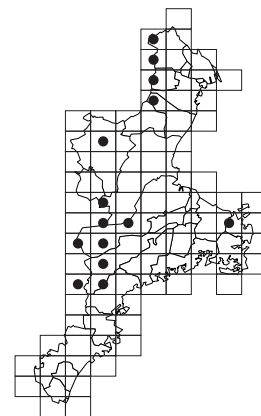
選定理由： 既知の生育地点数は30以下であり、ブナ・ミズナラ林が成立する山地では普通に見られるシダ植物であった。しかし近年、ニホンジカの食害により県内の生育地全域において個体数が激減し、なかには消滅した地域も見受けられる等、衰退が著しい。

種の概要： 温帯林の林床に生育し、しばしば群生する夏緑性の植物。根茎は直立して塊状となり葉を束生する。葉柄は短い、葉身は長く、長さ60~120 cm、幅20~30 cm、下部の羽片はしだいに短くなる。

分布： 北海道、本州、四国、朝鮮、中国東北部、ロシア東部に分布。県内では、いなべ市、菰野町、四日市市、鈴鹿市、亀山市、伊賀市、津市、松阪市、大台町、伊勢市から記録されている。

現況・減少要因： かつての群生地もニホンジカの食害により全滅に近い状況で、崖地や険しい急斜面の上部等、ニホンジカも容易に侵入できない地域にたろうじて生存している現況である。

保護対策： ニホンジカ等の植食野生獣の適正管理が必要である。



(山本和彦)

ミヤマベニシダ

Dryopteris monticola (Makino) C.Chr.

シダ植物 オシダ科(Christenhusz et al. 2011: 同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

近畿：

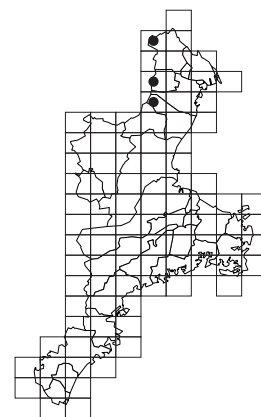
選定理由： 既知の生育地点数は10以下である。

種の概要： 羽軸や小羽軸に袋状鱗片はなく、葉身は2回羽状深裂または全裂で羽片の切れ込みは羽片全体と同程度である。列片の側脈は2~3に分岐する。また、根茎は横に這う。落葉広葉樹林の林床や林縁に生育する。

分布： ロシア、中国、朝鮮。国内では北海道、本州（愛知県南部から広島県北部以北）、四国、九州。県内ではいなべ市、菰野町、鈴鹿市で記録がある。

現況・減少要因： いなべ市2か所。過去にはいなべ市3、菰野町1か所の記録があるが、現状は不明である。森林伐採による生育環境の変化、道路・砂防堰堤の建設や自然の土砂崩壊による生育地の破壊で減少している。

保護対策： 生育地周辺の森林伐採や生育地にかかる道路・砂防堰堤建設等の開発行為を避ける。遷移の進行を止める保全策を行う。



(加田勝敏)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

オワセベニシダ

Dryopteris ryo-itoana Sa.Kurata

シダ植物 オシダ科(Christenhusz et al. 2011: 同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

近畿：

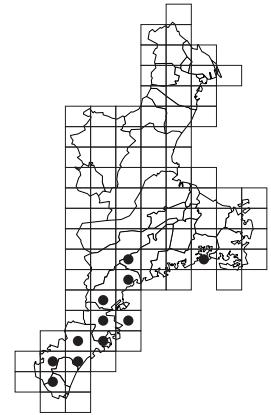
選定理由： 既知の生育地点数は10ほどであり、存続の基盤が脆弱である。

種の概要： 岩の多い山林下に生える常緑性のシダ。根茎は斜上し、塊状、葉柄にはやや密に鱗片がある。鱗片は茶褐色で近縁には微突起がある。葉身は三角状卵形で2回羽状複生、長さ40 cmをこえる。羽片はほとんど無柄。小羽片は羽軸に傾いてつき、包膜は全縁で中央部が紅色となる。

分布： 日本固有種。本州（岐阜県、紀伊半島、山口県）、四国に分布。県内では南勢、紀州地域からの記録がある。

現況・減少要因： 造林地の林床や岩場に点在し、とくに激滅している種でもないが、道路の拡幅工事や伐採等で生育環境が改変されている自生地も散見される。

保護対策： 自生地およびその周辺の森林の保全が必要である。



(山本和彦)

アミシダ

Stegnogramma griffithii (Hook.f. et Thomson) K.Iwats.
var. *wilfordii* (Hook.) K.Iwats.

シダ植物 ヒメシダ科(Christenhusz et al. 2011: 同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

近畿：C (VU)

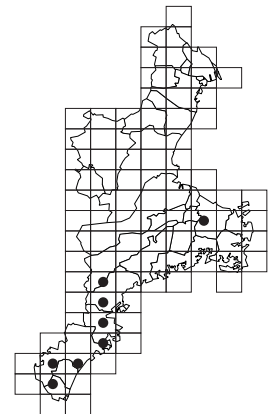
選定理由： 既知の生育地点数はおよそ20。採取圧がある。

種の概要： 常緑性。根茎は短く、斜上から横走り相接して葉をつける。全体に密毛がある。葉脈が不規則に結合して網目をつくる。普通は樹陰に生育している。

分布： 紀伊半島南部、四国南部、九州、沖縄。国外では台湾、中国南部に分布。県内では伊勢市、紀北町、尾鷲市、熊野市、紀宝町に分布。

現況・減少要因： 愛好家による採取圧や開発圧により、今のところ激滅はしていないが、減少傾向にある。

保護対策： 生育状況調査が必要である。



(岡 與一)

ミヤコイヌワラビ

Athyrium frangulum Tagawa

シダ植物 イワデンダ科(Christenhusz et al. 2011: 同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

近畿：C (VU)

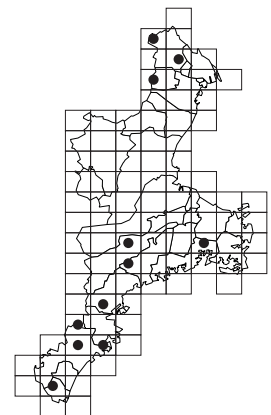
選定理由： 既知の生育地点数が10以下である。各地点の個体数は250未満である。

種の概要： 夏緑性でホソバイヌワラビよりさらに湿った所に生育するシダであるが、比較的光を好むようである。形態はホソバイヌワラビに似るが葉柄や中軸は紅紫色を帯び、小羽片はほぼ左右同形である。

分布： 国内では関東地方以西、四国、九州の多湿の林下・林縁に生育。県内ではいなべ市、桑名市、菰野町、大台町、南伊勢町、尾鷲市、熊野市、紀宝町に記録がある。

現況・減少要因： いなべ市藤原町1、桑名市多度町1、大台町2、南伊勢町1、尾鷲市2、熊野市3、紀宝町1か所で確認されている。土地造成、森林伐採による乾燥化が減少要因となる。

保護対策： 生息地の環境を現状のまま維持する必要がある。



(市川正人)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

サキモリイヌワラビ

Athyrium oblitescens Sa.Kurata

シダ植物 イワデンドク科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

近畿：—

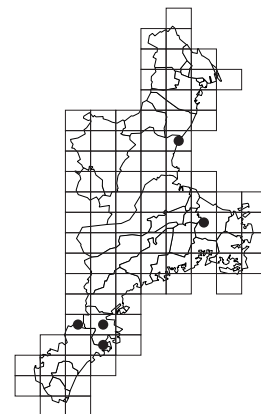
選定理由： 既知の生育地点数は10以下。各生育地の個体数は50未満である。今後の調査により新たな生育地が発見される可能性が高い。

種の概要： 山地の林下に生じる常緑性のシダ。タニイヌワラビに似るが、葉身はやや草質でやわらかく、やや厚みがあり、羽片には長さ2~3 mmの柄がある。

分布： 日本固有種。本州（新潟県以西の日本海側および東海、近畿地方）、四国（愛媛県）、九州北部。県内では中南勢、紀州地域に記録がある。

現況・減少要因： 津市河芸町、伊勢市、尾鷲市に標本記録があるが、現状不明である。森林の伐採などで減少する可能性はある。現状不明であるが、県内の個体数はそれほど多くないようである。

保護対策： 森林伐採時には注意が必要である。



(山脇和也)

フモトシケシダ

Deparia pseudoconilii (Seriz.) Seriz.

シダ植物 イワデンドク科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

近畿：—

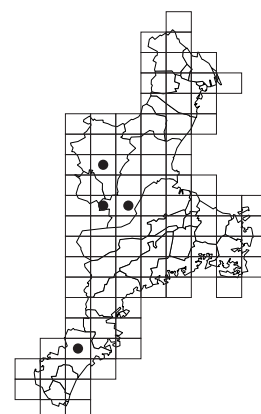
選定理由： 既知の生育地点数は5以下であり、各生育地における個体数も多くはない。主として里山に生育するため、道路建設などの開発行為にさらされやすい。

種の概要： ホソバシケシダに似ているが、根茎は長く這い、葉柄は紫褐色を帯び、葉身はやや三角状で最下羽片が最も長く、表裏両面に多細胞毛が多い。包膜は幅が狭く、有毛である。

分布： 本州（宮城県以南）、四国、九州に分布し、県内では伊賀市、津市、熊野市で記録がある。

現況・減少要因： 伊賀市2か所、津市1か所、熊野市1か所で記録があるが、いずれも現状は不明である。人里近くに生育していることが多い植物なので、開発により減少している可能性がある。

保護対策： 正確な現況を把握すると共に、生育地である里山の保全をする必要がある。



(芹沢俊介)

ミドリワラビ

Deparia viridifrons (Makino) M.Kato

シダ植物 イワデンドク科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

近畿：準 (NT)

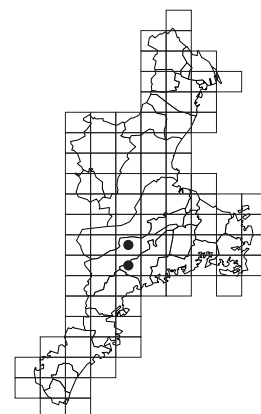
選定理由： 既知の生育地点数は5以下であるが、今後の調査により新たな生育地が発見される可能性が高い。

種の概要： 山地や低地の斜面などに生じる夏緑生のシダ。根茎は太く、短く這う。葉は三角形から三角状卵形、3回中裂から深裂する。小羽片の裂片は鋸歯が目立つ。小脈は2岐のものもまじえる。羽軸の翼は狭い。オオヒメワラビに似る。

分布： 本州（日本海側にはない）、四国、九州。国外では朝鮮半島南部、中国中部にも記録。県内では、大台町宮川に生育する。

現況・減少要因： 大台町総門山と島谷に生育するが、森林の伐採や公園整備が進み減少が心配される。

保護対策： 総門山一帯は、他にも貴重な植物が生育しているので、森林の伐採や林道整備などの禁止や、ニホンジカの防護柵などを設置するなどの適切な保護がなされるべきである。



(山脇和也)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

シマシロヤマシダ

Diplazium doederleinii (Lueruss.) Makino

シダ植物 イワデングダ科(Christenhusz et al. 2011: 同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

近畿：C (VU)

選定理由： 既知の生育地点数は10数か所であるが、近年洪水等で個体数が激減している。

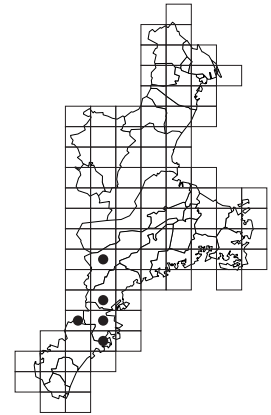
種の概要： シロヤマシダに似ているが葉面は黒緑色。裂片の先は平円形で僅かに低歯がある。胞子嚢群ソーラスは中肋近くにつく。スギ林、ヒノキ林下に群生する。

分 布： フィリピン、インドシナ、中国、台湾。国内では本州（愛知県以西）、四国、九州、琉球列島に分布する。県内では大台町、紀北町、尾鷲市、尾鷲市、熊野市に記録がある。

現況・減少要因： 近年の森林伐採により群落が消失した生育地がある。森林伐採による環境破壊により減少している。

保護対策： 生育地周辺の森林伐採等は事前に届出等の義務が必要である。

文 献： 80, 115.



(大洞浩一)

スジヒトツバ

Cheiropleuria integrifolia (D.C.Eaton ex Hook.) M.Kato, Y.Yatabe, Sahashi et N.Murak.

シダ植物 スジヒトツバ科(Christenhusz et al. 2011: ヤブレガサウラボシ科)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

近畿：C (VU)

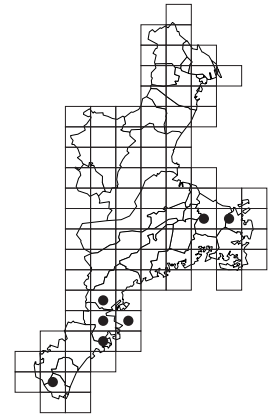
選定理由： 既知の生育地点数はおよそ20。生育環境の悪化により一部生育地では減少している。

種の概要： 常緑性。根茎は短く横走り径1 cm以上。根につく毛はやわらかく、淡褐色から白色でやわらかい。葉は葉柄基部をのぞいて無毛、表面は平滑である。比較的うっ閉した林内に生育する。

分 布： 伊豆諸島、静岡県、紀伊半島、四国南部、九州（西南部）、沖縄、国外では中国南部、インドシナからマレーシア、ニューギニアに分布。県内では伊勢市、紀北町、尾鷲市、紀宝町に分布。

現況・減少要因： 一部の生育地では開発、森林伐採により減少している。マニアによる乱獲も減少要因のひとつである。

保護対策： 常に生育状況を把握していく必要がある。



(岡 與一)

ホテイシダ

Lepisorus annuifrons (Makino) Ching

シダ植物 ウラボシ科(Christenhusz et al. 2011: 同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：

環境省：

近畿：

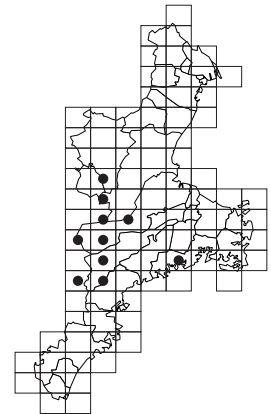
選定理由： 既知の生育地点数は10以下であるが、現認できた生育地は少ない。

種の概要： 山林下の樹幹や岩上に着生する。冷涼な地を好む。根茎は短く這う。葉は長さ10~25 cm位で中央部の少し下側が一番広い。淡緑色で葉質は薄い。胞子嚢群はやや中肋寄りにつく。

分 布 北海道、本州、四国、九州と広く分布する。県内では、松阪市、津市、名張市、南伊勢町、大台ヶ原山で確認されている。

現況・減少要因： 原生林の伐採や大木の枯死で減少が進んでいる。また、付着した岩石の崩落による減少も考えられる。

保護対策： 原生林の伐採は避ける。また、生育地の状況をよく現地で観察し対策をたてる。



(南 正祝)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

コウラボシ

Lepisorus uchiyamae (Makino) H.Itô

シダ植物 ウラボシ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

近畿：C (VU)

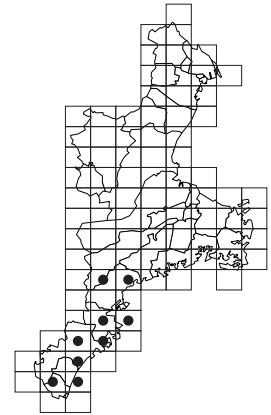
選定理由： 既知の生育地点数は10以上となっているが、最近採取圧により減少傾向にある。

種の概要： 常緑性で根茎は横走り、やや密に鱗片をつける。葉質はやや多肉の革質淡緑色。鱗片は狭披針形から線形。鋭尖頭の先端に向けてより狭くなる。

分布： 日本固有種。本州（伊豆半島、東北地方、紀伊半島、中国地方西部）、四国（瀬戸内海を除く）、九州、沖縄の海洋に近いところの岩上に着生する。県内では紀北町、尾鷲市、熊野市、御浜町に分布。

現況・減少要因： 紀州では々と生育しているが、多くの生育地では個体数は減少傾向にある。一部のマニアによる採取が原因と思われる。

保護対策： 地域住民への啓発を行い、採取防止をはかる必要がある。



(岡 與一)

オオアカウキクサ

Azolla japonica (Franch. et Sav.) Franch. et Sav. ex Nakai

シダ植物 アカウキクサ科(Christenhusz et al. 2011:サンショウモ科)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：EN

近畿：準 (NT)

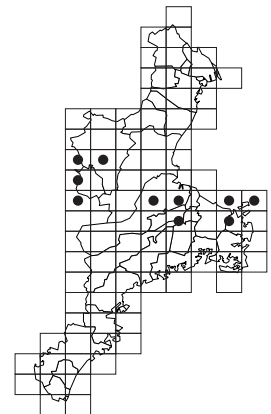
選定理由： 既知の生育地点数は10以下であり、生育地の湿田や浅い溜池は減少している。

種の概要： 水田や池沼の水面に広がって群生する。葉は赤色（時に緑色）で下側に根を何本か伸ばしている。根の根毛は早期に脱落するので古い根には残っていない。

分布： 本州、四国、九州。県内では伊賀市、名張市、松阪市、伊勢市、鳥羽市に記録がある。

現況・減少要因： 昔ながらの湿田や溜池に生育しているが、農薬の使用や乾田化、耕作放棄などで減少している。

保護対策： 生育地である湿田や溜池を大切に、人が関わっていくことが大切である。



(山路武夫)

ウラジロモミ

Abies homolepis Siebold et Zucc.

裸子植物 マツ科(Christenhusz et al. 2011:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

近畿：—

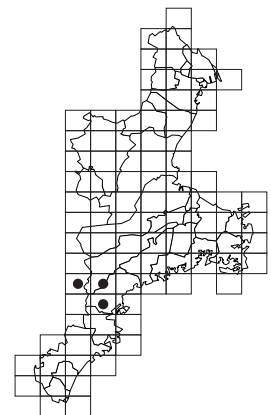
選定理由： 既知の生育地点数は5以下。分布が高標高地に限定され、近年、野生獣の食害ほか、多様な要因によって個体数が減少している。

種の概要： 高木性常緑針葉樹。樹高30 m以上、幹の直径は1 mを超えるときがある。葉は線形、長さ1.0~2.5 cmで扁平。葉裏には白色の気孔帯が2本目立つ。球果は前年枝に腋生、直立してつく。成熟時は紫黒褐色になる。類似種のモミと異なり、苞鱗は種鱗からほとんどでない。

分布： 日本固有種。本州（福島県以南、中部山地、紀伊半島）、四国の高標高地に分布。県内では大台町や尾鷲市（大台ヶ原山の標高1,500 m以上）に分布するが、同属のモミの分布域との境界は明確でない。

現況・減少要因： 紀伊半島では、トウヒに比較して分布域が広い。しかし生育地が高標高地に局限されている。近年、人為的要因（林種転換）、自然要因（台風害、野生獣の食害）などによって個体数が減少している。

保護対策： 生育場所は吉野熊野国立公園域。大杉谷生態系保護地域内であるが、現存する母樹や稚幼樹に対する野生獣の食害に対策を講じる必要がある。



(武田明正)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ハイイヌガヤ

Cephalotaxus harringtonia (Knight ex J.Forbes) K.Koch var. *nana* (Nakai) Rehder

裸子植物 イヌガヤ科(Christenhusz et al. 2011: 同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

近畿：

選定理由： 既知の生育地点数は10以下であり、各生育地とも個体数は少ない。

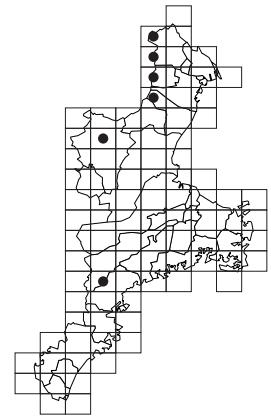
種の概要： イヌガヤの変種で、基部から傾いて生え、高さ2 mほどである。種子は楕円形で、淡紅紫色に熟す。日本海側や多雪地帯に適応した生態を示す。

分布： 日本固有種。国内では北海道、本州、四国。県内では鈴鹿山脈の北・中部、伊賀の各地域および台高山脈の冷温帯に分布する。

現況・減少要因： 自然林に近い冷温帯林の下生樹として生育する。上層木が薪炭材、パルプ材として伐採された地域では減少している。

保護対策： 生育域の冷温帯林の伐採、土砂、岩石等の採掘により立地の破壊等が行われることのないよう配慮すべきである。

文献： 45, 81, 139.



(葛山博次)

チャボガヤ

Torreya nucifera Siebold et Zucc. var. *radicans* Nakai

裸子植物 イチイ科(Christenhusz et al. 2011: 同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

近畿：

選定理由： 既知の生育地点数は10以下。各生育地とも生育密度は低い。

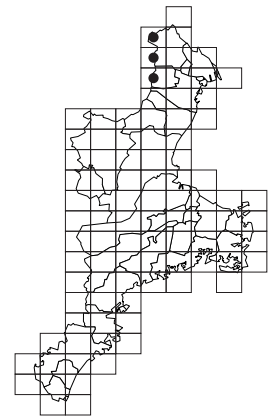
種の概要： 低木性常緑針葉樹。カヤの変種で主に日本海側の多雪地帯に分布。幹、枝は地についたところから発根する。根際から斜上枝を多くだし、やぶ状になる。

分布： 日本固有種。天然分布の北限は新潟県、南限は四国(石鎚山)。県内ではいなべ市(藤原岳、御池岳)、菰野町(御在所岳、鎌ヶ岳)など鈴鹿山地に分布する。

現況・減少要因： 北勢地域の山地を中心として点在。上層木が薪炭材、パルプ材などとして伐採されてきた樹林(里山林)を含め、樹林の下生樹として生育する。しかし、個体数が少ないうえ、近年は野生獣の食害などによって個体数が減少している。

保護対策： 主な生育地は鈴鹿国定公園域だが、植食獣による食害に対策を講じる必要がある。

特記事項： いなべ市の「中津原の寝ガヤ」はチャボガヤの老樹と推察されるが精査が望まれる。



(武田明正)

サクラバハノキ

Alnus trabeculosa Hand. Mazz.

被子植物 [双子葉・離弁花] カバノキ科(APG III: 同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

近畿：C (VU)

選定理由： 既知の生育地点数は100以上であるが、土地開発の対象となる可能性が高い湿地等に生育が限られている。

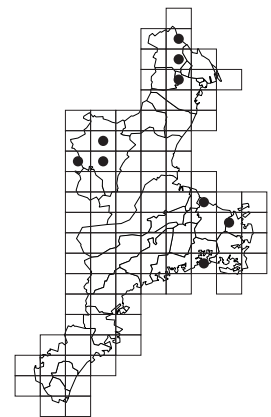
種の概要： 湿地に生える落葉高木。樹高15~20 m程度、樹皮は暗灰褐色。葉は卵状楕円、長楕円形で細鋸歯があり、鋸歯の先に腺点がある。葉の先は急鋭頭から尖鋭頭。基部は円形から浅心形。側脈は9~12対。

分布： 国内では本州(茨城県、新潟県以西)、九州(宮崎県)。国外では中国(南東部)。県内では北勢地域(いなべ市、菰野町ほか)、南勢地域(鳥羽市、南伊勢町)、伊賀市。

現況・減少要因： ハノキ(*Alnus japonica*)と誤認されやすく、県内での本種の現状は不明のところが多い。北勢、南勢、伊賀の各地域で丘陵地の湿地周辺に生育する。これらの地域では土地開発により湿地が改変されることが多いため、個体数が減少している。

保護対策： 現在生育している湿地の保全が必要。また、現況把握の調査が必要。

特記事項： ハノキの萌芽枝の葉や若木の葉が本種の葉と似ているため、同定に注意を要する。



(武田明正)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

イヌブナ

Fagus japonica Maxim.

被子植物 [双子葉・離弁花] ブナ科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

近畿：

選定理由： 既知の生育地点数は10以上であるが、山地に限られ、個体数は多くない。未知の生育地は既知の生育地に比べ多くはない。

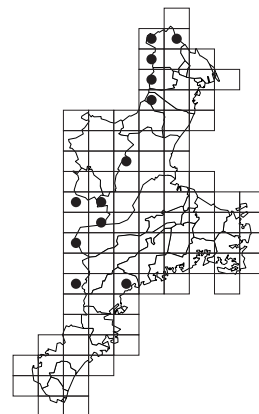
種の概要： 日本固有種。山地に生える落葉高木。樹高25 m、直径70 cmになる。樹皮は灰黒色で、いぼ状の皮目が目立つ。洋紙質の葉は、長さ5~10 cmで長楕円形から卵状楕円形。先は尖り基部はくさび形。

分布： 本州（岩手県以南）、四国、九州（熊本県以北）に分布。県内ではいなべ市（藤原岳）、菰野町（御在所岳）、鈴鹿市（入道ヶ岳）、伊賀市（奥山愛宕神社）、名張市、津市美杉町（三重大学演習林）ほか、暖带上部の山地に生育する。

現況・減少要因： 主に山地の中間温帯林に点在する。生育地である山林の多くがスギ、ヒノキの単純林に転換されたことにより、個体数が減少している。

保護対策： 自生地の多くは国定公園域で山林の取り扱いに制限が加えられている。

特記事項： 自生地のひとつ奥山愛宕神社の社叢林は三重県指定の天然記念物として保護されている。



(武田明正)

ハママツナ

Suaeda maritima (L.) Dumort

被子植物 [双子葉・離弁花] アカザ科(APGⅢ:ヒユ科)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

近畿：A (CR)

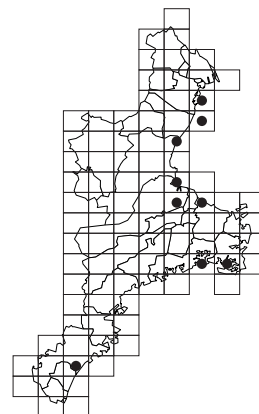
選定理由： 既知の生育地点数はおよそ15であるが、生育地の開発圧力の強い海辺である。

種の概要： 海岸の砂地に生育する一年草。茎は多く分枝して20~60 cmになる。葉は多く多肉質で無毛、秋に紅葉する。花期は9~10月、葉腋に小さい花をつける。

分布： 北半球に広く分布。国内では本州（宮城県以南）から九州。県内では四日市市、津市、松阪市、明和町、伊勢市、志摩市、南伊勢町、熊野市で記録がある。

現況・減少要因： 各地の海岸に点々と生育しているが、海岸の開発や護岸改修などで減少している。

保護対策： 海岸の開発や工事にあたっては、生物に配慮し、慎重に進める。



(山路武夫)

ヤナギイノコヅチ

Achyranthes longifolia (Makino) Makino

被子植物 [双子葉・離弁花] ヒユ科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

近畿：

選定理由： 既知の生育地点数は10以下。開発で消滅の可能性もある。

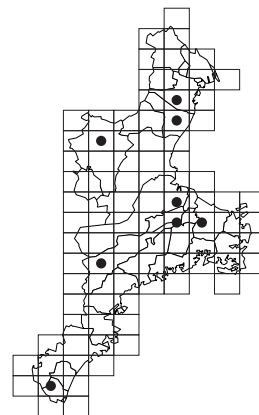
種の概要： 山地の木陰に生える多年草。茎は高さ1 mほどになり、まばらに枝を分ける。

葉は長さ10~20 cmで披針形で薄く、毛はほとんどない。花期は8~9月。

分布： 国内では本州（関東以西）から九州。国外では中国（本土、台湾）に分布。県内全域に記録がある。

現況・減少要因： 山地の木陰にみられる。現在、確実な生育地は北勢地域2、中勢地域2、南勢地域1、紀州地域1か所。過去のゴルフ場開発や林道の開発などによる環境の悪化が減少要因となる。

保護対策： 事前の詳細な調査など、開発時には配慮すべきである。



(山脇和也)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ユキワリイチゲ

Anemone keiskeana T.Itô ex Maxim.

被子植物 [双子葉・離弁花] キンポウゲ科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

近畿：

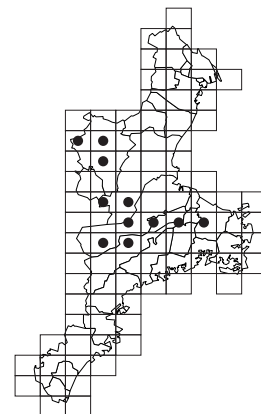
選定理由： 既知の生育地点数は10程度。各生育地の個体数はそれほど多くはなく、また開発圧が強い生育地もある。

種の概要： やぶ陰に生える多年草。根茎は横に這い、しばしば紫色を帯びる。先に1本の花茎と1~3枚の根出葉をつける。3月頃、径3~3.5 cmの花を1個花茎に頂生する。萼片は淡紫色。夏に地上部は枯れる。

分 布： 国内では本州西部から九州に分布。県内では津市、伊賀市、松阪市、多気町、度会町、大台町、伊勢市からの記録がある。

現況・減少要因： 県内では河畔林の林床やスギ林の林縁、神社の境内等に生育している。伐採や道路の拡幅工事等で減少した生育地もみられる。

保護対策： 河畔林の伐採や道路開発、土地造成には注意が必要。



(山本和彦)

イチリンソウ

Anemone nikoensis Maxim.

被子植物 [双子葉・離弁花] キンポウゲ科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

近畿：

選定理由： 既知の生育地点数は10以下で、各地点250未満の個体数しかなく、開発圧、採取等が懸念される。

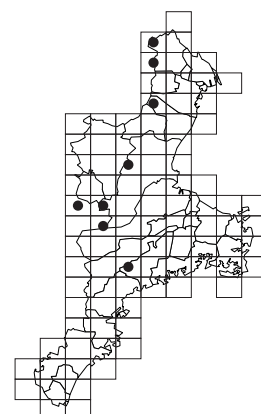
種の概要： 4~5月頃径4 cm位の花を茎頂に1個つける。これが一輪草の名の由来。茎や葉は早春に地上に出て、初夏には枯れる。

分 布： 日本固有種。本州、四国、九州の暖帯上部から温帯に分布。県内ではいなべ市、四日市市、菰野町、亀山市、名張市、大台町などで記録がある。

現況・減少要因： 林道拡幅工事、森林伐採等の土木工事が実施されると、その地点の個体は全滅する。生育地の地域住民の関心が低いことも減少の一因となる。

保護対策： 季節性が強く、時期を逸すると生育の有無が分からないので、調査は必ず4~5月に行う必要がある。採集圧よりも、工事による開発圧のほうが打撃が大きいため、工事前の調査を行うことが重要である。

文 献： 85.



(加田勝敏)

クサボタン

Clematis stans Siebold et Zucc.

被子植物 [双子葉・離弁花] キンポウゲ科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：

環境省：

近畿：

選定理由： もともと分布域の限られた種であるが、個体数が多いことから選定されていなかったが、土砂採取、石灰採掘等の開発があれば、容易に絶滅危惧種となってしまう危険性がある。

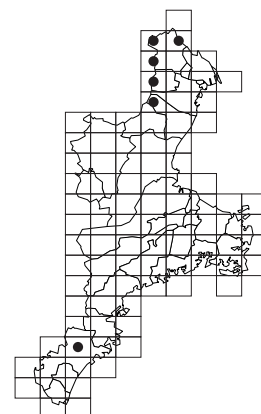
種の概要： 主に石灰岩地の山麓から山地の林縁や草地に生える。茎の下部は木質化して冬も残る。夏から初秋に茎頂や葉腋に集散花序をつけ、単性の淡紫色花をつける。

分 布： 日本固有種。本州に分布。県内では、いなべ市、菰野町、鈴鹿市、亀山市、熊野市に生育が確認されている。

現況・減少要因： 生育地の多くは石灰岩採掘や土砂の採取が行われている地域であり、さらにその範囲が拡大される危険性がある。

保護対策： 自治体が積極的にその地域の景観も含めた自然保護に関心をもって、行動に移さない限り、保護は難しい。

文 献： 34. 45. 85. 91.



(加田勝敏)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

トリガタハンショウヅル

Clematis tosaensis Makino

被子植物 [双子葉・離弁花] キンポウゲ科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

近畿：—

選定理由： 既知の生育地点数は10以上であるが、各地点50未満の個体数しかない。

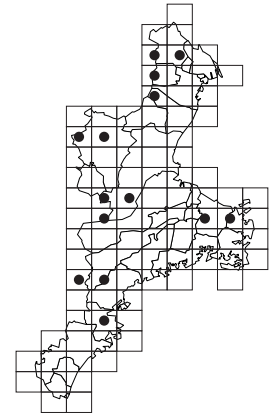
種の概要： 日当たりのよい林縁に生え、低木に絡んでいる。4~5月頃淡黄色の花をつける。

分布： 日本固有種。本州、四国の暖帯から温帯に分布。県内ではいなべ市、菰野町、亀山市、伊賀市、名張市、津市、松阪市、伊勢市、大台町、紀北町、尾鷲市で記録がある。

現況・減少要因： 県内での記録はあるが、よく成長した個体は少なく、林道幅や土砂崩れで減少するおそれがある。

保護対策： 各市町の土木担当者や関係業者に計画段階での調査を実施するように、啓発活動を行うことが望ましい。

文献： 57.



(加田勝敏)

トウゴクサバノオ

Dichocarpum trachyspermum (Maxim.) W.T.Wang et P.K.Hsiao

被子植物 [双子葉・離弁花] キンポウゲ科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

近畿：—

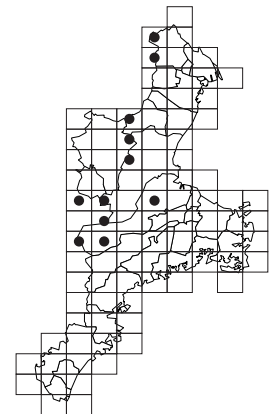
選定理由： 既知の生育地点数は10以上であるが、各生育地の個体数は50未満である。

種の概要： 暖帯林中に生える草本。地下茎は発達せず、茎は高さ10~20 cmで基部に数枚の根出葉は束生する。茎葉はすべて対生し、対になった葉の基部の梢は合着する。頂小葉は広卵形から倒卵形で3中裂し、鈍い鋸歯がある。花は全開せず、やや垂れ下がって咲き、径6~8 mm、萼片は5枚、花弁状で淡黄緑色から白色。萼片の内部にある花弁は小さく軍配形で黄色から橙黄色、先は多少内曲する。茎の基部に閉鎖花をつける。

分布： 国内では本州(宮城県以西)、四国、九州。県内ではいなべ市、亀山市、伊賀市、津市、松阪市に分布する。

現況・減少要因： 谷川沿いの湿地に生育するため、河川改修などで絶滅するおそれがあり、工事の際には注意が必要である。

保護対策： 生育地域を保全する。



(中馬千鶴)

ヘビノボラズ

Berberis sieboldii Miq.

被子植物 [双子葉・離弁花] メギ科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

近畿：C (VU)

選定理由： 既知の生育地点数は10以上であるが、未知の生育地数は既知の生育地に比べ多くはない。

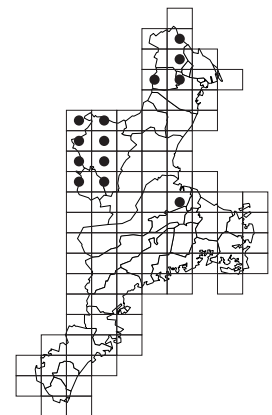
種の概要： 日本固有種。貧栄養の湿地とその周辺に生える落葉小低木。高さ50~70 cm。

葉は倒披針状長楕円形で、短枝に輪生状につく。5月頃、黄色の花が総状花序をつくる。

分布： 本州(中部地方南西部、近畿地方)、九州(宮崎県)に分布。県内ではいなべ市、菰野町、四日市市、鈴鹿市、津市、多気町、伊賀市、名張市。

現況・減少要因： 伊勢平野や伊賀盆地の丘陵地に形成された湿地とその周辺に生育する。これらの丘陵地における土地開発等の影響を受けやすい。

保護対策： 本種が自生している湿地とその周辺の丘陵地を保全する必要がある。



(武田明正)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

マツモ

Ceratophyllum demersum L.

被子植物 [双子葉・離弁花] マツモ科(APGⅢ:同)

三重県: 準絶滅危惧 (NT)

旧県:

環境省:

近畿:

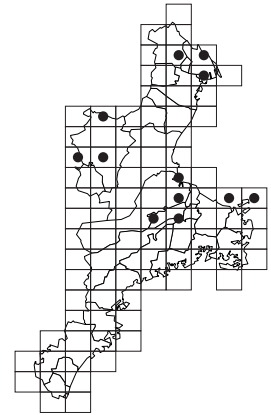
選定理由: 既知の生育地点数は20以下であり, 生育地は減少している。

種の概要: 湖沼, ため池, 水路などに生育する沈水性の多年草。多数分枝し5~10個の輪生葉を各節につける。根を持たず水面下を浮遊していることが多い。花期は5~8月。晩秋になると殖芽をつくり, これが水底に沈んで冬を越す。キンギョモとして知られる。

分布: 世界に広く分布。国内でも北海道から九州の琉球列島まで広く分布。県内では桑名市, いなべ市, 津市, 松阪市, 多気町, 玉城町, 鳥羽市, 伊賀市に記録がある。

現況・減少要因: 桑名市6, いなべ市1, 津市1, 松阪市1, 多気町4, 玉城町3, 鳥羽市1, 伊賀市2か所。伊賀市の記録は最新でも1972年であり, それ以降については不明。生育地である水田やため池の管理放棄に伴い減少している。

保護対策: 健全な生育地の維持管理に努める。



(中 優)

ヒコサンヒメシャラ

Stewartia serrata Maxim.

被子植物 [双子葉・離弁花] ツバキ科(APGⅢ:同)

三重県: 準絶滅危惧 (NT)

旧県:

環境省:

近畿:

選定理由: 自生地が台高山脈に限られ, ニホンジカの食害の影響も懸念される。

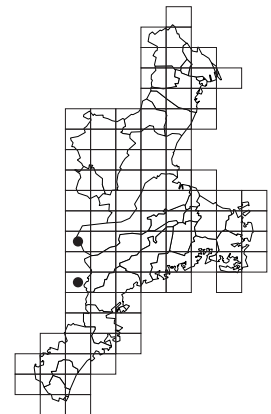
種の概要: 高さ15 mになる落葉高木。ヒメシャラに似るが本種の花は大きく, 径3.5~4 cm, 花期は7月。子房, 蒴果は無毛で冬芽は2枚の芽鱗よりなる。

分布: 神奈川県丹沢以西の本州, 四国, 九州, 済州島に分布する。県内では台高山脈の大台ヶ原周辺, 明神平, 桧塚奥峰周辺から記録されている。

現況・減少要因: 大台ヶ原周辺では古くは1917年の標本記録が存在するが, 当時の採集地が奈良県側か三重県側かは不明である。台高山脈の奈良県側や大峰山脈からは自生が報告されているが, 最近になり, 三重県側にも生育することが確認された。ヒメシャラとよく似ているので, これまで見過ごされてきたものと思われる。今後の調査により生育地が増加する可能性も高い。減少要因の一つとしてニホンジカの食害と森林伐採があげられる。

保護対策: 森林伐採の規制とニホンジカの食圧を軽減することが必要。

文献: 78, 79, 87, 100.



(山本和彦)

モウセンゴケ

Drosera rotundifolia L.

被子植物 [双子葉・離弁花] モウセンゴケ科(APGⅢ:同)

三重県: 準絶滅危惧 (NT)

旧県: 準絶滅危惧 (NT)

環境省:

近畿:

選定理由: 既知の生育地点数は100以下である。各生育地とも個体数は減少している。

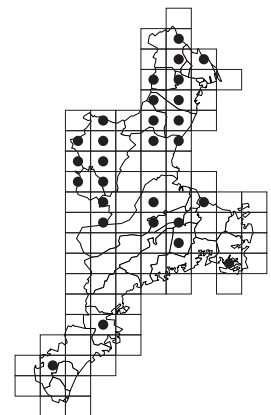
種の概要: 多年草。葉は円形で, 直径5~10 mm。基部は急に細くなり柄となる。葉面には多数の紅紫色の腺毛が生える。花茎は長さ6~25 cm, 10個余りの白花で, 直径数 mmの5弁花, 花期は6~9月。食虫植物。

分布: 日本全土ならびに北半球の冷温帯および亜寒帯。県内では北勢・中勢・南勢・伊賀の広い範囲に分布し, 紀州地域では尾鷲市と熊野市紀和町に点在する。

現況・減少要因: 生育地は耕地整理, 溜池や林道の改修, 土地開発等により消失したり, せばめられている。

保護対策: 生育地に対する土地改変などの人為圧を抑止することが急務である。

文献: 34, 43, 57, 69.



(葛山博次)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

トウカイコモウセンゴケ

Drosera tokaiensis (Komiya et C.Shibata) T.Nakam. et K.Ueda

被子植物 [双子葉・離弁花] モウセンゴケ科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

近畿：C (VU)

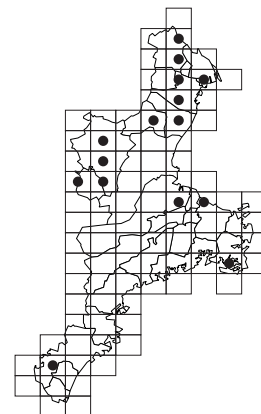
選定理由： 既知の生育地点数はおよそ20であるが、開発圧力の強い湿地に生育している。

種の概要： 日当たりのよい湿地に生育する多年草。葉には多くの腺毛があり虫を捕える。葉柄は細く葉はほぼ円形である。花期は夏で、根生葉の中心から伸びた花茎に淡紅色の花を順々に咲かせる。

分布： 国内では本州（天竜川以西の静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、奈良県、兵庫県）。県内ではいなべ市、桑名市、四日市市、鈴鹿市、亀山市、伊賀市、名張市、松阪市、明和町、志摩市、熊野市で記録がある。

現況・減少要因： 明るい湿地に生育しているが、湿地の開発で減少している。

保護対策： 湿地の開発は慎重に行う。



(山路武夫)

シコクハタザオ

Arabis serrata Franch. et Sav. var. *shikokiana* (Nakai) Ohwi

被子植物 [双子葉・離弁花] アブラナ科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：—

環境省：—

近畿：—

選定理由： 既知の生育地点は1。個体数は少ない。

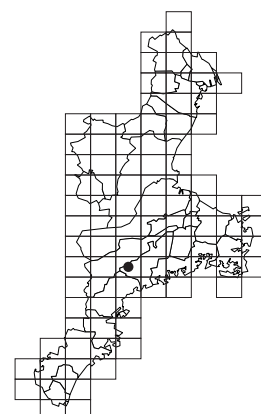
種の概要： 暖温帯上部から冷温帯域の岩上に生育する多年草。茎の葉の基部は矢じり形または心形で茎を深く抱く。根出葉は広倒披心形で柄が長い。花茎は斜上し、長角果は長さ7~9 cm、開出~下垂する。花期は4~5月、花は白色。

分布： 関東以西の本州、四国、九州に分布する。県内では大紀町から記録されている。

現況・減少要因： 落葉広葉樹林内の岩場に生育していることもあり、ニホンジカ等、野生獣の食害は免れている。個体数は少ないが開花個体も見られ、生育環境の激変がない限り個体群は維持されていくと思われる。

保護対策： 森林伐採の規制とニホンジカの食圧を軽減することが必要。

文献： 100。



(山本和彦)

コンロンソウ

Cardamine leucantha (Tausch) O.E.Schulz

被子植物 [双子葉・離弁花] アブラナ科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

近畿：—

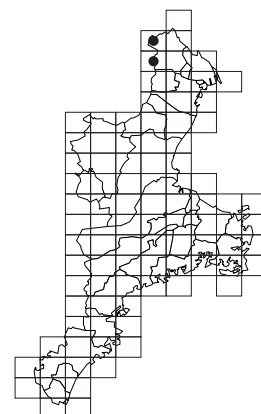
選定理由： 既知の生育地点は限られている。

種の概要： 山地や川辺の水湿地に生える多年草。「崑崙草」と書かれるが、これは中国での呼び名ではない。群生してそろって花をつけると、まさに中国の崑崙山脈の雪のようにみえることに由来する。花期は4~6月。

分布： 国内では北海道から九州。国外では朝鮮半島、中国東北部、シベリア東部、樺太など。県内ではいなべ市藤原岳周辺のみ。

現況・減少要因： 藤原岳一帯に生育するが、道路整備や土砂崩れなどにより多少減少傾向にある。

保護対策： 圃場整備や用水路を造る時、群落を避ける必要がある。



(山脇和也)

維管束植物

蕨類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ミズタガラシ

Cardamine lyrata Bunge

被子植物 [双子葉・離弁花] アブラナ科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：

環境省：

近畿：

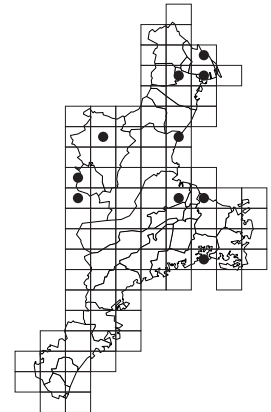
選定理由： 既知の生育地点数は10を越えるが、個体数は少なく、湿地開発などで減少傾向にある。

種の概要： 水湿地に生える高さ30~60 cmの多年草。茎は花期に立っているが、後に倒れるとともに基部から長い走出枝を伸ばす。葉は小葉7~13枚の羽状複葉、頂小葉は幅6~20 mmの卵円形、側小葉は小さい。4~5月に花弁長8~10 mmのタネツケバナのような白花を咲かせる。果実は無毛で2~3 cm、果柄は長く、開出する。

分 布： 国内では関東以西の本州、四国、九州に分布。県内では桑名市、菰野町、津市、伊賀市、名張市、松阪市、明和町、伊勢市、南伊勢町で記録がある。

現況・減少要因： 桑名市5、菰野町1、津市1、伊賀市1、名張市2、松阪市2、明和町1、伊勢市1、南伊勢町1か所。少なくとも桑名市1、桑名市多度町2、桑名市長島町1か所では現存している。植生遷移と湿地開発が減少要因となる。

保護対策： 湿地開発の際には自然に優しい持続可能な計画・施工が必要である。



(市川正人)

タキミチャルメルソウ

Mitella stylosa H.Boissieu. var. *stylosa*

被子植物 [双子葉・離弁花] ユキノシタ科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

近畿：

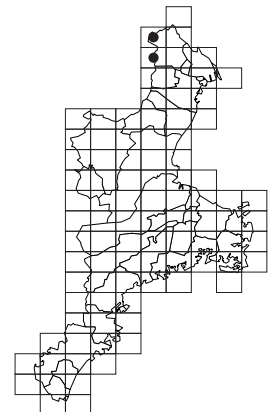
選定理由： 鈴鹿山脈北部一帯に分布するが、近年、登山者の増加により生育環境が狭められている。

種の概要： 山地の溪流沿いの湿った場所に生える多年草。花茎は高さ20~25 cm、腺毛を密生し、4月に多数の花を総状につける。花には花弁が5個あり、花弁が線形で羽裂しない。

分 布： 国内では岐阜県、滋賀県、三重県にまたがる鈴鹿山脈の一部と伊吹山に分布する。県内ではいなべ市の藤原岳、御池岳に生育する。

現況・減少要因： ごく限られた地域のみで生育し、個体数も少ない。近年の登山者の増加により登山道周辺の環境が悪化し、生育環境が狭められている。

保護対策： 藤原岳の鳴滝で発見された貴重な植物なので、地元の理解と協力を得て、生育地周辺の環境も含めて保護することが必要である。



(桐生定巳)

バイカアマチャ

Platycrater arguta Siebold et Zucc.

被子植物 [双子葉・離弁花] ユキノシタ科(APGⅢ:アジサイ科)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

近畿：

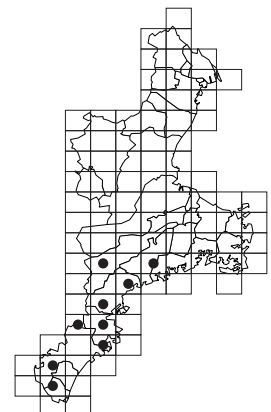
選定理由： 既知の生育地点数は10以下であり、各地点の個体数は250未満である。

種の概要： 落葉性の低木。茎は下部から分枝し、高さ1~2 mになる。葉は対生で長さ1~2.5 cmの柄がある。花期は7~8月、今年の花の先端に直径5~10 cmの集散花序をつける。花は白色。

分 布： 国内では本州（静岡県、愛知県、紀伊半島および中国地方）、四国、九州に分布。県内では南勢地域（大紀町、大台町）、紀州（紀北町、尾鷲市、熊野市、紀宝町）に分布。

現況・減少要因： 道路工事や急崖地の崩落などが減少の圧力になる。

保護対策： 林道工事や山林伐採の際、保護の啓発に努める必要がある。



(花尻 薫)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ツルキンバイ

Potentilla rosulifera H.Lév.

被子植物 [双子葉・離弁花] バラ科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：—

環境省：—

近畿：—

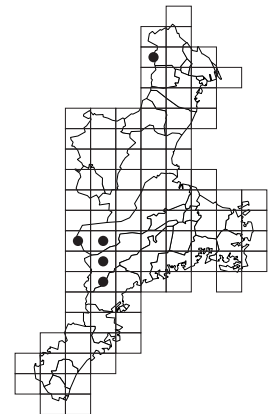
選定理由： 生育地が限定されており、個体数も各地点とも50未満である。

種の概要： 夏緑広葉樹林の林床に生える。細く長い匍枝を出す。5月頃、10~25 cmほどの花径を出して、径1 cmあまりの黄色花をまばらにつける。

分 布： 朝鮮・中国(東北部)、国内では本州(関東地方以西)・四国。県内の分布はいなべ市、大台町、松阪市、紀北町。

現況・減少要因： 採集圧もさることながら、石灰岩採掘等の環境破壊による全滅が懸念される。すでにそのための試掘等の調査が実施されている地域がある。

保護対策： 関係する自治体や住民の自然保護に関する理解と実行力が伴わない限り、保護する手段はない。



(加田勝敏)

バクチノキ

Laurocerasus zippeliana (Miq.) Browicz

被子植物 [双子葉・離弁花] バラ科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

近畿：—

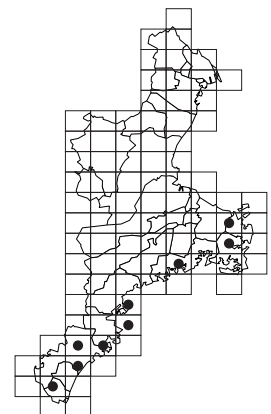
選定理由： 既知の生育地点数は10以上であるが、群落を形成することなく、いずれの生育地でも個体数は少ない。

種の概要： 常緑高木。高さ15 m、径1 mくらいになる。樹皮は灰黒色または灰褐色、外皮が鱗片状にはげて、その跡が紅黄色まだら状となる。花期は9月で、花は白色。バクチノキの名は、樹皮のはがれる様子を博打に負けた姿にたとえた。

分 布： 国内では本州(関東以西)、四国、九州、沖縄。国外では朝鮮半島(済州島)に分布。県内では伊勢市、鳥羽市、南伊勢町、紀北町、尾鷲市、熊野市、御浜町、紀宝町で記録がある。

現況・減少要因： 浅山に所々生育しているが、一般にはよく社寺叢の中に残っている。また、庭木としても植栽されている。減少要因としては、樹林の乱伐や庭木用の採取がある。

保護対策： 伐採や採取の防止と県内の生育状況の把握が必要である。



(岡 與一)

ハマナタマメ

Canavalia lineata (Thunb.) DC.

被子植物 [双子葉・離弁花] マメ科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

近畿：—

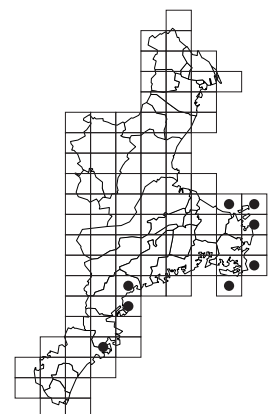
選定理由： 既知の生育地点数は10以上であるが、開発圧力の強い海岸に生育していることが多い。

種の概要： 外洋に面した海岸に生育する多年生のつる草。葉は丸い3小葉からなる。夏に淡桃色の花を咲かせ、秋には大きな豆果をつける。

分 布： 中国。国内では本州(太平洋側千葉県以西、日本海側山形県以西)から九州、小笠原。県内では鳥羽市、志摩市、紀北町、熊野市等で記録がある。

現況・減少要因： 県南部の海岸に生育しているが、海岸開発により生育地は狭められている。

保護対策： 海岸の工事にあたっては慎重に計画をすすめる。



(市川正人)

維管束植物
蕨類
苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

シバハギ

Desmodium heterocarpon (L.) DC.

被子植物 [双子葉・離弁花] マメ科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

近畿：

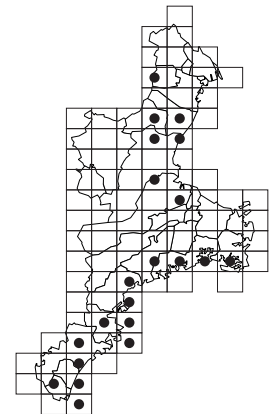
選定理由： 既知の生育地点数は10以上であり、県内全般に点々と分布するが、開発や土地の整備により減少の可能性がある。

種の概要： 道ばたや草原などのやや乾いた場所でみられる草本状の小低木。茎は根元でよく分枝し、地を這い、先が立ち上がる。また、灰白色のねた毛が生える。9～10月に紅紫色の花を咲かせる。果実は長さ1.5 cmぐらいで、4～6個の節がある。

分 布： 国内では本州（関東以西）から沖縄。県内では伊賀地域を除く県内全域。とくに紀州地域に多くみられる。

現況・減少要因： 草地の整備や開発による減少が懸念される。

保護対策： できるだけ生育地を保護することが必要である。



(山脇和也)

ミヤマトペラ

Euchresta japonica Hook.f. ex Maxim.

被子植物 [双子葉・離弁花] マメ科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

近畿：

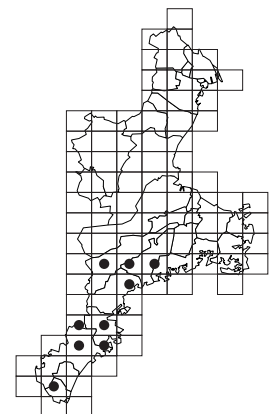
選定理由： 既知の生育地点数は10以上であるが、未知の生育地点数は既知の生育地に比べて多くはない。

種の概要： 常緑低木。暖地の樹林林床に生える。茎は斜上して高さ30～80 cm。葉は互生で長い葉柄（3～6 cm）の先に楕円形から倒卵形の小葉を3枚つける。葉は革質で表面につやがある。

分 布： 国内では本州（関東以西の太平洋側斜面、兵庫県、山口県）、四国、九州に分布。国外では朝鮮半島、中国に分布。県内では南勢地域（大台町、大紀町）と紀州地域（紀北町、尾鷲市、熊野市）で生育が確認されている。

現況・減少要因： 主に紀州地域の樹林地の林床にまれに生育する。本県では林業の盛んな地域に分布が限られているので、間伐や下刈りほか、保育作業の影響を受ける可能性が高い。

保護対策： 既知の生育地点での個体の保全が必要である。



(武田明正)

ニワフジ

Indigofera decora Lindl.

被子植物 [双子葉・離弁花] マメ科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

近畿：

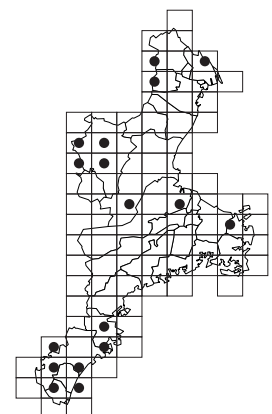
選定理由： 既知の生育地点数は10以上で、各地点250未満の個体数しかない。生育地が人里近くであり、生育地そのものが突然消失してしまう可能性もある。

種の概要： 本来は川岸の岸壁などに生育するが、栽培個体が逸出して人里の石垣などにもみられる。高さ30～40 cmの小形の低木。5～6月頃淡紅色花を総状につける。

分 布： 中国、台湾。国内では本州（中部、近畿地方）、四国、九州。県内では桑名市、いなべ市、菟野町、松阪市、伊勢市、伊賀市、尾鷲市、熊野市、御浜町で記録があるが、本来の自生かどうか疑わしいものもある。

現況・減少要因： 生育地の大半が人里にあって、休耕、耕作放棄等で既に環境が変化し、絶滅に瀕しているところがあるかもしれない。また、花をつける時期に草刈が行われるので、生育地を正しく把握することも難しい。

保護対策： 過去に生育が確認されている市町はもとより、同様の環境が存在する市町でも現況を把握する必要がある。



(加田勝敏)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

コミヤマカタバミ

Oxalis acetosella L.

被子植物 [双子葉・離弁花] カタバミ科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

近畿：—

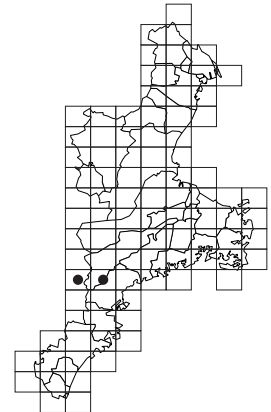
選定理由： 既知の生育地点数は5以下で、未知の生育地は既知の生育地に比べ多くはない。

種の概要： 亜高山の林下に生える小型の多年草。地下茎は細長く横に這い、先に1~数個の葉を束生する。葉柄は3~10 cm、小葉は幅7~12 mmで両縁は円形。花は5~6月、白色、脈は紫色。蒴果は卵球形で長さ3~4 mm。

分 布： 国内では北海道から九州。国外では朝鮮半島、千島、樺太、アジア等に分布。県内では大台町大杉谷や大台ヶ原山からの記録がある。

現況・減少要因： 大杉谷の上部の落葉広葉樹林や大台ヶ原山の針葉樹林下に広くみられるが、県内ではこの地域からの記録しかない。近年、大台山系もニホンジカによる食害が激しく、本種を含む多くの林床植物が激減している。

保護対策： ニホンジカ等の食植野生獣個体群の適切な管理が望まれる。



(山本和彦)

イワタイゲキ

Euphorbia jolkinii Boiss.

被子植物 [双子葉・離弁花] トウダイグサ科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

近畿：準 (NT)

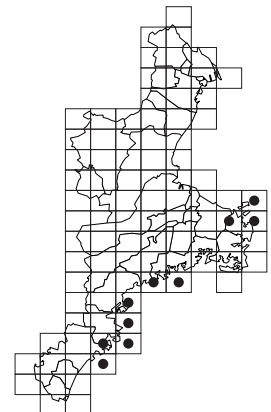
選定理由： 既知の生育地点数は10以下、各生育地の個体数は50未満であるが、調査が進めば新たな生育地が発見される可能性がある。

種の概要： 海岸の岩地や磯浜に生育する多年草。草丈は30~50 cm以上、互生葉を密につけ、茎頂に数葉を散状輪生する。花期は4~6月、杯状花序をつける。

分 布： 国内では本州（関東南部）から沖縄、国外では中国（台湾）、朝鮮半島南部に分布。県内では鳥羽市、大紀町、紀北町、尾鷲市、熊野市等で記録がある。

現況・減少要因： 護岸工事などで多くは消失し、わずかな個体が残存しているのを見ることがある。熊野灘沿岸の海岸に点々と生育すると思われるが、分布の詳細については未解明である。

保護対策： 現生育地の保全が必要である。また、海岸の岩地という調査困難な環境に生育するため、一個人の能力だけでは限界がある。熊野灘沿岸は未調査の地域も多くあるので、組織だった調査を実施する必要がある。



(岡 與一)

サワダツ

Eunymus melananthus Franch. et Sav.

被子植物 [双子葉・離弁花] ニシキギ科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：—

環境省：—

近畿：—

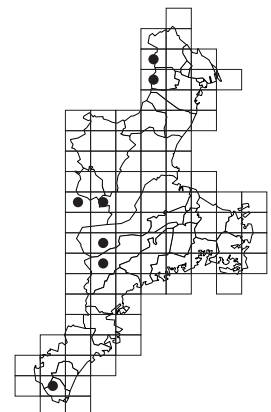
選定理由： 既知の生育地点は10以下である。

種の概要： 暖温帯から冷温帯にかけ、やや湿った林内に見られる。枝はすべて緑色で平滑、細い4条線がある。葉は薄く、卵形。托葉は線形、羽状に切れ込む。花期は、6~7月。総花柄に1~3の花をつける。花は5数性で、花弁は暗紫色。

分 布： 日本固有種で本州、四国、九州に生育する。県内では北から南まで点々と情報がある。

現況・減少要因： 比較的広い地域に生育するようだが、林道工事や森林の伐採や下刈りが減少要因となる。

保護対策： 森林の伐採や下刈りのとき気をつける。



(山脇和也)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ヒメミソハギ

Ammannia multiflora Roxb.

被子植物 [双子葉・離弁花] ミソハギ科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

近畿：C (VU)

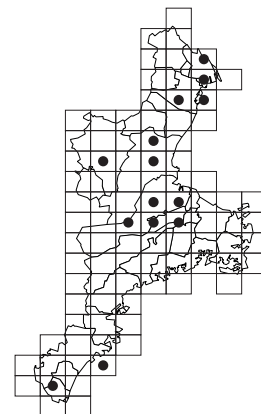
選定理由： 既知の生育地点数は20以上であるが、各地点の個体数は50未満である。

種の概要： 水田や湿地に生える一年草。茎は直立無毛，4稜があり，10～40 cmで枝を分ける。葉は広線形から披針状長楕円形でほとんど柄がなく，基部はやや耳状となって茎を抱き，長さ1.8～5 cm，幅2～12 mmである。9～11月頃，葉腋に淡紫色の花弁4個，径1.5 mmの花をつける。果実は約2 mmで萼より長く，光沢のある蒴果である。

分布： 国内では本州から九州，沖縄，国外ではアジア，アフリカ，豪州の亜熱帯から熱帯に分布。県内では桑名市，四日市市，伊賀市，津市，松阪市，多気町，熊野市，紀宝町で記録がある。

現況・減少要因： 桑名市2，四日市市1，伊賀市1，津市2，松阪市12，多気町1，熊野市1，紀宝町1か所，ほぼ県内全域にみられる。農業使用による減少が考えられる。

保護対策： 生育環境を改善維持する。



(市川正人)

ミズマツバ

Rotala mexicana Cham. et Schltdl.

被子植物 [双子葉・離弁花] ミソハギ科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：VU

近畿：C (VU)

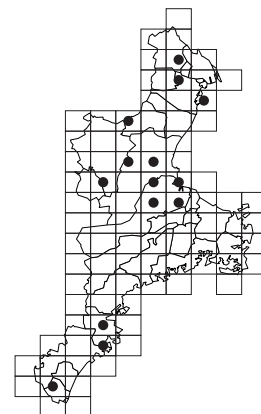
選定理由： 既知の生育地点数はおおよそ15であるが，水田の乾田化により減少傾向にある。

種の概要： 稲刈り後の水田などでみられる小さな一年草。草丈は3～10 cm，葉は線形から長披針形で6～10 mm，8～10月に小さな花を葉腋につける。

分布： 国外では極東，東南アジア，中央アジア，アフリカ。国内では本州から九州。県内ではいなべ市，四日市市，亀山市，伊賀市，津市，松阪市，尾鷲市，紀宝町で記録がある。

現況・減少要因： 湿性水田では県内分布域の各所でみられるが，耕地整理された乾田ではあまりみられない。

保護対策： すべてを乾田化せず，小さな湿性水田を各所に残しておく。



(市川正人)

イブキボウフウ

Libanotis ugoensis (Koidz.) Kitag. var. *japonica* (H.Boissieu) T.Yamaz.

被子植物 [双子葉・離弁花] セリ科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：

環境省：

近畿：A (CR)

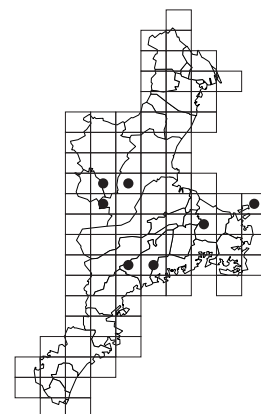
選定理由： 既知の生育地点数は10以下であり，開発圧が強い。

種の概要： 日当たりのよい草地に生育する多年草。茎は高さ30～120 cm，葉は2～3回羽状複葉で長さ5～30 cm，小葉はこまかく切れ込む。複散形花序は径3～6 cmで白色。花期は8～9月。

分布： 日本固有種。北海道，本州（近畿以東）に分布。県内では津市，名張市，伊勢市，鳥羽市，大紀町などで記録がある。

現況・減少要因： 現況も増減の傾向については不明である。この植物の生育環境は日当たりのよい草地で，人間の生活圏と競合する。そのため，人が気を付けないとこの草の減少につながる。

保護対策： 生育環境の日当たりのよい草地を守ることが大切である。宅地造成など土地改変を行う時には調査を行って，こうした植物への配慮をする必要がある。また，生育状況に関する調査も必要である。



(山路武夫)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ウメガサソウ

Chimaphila japonica Miq.

被子植物 [双子葉・合弁花] イチヤクソウ科(APGⅢ: ツツジ科)

三重県: 準絶滅危惧 (NT)

旧県: 準絶滅危惧 (NT)

環境省: —

近畿: —

選定理由: 既知の生育地点数は10以下であり, 各生育地とも個体数は少ない。

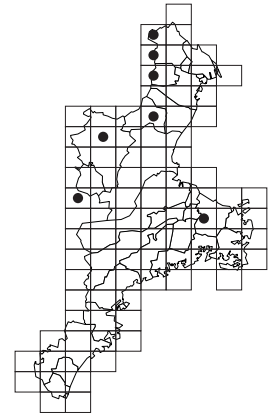
種の概要: 茎の高さは5~10 cm. 葉は楕円形で, 厚く光沢があり, 2~3枚かたまってつき対生や輪生のように見える。花は白色, 直径1 cm内外, 長い柄の先に1~2下向きに開く。花期は6~7月。

分布: 日本全土。国外では朝鮮半島, 中国, 樺太, 南千島の暖温帯から冷温帯。県内ではいなべ市, 菰野町, 亀山市, 伊賀市, 名張市, 伊勢市に分布する。

現況・減少要因: 山中に生える草のような常緑の小低木で, もともと生育個体数は少なく, 踏みつけや採取圧による影響を受けてさらに減少している。

保護対策: 採取圧や踏みつけなどの人為圧を排除するとともに, 生育地の植生の変化による消失も防ぐ必要がある。

文献: 34, 45, 69, 92.



(葛山博次)

カイナンサラサドウダン

Enkianthus sikokianus (Palib.) Ohwi

被子植物 [双子葉・合弁花] ツツジ科(APGⅢ: 同)

三重県: 準絶滅危惧 (NT)

旧県: 準絶滅危惧 (NT)

環境省: —

近畿: —

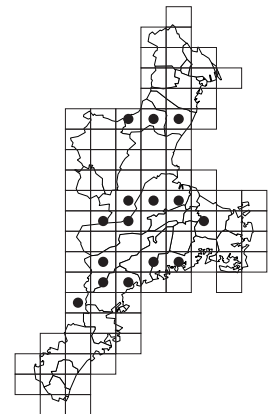
選定理由: 既知の生育地点数は10以上であるが, 植食獣の摂食により個体数の減少が著しい。

種の概要: 日本固有種。落葉低木。よく分枝し枝先に葉を輪生状につける。葉は倒卵形から広楕円形。長さ2.5~5 cm。花は5~6月に咲き, 鐘形の花冠は8~20個(類似種サラサドウダンは10個内外)。細長い総状花序(花軸長4~9 cm)をつくる。

分布: 本州(愛知県, 三重県, 和歌山県), 四国に分布。県内では鈴鹿市, 亀山市の北勢地域から紀州地域の山地や丘陵地に分布。

現況・減少要因: 北勢地域から紀州地域にかけて, 山地, 丘陵地に生育しているが, 野生獣の食害による枯損や園芸目的の採取によって個体数が減少している。

保護対策: 過度に繁殖した野生植食獣(ニホンジカ等)の個体数管理が必要である。



(武田明正)

イワナシ

Epigaea asiatica Maxim.

被子植物 [双子葉・合弁花] ツツジ科(APGⅢ: 同)

三重県: 準絶滅危惧 (NT)

旧県: 準絶滅危惧 (NT)

環境省: —

近畿: —

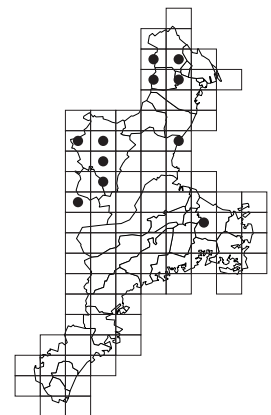
選定理由: 既知の生育地点数は10程度で, 250未満の総個体数しかなく, 生育地間の交流が分断されている可能性が高い。

種の概要: 山地林縁の斜面や崖に生育する常緑の小低木で茎には赤褐色の長毛が生え, 6月頃白から淡紅色の花を総状につける。

分布: 日本固有種。国内では北海道西南部, 本州(主として日本海側)。県内では桑名市, いなべ市, 菰野町, 四日市市, 津市, 伊賀市, 名張市, 伊勢市で記録がある。

現況・減少要因: 生育地の大半が人里近い里山であり, 開発のおそれがある。伊賀市では湿地や溜池の周辺部にも生育している。

保護対策: 花期が短く目立たない種なので, 市町の開発部署の担当者への周知徹底が重要である。



(加田勝敏)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

アカヤシオ

Rhododendron pentaphyllum Maxim. var. *nikoense* Komatsu

被子植物 [双子葉・合弁花] ツツジ科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

近畿：

選定理由： 既知の生育地点数は100以下である。採取の対象となる花木である。

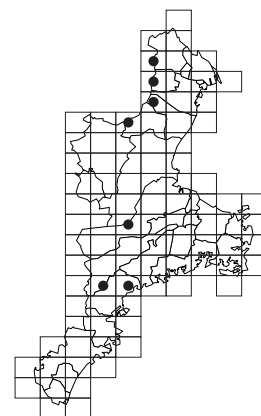
種の概要： 花期は4~5月、花柄に腺毛があるが、萼、子房、花柱は無毛。雄しべ10本のうち5本の基部に白毛がある。花は淡紅色。

分 布： 日本固有種。本州（福島以西）、四国、九州の冷温帯。県内では鈴鹿山脈および津市美杉町、紀北町、大台町に生育する。

現況・減少要因： 園芸用花木としての採取圧や林道改修などの人為圧により減少している。また、生育地の環境変化圧、とくに土石、岩などの崩壊の影響もみのがせない。

保護対策： 採取圧や林道改修などの人為圧を排除することが必要である。

文 献： 35. 57. 139.



(葛山博次)

カラタチバナ

Ardisia crispa (Thunb.) A.DC.

被子植物 [双子葉・合弁花] ヤブコウジ科(APGⅢ:サクラソウ科)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

近畿：

選定理由： 既知の生育地点数は10以下で、各地点の個体数も少なく、生育地間の交流が分断されている可能性が高い。

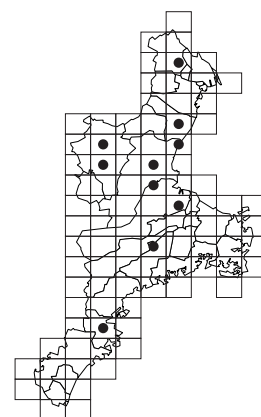
種の概要： 疎林内に生育する高さ1 m未満の小低木で、7月頃葉腋から出た4~7 cmの柄の先に散形に花をつけ、赤色の果実をつける。

分 布： 台湾、中国。国内では本州（千葉県、富山県以西）、四国、九州、沖縄。県内ではいなべ市、四日市市、鈴鹿市、津市、松阪市、伊賀市、大紀町、明和町、尾鷲市で記録がある。

現況・減少要因： 過去に栽培されたこともあり、丘陵や山地の疎林、林縁に多いため、知らずに開発されて減少することが多い。また、いずれの生育地でも個体数は少ない。

保護対策： 各市町の開発部署が最新の情報を把握するとともに、絶えず開発に対して目を光らせる体制づくりが必要である。

文 献： 30. 42. 57.



(加田勝敏)

ハマサジ

Limonium tetragonum (Thunb.) A.A.Bullock

被子植物 [双子葉・合弁花] イソマツ科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

近畿：C (VU)

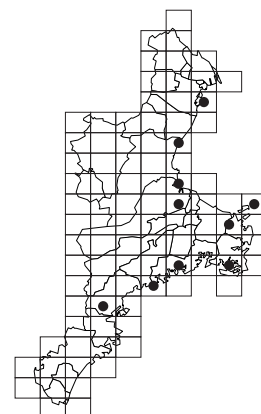
選定理由： 既知の生育地点数は10以上であるが、生育地は開発されやすい海岸の砂泥地である。

種の概要： 海浜の砂泥地に生育する越年草。葉は根ぎわに群生し、長楕円状へら形。花期は9~11月。群生する葉の中央から花茎をのぼす。花茎は分枝をくり返して、その先に黄色い頭花をつける。

分 布： 国外では朝鮮半島、中国東北部。国内では本州（三陸海岸以南の太平洋側）から九州。県内では四日市市、津市、松阪市、伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町、大紀町、紀北町で記録がある。

現況・減少要因： 伊勢湾中部から紀北町にかけての海岸に点在している。海岸の開発や工事で消滅したところもある。

保護対策： 海岸の開発は慎重に行う。



(山路武夫)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

クロミノニシゴリ

Symplocos paniculata (Thunb.) Miq.

被子植物 [双子葉・合弁花] ハイノキ科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：—

近畿：A (CR)

選定理由： 既知の生育地点数はおおよそ20であり、各生育地の個体数は50未満である。近年いくつかの新産地が確認されたため、NTに変更となった。

種の概要： 湿地近辺に生える落葉低木。樹皮は紙状に薄くはがれ、葉は長楕円形、先は急鋭尖頭、両面ほとんど無毛。花は白色で5~6月に開き、径約8 mm。果実は卵球形で黒く熟し、長さ6~7 mm。

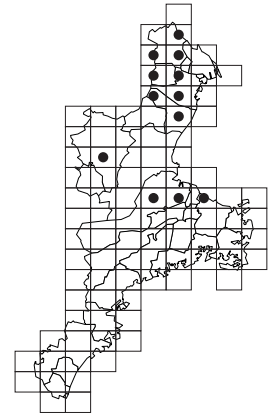
分布： 国内では本州（中部地方以西）に分布。県内では北勢、伊賀、中勢および南勢の北部地域に散見されるが、それより南の南勢、紀州地域には記録がない。

現況・減少要因： 県内ではおもに溜池の周囲や湿地近辺に認められる。池の埋め立てや改修、あるいは里山の管理が放棄されたことによる遷移の進行等で衰退した生育地もみられる。

保護対策： 溜池の改修工事にあたっては、事前に保全策を講じることが必要である。また池の埋め立てに際しては、貴重な動植物がみられる池は保全すべきである。

特記事項： 本種は、東海丘陵要素とよばれる種群と同様な分布パターンを示すものとして注目される。

文献：93.



(山本和彦)

ホウライカズラ

Gardneria nutans Siebold et Zucc.

被子植物 [双子葉・合弁花] マチン科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

近畿：準 (NT)

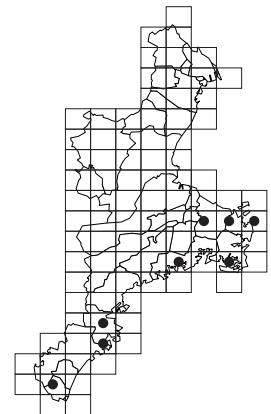
選定理由： 既知の生育地点数は10以下。各生育地の個体数は50未満である。

種の概要： 暖地の林内に生える常緑のつる性木。葉は革質で対生し、葉身は長楕円形。6~7月上旬の葉腋から長さ1~2 cmの花序をのぼして淡黄白色の1~2個の花をつける。腋果は球形で、約1 cmで赤熟する。

分布： 国内では本州（千葉県以西）、四国、九州の暖帯に分布。県内では南勢、紀州地域の林内。

現況・減少要因： 南勢地域以南の林内に点々と分布。国立公園内に位置する生育地もあるが、照葉樹林の伐採などにより減少する可能性もある。

保護対策： 暖地林の伐採や開発を避ける。



(山脇和也)

ハルリンドウ

Gentiana thunbergii (G.Don) Griseb. var. *thunbergii*

被子植物 [双子葉・合弁花] リンドウ科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

近畿：—

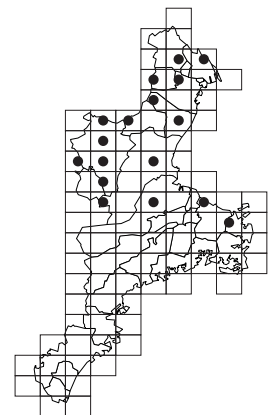
選定理由： 県内に広く分布するが、丘陵地の大規模開発や圃場整備事業、また、アカマツ林など里山林の荒廃などで安定した生育地が狭められた。

種の概要： 日当たりのよいやや湿り気のあるところに生える二年草。高さ約10 cmの茎の上部に青紫色の花を咲かせる。

分布： 国内では北海道、本州、四国、九州。県内では北勢、中勢、南勢、伊賀地域などの丘陵地から山地の日当たりのよい湿性の原野、池畔、地下水がにじみ出ている斜面などに生育する。

現況・減少要因： 本種は丘陵地から山地の湿地に多く分布している。これらの地域は大規模な開発が進み、一方では里山林の荒廃もみられ、その生育地に大きな影響が出ている。

保護対策： 生育地の確認と荒廃した里山林の再生による生育地環境の保全が必要である。



(桐生定巳)

維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

タチカモメヅル

Vincetoxicum glabrum (Nakai) Kitag.

被子植物 [双子葉・合弁花] ガガイモ科(APGⅢ:キョウチクトウ科)

三重県: 準絶滅危惧 (NT)

旧県: 準絶滅危惧 (NT)

環境省:

近畿: C (VU)

選定理由: 既知の生育地点数はおよそ20であるが、生育地の湿った草地は減少傾向にある。

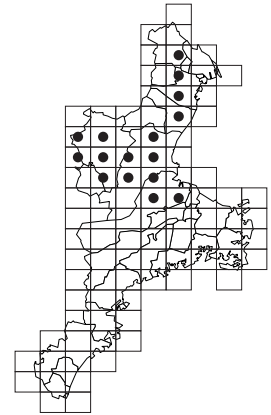
種の概要: 湿気のある草地にはえる多年草。茎ははじめ立ち上がるが先はつる状に他の植物に絡む。夏に暗紫色で径1 cmほどの花を葉腋につける。

分布: 国内では本州(近畿地方以西)から九州。県内ではいなべ市、桑名市、四日市市、鈴鹿市、伊賀市、名張市、津市、松阪市、多気町、玉城町で記録がある。

現況・減少要因: 県北中部には点々と生育しているが、開発等で生育地が減少している。また、遷移の進行による環境変化で消滅したところもある。

保護対策: 開発は慎重にすすめること、また、生育地の除草も必要である。

文献: 147.



(山路武夫)

イナモリソウ

Pseudopyxis depressa Miq.

被子植物 [双子葉・合弁花] アカネ科(APGⅢ:同)

三重県: 準絶滅危惧 (NT)

旧県: 準絶滅危惧 (NT)

環境省:

近畿:

選定理由: 既知の生育地点数は約15であり、未知の生育地もほとんどないと思われる。

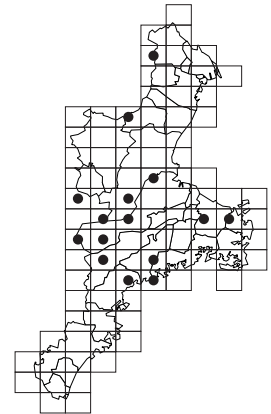
種の概要: 山地に生える多年生草本。高さ3~5 cm。開花期は5~6月。径2~3 cmで花冠の5裂した淡紫色の花をつける。

分布: 日本固有種。本州(関東以西)、四国、九州。県内では北勢、中勢、伊賀、南勢地域などで記録がある。

現況・減少要因: 伊賀地域1、中勢地域2、南勢地域1か所。開発および植生遷移の進行により減少していると思われる。

保護対策: 生育地の保全が望まれる。

文献: 48.



(平山大輔)

ミサオノキ

Aidia cochinchinensis Lour.

被子植物 [双子葉・合弁花] アカネ科(APGⅢ:同)

三重県: 準絶滅危惧 (NT)

旧県: 準絶滅危惧 (NT)

環境省:

近畿: 準 (NT)

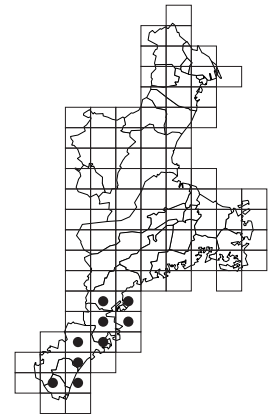
選定理由: 既知の生育地点数は約10であり、未知の生育地もほとんどないと思われる。

種の概要: 照葉樹林に生える常緑低木。高さ2~5 m。開花期は5~6月。対生の葉の片方が退化して線形葉となることが多く、その葉腋に集散花序をつける。花は淡黄色。果実は液果で、冬に黒熟する。

分布: 国内では紀伊半島、四国、九州、沖縄。国外では台湾、中国大陸南部、東南アジア、インド、オーストラリア、ポリネシア。県内では紀北町、尾鷲市、熊野市、御浜町で記録がある。和歌山県とともに三重県は本種の分布北限をなす。

現況・減少要因: 紀北町、尾鷲市、熊野市、御浜町の照葉樹の残る社寺林などに点在。開発等による照葉樹林の消失にともない減少したと推測される。

保護対策: 本種の生育地である照葉樹の残る社寺林の保全が望まれる。



(平山大輔)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

オウギカズラ

Ajuga japonica Miq.

被子植物 [双子葉・合弁花] シソ科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

近畿：準 (NT)

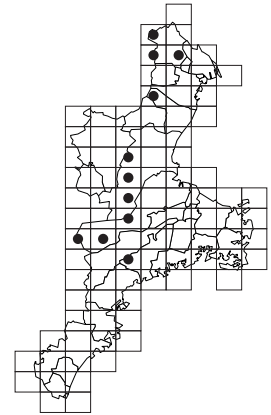
選定理由： 既知の生育地点数は10以上、やや個体数が少なく、各自生地の個体数はおよそ50未満である。

種の概要： 山の木陰に生える多年草。花が終わる前後から長い走出枝を出して、地表を這いまわる性質がある。葉は対生で、ほぼハート形でへりには波形の大きな鋸歯がまばらにある。花は4~5月に咲き、淡紫色で長さ2 cm。

分 布： 国内では本州、四国、九州。県内では北勢から南勢地域の山地において、木陰に点々と生育する。

現況・減少要因： 個体数は少ないが、県内に点々と分布しているのとくに急激に減少することはないと考えられる。

保護対策： むやみな開発や樹木の伐採は避ける。



(山脇和也)

スズコウジュ

Perillula reptans Maxim.

被子植物 [双子葉・合弁花] シソ科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

近畿：

選定理由： 既知の生育地点数は10以下であり、生育地の環境は不安定である。

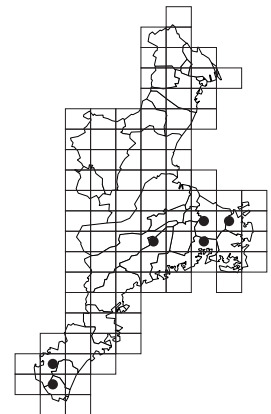
種の概要： 低山地の林内の木陰に生える多年生草本。茎はまばらに分枝し、高さ20~30 cm。葉は卵形。地下茎には塊状に膨れる部分がある。開花期は9~11月、花は鐘形。花冠は直径5~6 mmで白色。

分 布： 日本固有種。本州（東海地方以西）、四国、九州、沖縄。県内では伊勢市、大紀町、熊野市で記録がある。

現況・減少要因： 低山地を生育地とするため開発により減少したと思われるが、生育地の調査はまだ十分ではないため、今後の調査で新たな生育地が確認される可能性がある。

保護対策： 生育地の保全が望まれる。

文 献： 48.



(平山大輔)

ウスギナツノタムラソウ

Salvia lutescens (Koidz.) Koidz.

被子植物 [双子葉・合弁花] シソ科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

近畿：

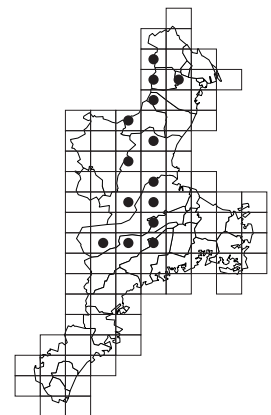
選定理由： 既知の生育地点数はおよそ20であるが、生育地の中心が三重県にあるので継続的な調査が必要である。

種の概要： 山地や川岸の林下に生える多年草。草丈は10~60 cm。葉は対生で1~2回羽状複葉。5~6月に淡黄色の花を穂状につける。

分 布： 国内では本州（岐阜県、三重県、滋賀県）。県内ではいなべ市、菰野町、四日市市、鈴鹿市、伊賀市、亀山市、津市、松阪市、多気町、大台町、大紀町で生育の記録がある。

現況・減少要因： 宮川流域以北の川岸や山地に点々と生育している。減少しているかどうかは不明な点が多い。

保護対策： 川岸の工事や森林伐採の時に生育地に配慮する。



(山路武夫)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ヒメナミキ

Scutellaria dependens Maxim.

被子植物 [双子葉・合弁花] シソ科(APGⅢ:同)

三重県: 準絶滅危惧 (NT)

旧県: 準絶滅危惧 (NT)

環境省:

近畿: C (VU)

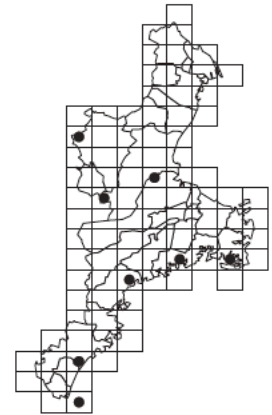
選定理由: 既知の生育地点数は10以上であるが、開発されやすい湿地に生育している。

種の概要: 湿った草地、湿地に生育する繊細な多年草。茎は四角で細く20~60 cm。葉は狭卵状三角形で対生、長さ1~2 cm。6~8月に小さな白い花を葉腋につける。

分布: 国外では朝鮮半島、中国東北部、シベリア。国内では北海道、本州、九州。県内では伊賀市、津市、志摩市、南伊勢町、紀北町、熊野市、紀宝町で記録がある。

現況・減少要因: 中・南勢、紀州に点在している。湿地の開発や遷移の進行で減少している。

保護対策: 湿地の開発は慎重に進める。また、生育地の草刈りを時々することも必要である。



(山路武夫)

オオヒキヨモギ

Siphonostegia laeta S.Moore

被子植物 [双子葉・合弁花] ゴマノハグサ科(APGⅢ:ハマウツボ科)

三重県: 準絶滅危惧 (NT)

旧県: 準絶滅危惧 (NT)

環境省: VU

近畿: 準 (NT)

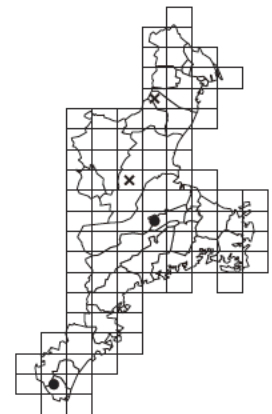
選定理由: 既知の生育地点数は10以下であり、各地点の個体数は50未満である。

種の概要: 日当たりの良いやや乾いた草地や丘陵地に生える高さ30~70 cm、半寄生の一年草。葉は深裂し、翼のある柄を持つ。花は8~9月頃葉腋に生じ、萼は長い筒状で隆起する肋があり、先は5裂片となる。花冠は約2.8 cmの2唇形で下唇は3裂する。ヒキヨモギに似ているが、開出する腺毛を持つこと、花冠上唇の先が切形であるなどの違いがある。

分布: 国外では関東地方、中部地方、近畿地方、中国地方、四国の瀬戸内沿岸に分布。国外では中国に分布。県内では亀山市、松阪市、伊賀市、熊野市、御浜町で記録されている。

現況・減少要因: 県内での最近の確認は松阪市1、御浜町1か所だけである。過去、丘陵地が土地造成の対象の場となってきたことが減少に関係している。

保護対策: 工業団地や宅地のための草地開発、土地造成を止めない限り減少は続くとは推定される。



(市川正人)

イヌノフグリ

Veronica polita Fr. var. *lilacina* (T.Yamaz.) T.Yamaz.

被子植物 [双子葉・合弁花] ゴマノハグサ科(APGⅢ:オオバコ科)

三重県: 準絶滅危惧 (NT)

旧県: 準絶滅危惧 (NT)

環境省: VU

近畿: 準 (NT)

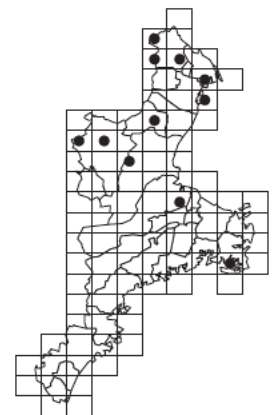
選定理由: 既知の生育地点数は10程度。各生育地の個体数は50未満である。

種の概要: 道ばたや石垣の間などに生える高さ5~20 cmの二年草。3~4月に花が咲き、淡紅白色に、紫紅色のすじのある小さな花を咲かせる。オオイヌノフグリは花が大きく、色もコバルト色をしている。

分布: 国内では本州、四国、九州、沖縄。国外では東南アジアの温帯から暖帯にかけて広く分布。県内では北勢、中勢、伊賀、南勢の各地域にみられる。

現況・減少要因: 県内に点々とみられるが、環境により他の種に押されがちな傾向がある。

保護対策: 他の種が進出できない荒れたところに生育しているため、駐車場の空き地や垣根の草取りなどの時には注意を要する。



(山脇和也)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

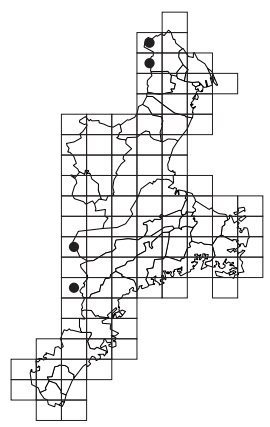
DD

ソバナ
Adenophora remotiflora (Siebold et Zucc.) Miq.
 被子植物 [双子葉・合弁花] キキョウ科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)
 旧県：—

環境省：—
 近畿：—

選定理由： 既知の生育地点数は県内の北部、中部、南部の石灰質の山地全域に生育するためかなりの数になるが、ニホンジカの食害が激甚である。岩壁など高い位置にわずかに残されているに過ぎない。個体数は極端に減少している。
種の概要： 山地林縁や斜面に生える高さ40~100 cmの多年草。葉身は長さ5~20 cm、幅は3~8 cmで互生し、柄がある。花は散生する円錐花序に着き、先が広がった長さ2~3 cmの釣鐘形、下向きに着く。柱頭は浅く3裂。萼裂片は長さ5~8 mmの披針形、8月に咲く。
分布： 国内では本州、四国、九州に分布。県内では石灰質山地のほぼ全域で記録されている。
現況・減少要因： 個体数は激減したが、少なくともいなべ市の山地で確認している。減少要因は斜面崩壊もあるが、ニホンジカの食害が大きい。
保護対策： ニホンジカの頭数管理が急がれる。



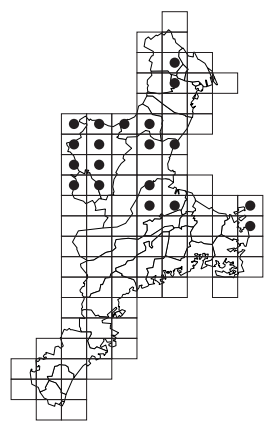
(市川正人)

キキョウ
Platycodon grandiflorus (Jacq.) A.DC.
 被子植物 [双子葉・合弁花] キキョウ科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)
 旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：VU
 近畿：C (VU)

選定理由： 既知の生育地点数はおおよそ15であるが、開発や遷移の進行で生育地は減少している。
種の概要： 日当たりのよい草地に生育する多年草。太い根茎があり草丈は50~100 cmになる。葉は互生。7~9月に径4~5 cmの紫色の花を咲かせる。
分布： 国外では朝鮮半島、中国、ウスリー。国内では北海道から九州。県内では桑名市、鈴鹿市、亀山市、伊賀市、名張市、津市、松阪市、明和町、鳥羽市で記録がある。
現況・減少要因： 里山の明るい草地に生育しているが、園芸目的の採取、生育地の開発で減少している。
保護対策： 生育地の環境保全のための除草や生育地に工事が及ぶ場合は対策を講ずる必要がある。



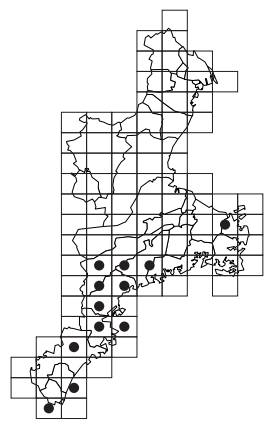
(山路武夫)

テイショウソウ
Ainsliaea cordifolia Franch. et Sav.
 被子植物 [双子葉・合弁花] キク科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)
 旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—
 近畿：—

選定理由： 既知の生育地点数は10以上であるが、森林伐採等で減少傾向にある。
種の概要： 山地の林下に生育する多年草。葉はほこ形で白い模様があり裏は紫色を帯びる。9~11月に花茎をのばし数個の頭花を横向きにつける。
分布： 日本固有種。本州(千葉県から近畿地方南部)、四国に分布。県内では伊勢市、大台町、大紀町、紀北町、尾鷲市、熊野市、紀宝町で記録がある。
現況・減少要因： 宮川流域以南の山地に生育している。しかし、森林伐採や自然災害などによる環境変化で減少傾向にある。
保護対策： 森林伐採は慎重にかつ計画的に実施する必要がある。



(山路武夫)

- 維管束植物
- 蕨類
- 藻類
- キノコ
- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

サワシロギク

Aster rugulosus Maxim.

被子植物 [双子葉・合弁花] キク科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

近畿：C (VU)

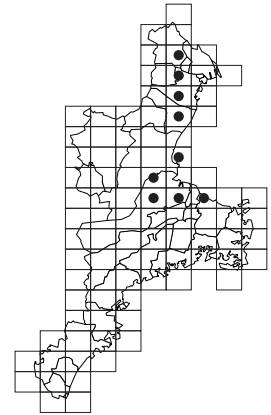
選定理由： 既知の生育地点数はおよそ20か所であり、生育地が減りつつある。

種の概要： 日当たりのよい湿地に生える多年草で、高さ50 cm、地下茎は細長く這う。8~10月に開花し、白色でのちに紅色を帯びる。

分 布： 国内では本州、四国、九州に分布。県内では北勢、中勢、南勢地域の丘陵地や溜池の周囲の湿地に生育する。

現況・減少要因： いなべ市1、菰野町1、四日市市2、鈴鹿市1、津市一志町1、松阪市2、伊勢市1か所で生育が確認されている。開発により、生育地が減少しつつある。

保護対策： 生育地は湿地であるので、湿地全体の保全が重要である。



(後藤稔治)

ワタムキアザミ

Cirsium tashiroi Kitam.

被子植物 [双子葉・合弁花] キク科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：VU

近畿：C (VU)

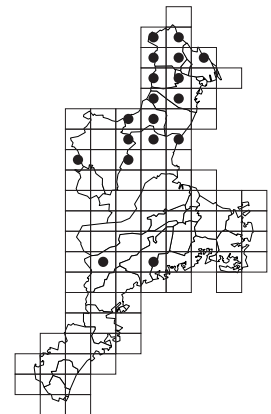
選定理由： 既知の生育地点数は10以上で、各地点50未満の個体数しかない。地域固有性がやや高い。既知の生育地の半数は人里近くにあつて、開発による絶滅が懸念される。

種の概要： 山地や丘陵地の樹下、林縁に生える多年草。9~10月頃、30~60 cmの花茎を伸ばし、横向きに少数の頭花を點頭する。花時にも根生葉がある。

分 布： 日本固有種 (基準産地は鈴鹿山脈)。国内では滋賀県東部から静岡県西部、三重県、県内ではいなべ市、桑名市、菰野町、四日市市、鈴鹿市、亀山市、伊賀市、大台町、大紀町で生育が確認されている。

現況・減少要因： 現状は広範囲に生育が確認されているが、丘陵地では様々な目的で開発が行われており、開発による絶滅の危険性が高い。

保護対策： 市町の関係部署に生育地を周知徹底して、小開発やたとえ道路の拡幅でも事前にチェックする体制づくりが必要である。



(加田勝敏)

キノクニシオギク

Chrysanthemum kinokuniense (Shimot. et Kitam.) H.Ohashi et Yonek.

被子植物 [双子葉・合弁花] キク科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

近畿：

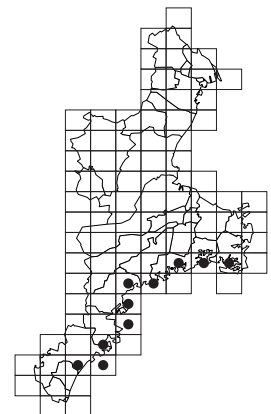
選定理由： 既知の生育地点数は10以下。海岸改修整備などの開発圧により減少している。

種の概要： 海岸の崖地などに生える多年草。下部の葉は長柄であり、開花期には枯れない。花は11~12月に黄色頭花をつける。頭花はシオギクより少し小さい。

分 布： 国内では三重県の大王崎から太平洋岸に沿って和歌山県の日ノ岬まで分布する。県内では志摩市、南伊勢町、大紀町、紀北町、尾鷲市、熊野市に生育する。

現況・減少要因： いずれの生育地でも個体数は少ない。海岸の崖地などに生育するため、開発により消滅した生息地もある。

保護対策： 生育環境の保全が必要である。



(岡 與一)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

クサヤツデ

Ainsliaea uniflora Sch. Bip.

被子植物 [双子葉・合弁花] キク科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

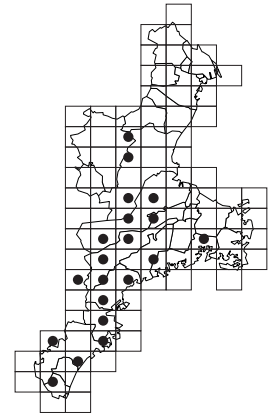
近畿：—

選定理由： 県内での分布は広いが、いずれの生育地でも個体数は少なく、開発圧が強い。
種の概要： 多年草。地下茎は短く這い、前年の花茎の基部が残り、連なっている。茎の
高さ40~110 cm、葉身の長さ6~14 cm、葉形はウコギ科のヤツデに似ている。花期
は9~11月。

分 布： 日本固有種。国内では本州（神奈川県以西から近畿地方の太平洋側）、四国、
九州に分布。県内では中勢地域以南に分布。

現況・減少要因： 溪流沿いの林床にみられるが、いずれの生育地でも個体数は少ない。
減少の要因は、開発による生育環境の悪化である。

保護対策： 関係者への周知と、開発立案にあたっては事前に調査を行い、生育が確認さ
れれば適切な保全策を講じる。



(岡 與一)

オグルマ

Inula britannica L. subsp. *japonica* (Thunb.) Kitam.

被子植物 [双子葉・合弁花] キク科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

近畿：C (VU)

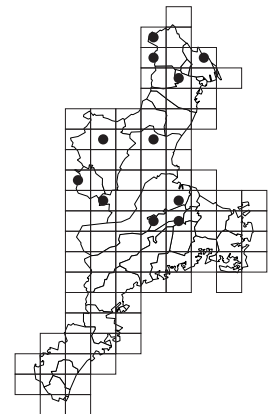
選定理由： 既知の生育地点数は10以上であるが、生育地の荒廃などで減少している。

種の概要： やや湿った草地に生育する多年草。草丈は20~60 cm、花茎は広披針形。
7~10月に黄色い頭花をつける。

分 布： 国外では中国、朝鮮半島。国内では北海道から九州。県内ではいなべ市、桑
名市、伊賀市、名張市、津市、松阪市、多気町、度会町で生育の記録がある。

現況・減少要因： 県の北中部に点々と生育している。比較的乾燥した裸地に生育してい
る個体もあるが、本来の生育地である湿った草地は開発や遷移の進行で減少している。

保護対策： 適当に草刈をして草地を守っていくことが必要。



(山路武夫)

ハマニガナ

Ixeris repens (L.) A.Gray

被子植物 [双子葉・合弁花] キク科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

近畿：—

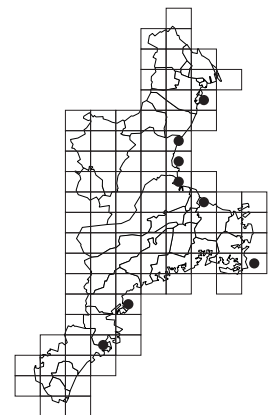
選定理由： 既知の生育地点数は10以下。地下茎をひいて繁殖するため個体数は不明。

種の概要： 砂浜に生える多年草。長く地下茎をひいて、葉を砂上に出す。葉は長柄があつ
て厚く、3~5裂し、径3~5 cm。花は4~10月、頭花は径3 cm内外。

分 布： 国内では北海道から沖縄。国外では中国、ベトナム、朝鮮半島、カムチャツ
カに分布。県内では伊勢湾沿いの砂浜や南勢、紀州地域の砂浜から記録がある。

現況・減少要因： 県内を精査すれば、さらに新生育地が増えるものと思われるが、海浜
の埋め立て等による改変により、個体数は減少傾向にある。尾鷲市や紀北町海山区では、
砂浜の埋め立てや公園化により、生育地がなくなり、絶滅に瀕している。

保護対策： 海浜にむやみに人工物を造らないこと、本来の自然のまま保全することが必
要である。



(山本和彦)

維管束
植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

オオモミジガサ

Miricacalia makinoana (Yatabe) Kitam.

被子植物 [双子葉・合弁花] キク科(APGⅢ:同)

三重県: 準絶滅危惧 (NT)

旧県: 情報不足 (DD)

環境省:

近畿: 準 (NT)

選定理由: 既知の生育地点は4. 個体数は各生育地とも20未満と推測される.

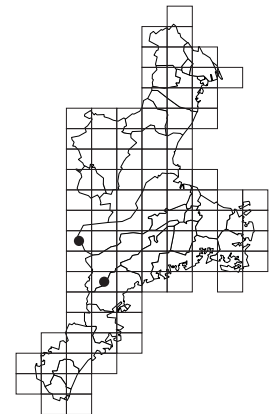
種の概要: 深山の木陰に生える多年草. 茎はやや太く高さ60~80 cm. 全体にちぢれた毛があり2~3の葉を互生. 下部の葉が最も大きく, 掌状に中裂して, 径30 cmほどになる. 7~9月頃総状に横向きの頭花をつけ, 総苞は密にちぢれ毛があり, 基部にがくのような小苞がある.

分布: 日本固有種. 福島県以南の本州, 四国, 九州に分布する. 県内では松阪市および大台町の深山から記録されている.

現況・減少要因: 確認できた生育地はいずれも溪流沿いの岩上で, ニホンジカの食害からは免れることができる立地である. 大台ヶ原日出ヶ岳からの記録もあるが, 確認することができなかった. ニホンジカの食害により消滅したのかもしれない.

保護対策: 森林伐採の規制およびニホンジカの食圧を軽減することが必要.

文献: 48. 57. 90. 139.



(山本和彦)

オカオグルマ

Senecio integrifolius (L.) Clairv. subsp. *fauriei* (H.Lév. et Vant.) Kitam.

被子植物 [双子葉・合弁花] キク科(APGⅢ:同)

三重県: 準絶滅危惧 (NT)

旧県: 準絶滅危惧 (NT)

環境省:

近畿: C (VU)

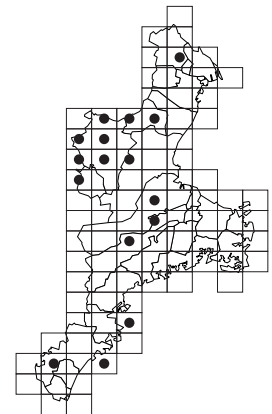
選定理由: 既知の生育地点数はおよそ20であり, 各生育地の個体数は250未満である.

種の概要: 日当たりのよい乾いた草原に生える多年草. 茎は高さ20~65 cm, 下部は根出葉とともに密に毛がある. 花期は5~6月. 頭花は黄色で, 3~9個, 散房状またはやや散状につく.

分布: 国内では本州, 四国, 九州, 国外では朝鮮半島, 中国に分布. 県内では北勢, 中勢, 伊賀, 南勢, 紀州地域からの記録がある.

現況・減少要因: 日当たりのよい農道沿いの草地の斜面などにみられ, ときに群生するが, どこにでもみられるというものではない. 道路の拡幅や放置により消滅する可能性が高い.

保護対策: 草地の定期的な草刈りにより草地状態を維持することが必要である. また道路の拡幅の際には注意が必要.



(山本和彦)

アギナシ

Sagittaria aginashi Makino

被子植物 [単子葉] オモダカ科(APGⅢ:同)

三重県: 準絶滅危惧 (NT)

旧県: 準絶滅危惧 (NT)

環境省: NT

近畿: A (CR)

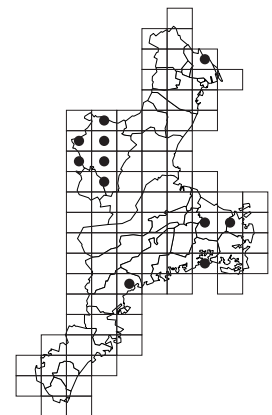
選定理由: 既知の生育地点数は15か所であり, 生育地が減りつつある.

種の概要: 水田や浅い池に生える多年草. オモダカによく似ているが走出枝をつくらず, 秋に葉柄の基部の内側に多数の小さな球芽をつける.

分布: 国外では朝鮮半島, 国内では北海道から九州に分布. 県内では伊賀地域と南勢地域で記録がある.

現況・減少要因: 木曾岬町1, 伊賀市7, 名張市1, 伊勢市2, 南伊勢町1, 紀北町1か所. 圃場整備の進行などで生育できる水田等が減少している.

保護対策: 山間の湿った休耕田が貴重な生育場所であるので, 乾燥化を防ぐ必要がある.



(後藤稔治)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ササバモ

Potamogeton wrightii Morong

被子植物 [単子葉] ヒルムシロ科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：—

環境省：—

近畿：—

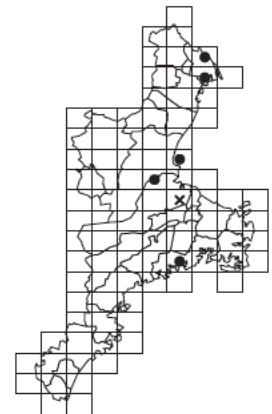
選定理由： 既知の生育地点数は10以下である。

種の概要： ため池や河川に群生する沈水性から浮葉性の多年草。葉は互生，沈水葉の葉身は細長く先端が鋭くとがる。花期は7～9月。水中から出ると陸生形を形成する。

分布： 世界ではアジアに広く分布。国内でも北海道南部から九州の琉球列島まで広く分布。県内では桑名市，津市，松阪市，多気町，南伊勢町に記録がある。

現況・減少要因： 桑名市2，津市2，松阪市1，南伊勢町1か所。多気町は工業団地の調整池に発生したものであるが，その後ガマ等の繁茂により消失した。

保護対策： 津市の生育地は個体群としても大きく，今後も重要な生育地として監視していく必要がある。



(中 優)

ケイピラン

Comospermum yedoense (Maxim. ex Franch. et Sav.) Rausch.

被子植物 [単子葉] ユリ科(APGⅢ:キジカクシ科)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

近畿：C (VU)

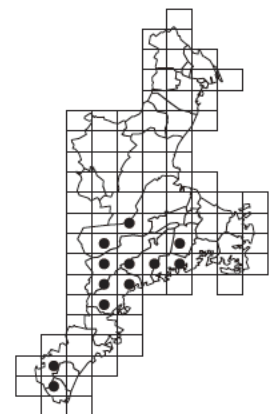
選定理由： 既知の生育地点数は比較的多いが，採取圧はきわめて強い。

種の概要： 山地の崖や岩上に生育する草本。葉は左右扁平，鎌状形で，この形が雄鶏の尾に似ていることから和名が「鶏尾蘭 (ケイピラン)」とついた。花期は7～8月で，高さ20～40 cmの花茎を伸ばし，白から淡紫色の花をつける。

分布： 国内では本州 (奈良県，和歌山県，三重県)，四国，九州。県内では中勢地域 (津市美杉町，松阪市飯高町)，南勢地域 (度会町，大紀町，大台町)，紀州地域 (紀北町，熊野市) に分布。

現況・減少要因： 道路工事，園芸採取が主な減少要因となるであろう。

保護対策： 採取防止の対策が必要である。



(花尻 薫)

カタクリ

Erythronium japonicum Decne.

被子植物 [単子葉] ユリ科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

近畿：—

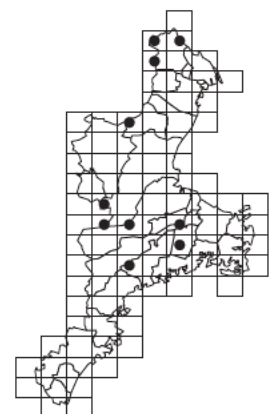
選定理由： 既知の生育地点数は10以下で，各生育地の個体数は100未満であり，園芸採取により減少している。

種の概要： 山野に群生する多年草。葉は普通2個で花茎の下部につく。花は4～6月，高さ10～20 cmの花茎の先に1個付き，下向きに開く。花被片は紅紫色，披針形で長さ4～5 cm，基部の近くの密腺があり，その上部にW字状の濃紫色の斑紋がある。

分布： 国内では北海道から九州。国外では朝鮮半島，中国，南千島，樺太に分布。県内ではいなべ市，伊賀市，津市，多気町，度会町，大台町に分布する。

現況・減少要因： 度会町の道路わきのクヌギ林などに生えていた群落は，宅地造成や道路の拡張のため激減した。他の生育地は山頂付近の岩場や斜面などであり，開発圧は弱い。

保護対策： 常緑樹の侵入を避ける。また，園芸採取による減少を防ぐため詳細な分布情報の公開は避けるべきである。



(中馬千鶴)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ハマカンゾウ

Hemerocallis fulva L. var. *littorea* (Makino) M.Hotta

被子植物 [単子葉] ユリ科(APGⅢ: ススキノキ科)

三重県: 準絶滅危惧 (NT)

旧県: 準絶滅危惧 (NT)

環境省:

近畿: C (VU)

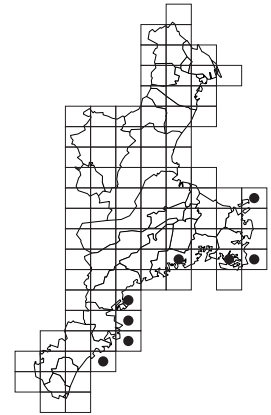
選定理由: 既知の生育地点数は比較的多いが、各生育地の個体数は多くない。

種の概要: 海岸の日当たりのよい斜面に生える多年草。葉は常緑で、濃緑色、厚い。花期は7~10月、暗橙赤色の花が総状につく。花茎は高さ70~90 cm、上部に長さ3~10 cmの苞がある。

分布: 国内では本州(関東以西)、四国、九州に分布。県内では鳥羽市、志摩市、南伊勢町、紀北町、尾鷲市、熊野市等の海岸の岸壁や斜面での記録がある。

現況・減少要因: 志摩地方から南の海岸線は、人が近づけないようなところもあり、分布の詳細は不明である。鳥羽市の離島のように、斜面に大きな群落が発達しているところもみられるが、他はおよそ50前後の個体が分散し、生育しているところが多い。

保護対策: 本種が生育できるような自然度の高い海岸線を、広い範囲で保全することが重要である。



(山本和彦)

ノカンゾウ

Hemerocallis fulva L. var. *disticha* (Donn ex Ker Gawl.) M.Hotta

被子植物 [単子葉] ユリ科(APGⅢ: ススキノキ科)

三重県: 準絶滅危惧 (NT)

旧県: 準絶滅危惧 (NT)

環境省:

近畿:

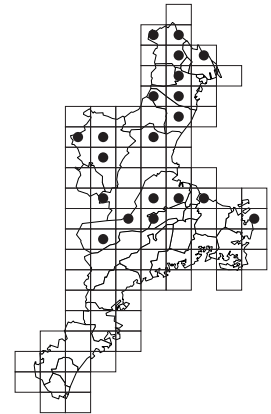
選定理由: 既知の生育地点数は10以上で、各生育地の個体数は50未満。開発圧の強い環境に生育している。

種の概要: 溝の縁、池畔、棚田の縁等の地下水位の高いところに生える多年草。7~8月頃50~80 cmの茎頂に橙赤色の花を10個前後つける。

分布: 台湾、中国。国内では本州から沖縄。県内では桑名市、いなべ市、菰野町、四日市市、鈴鹿市、津市、伊賀市、名張市、松阪市、明和町、伊勢市、鳥羽市などから記録されている。

現況・減少要因: 池の改修、水田と水路の隔離、乾燥化等の要因で地下水位が下がり、至る所で絶滅の危機に瀕している。池の改修によって絶滅したところも多い。

保護対策: いなべ市、四日市市、鈴鹿市等では水環境の保全策を講じているが、他地域の行政もこのことを認識して保護すべきである。



(加田勝敏)

ミズギボウシ

Hosta longissima Honda ex F.Maek.

被子植物 [単子葉] ユリ科(APGⅢ: キジカクシ科)

三重県: 準絶滅危惧 (NT)

旧県: 準絶滅危惧 (NT)

環境省:

近畿: C (VU)

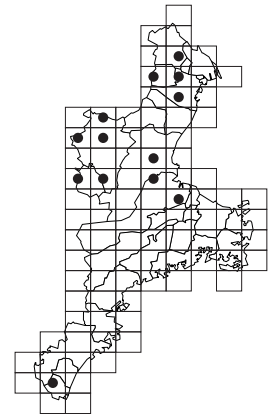
選定理由: 既知の生育地点数は比較的多いが、小川の岸辺や林縁の湿地などの生育地は減少している。

種の概要: 溝の縁などで雑草に混じって生育する多年草。葉は細長い。8~9月に長い花茎をのばし、先に筒状で淡紫色の花を数個横向きにつける。

分布: 国内では本州(愛知県以西)、四国、九州。県内ではいなべ市、四日市市、菰野町、伊賀市、名張市、津市、松阪市、多気町、熊野市で記録がある。

現況・減少要因: 生育地、個体数はまだ多い。しかし、小さな溝の岸や山際の湿地などの生育地は改良工事などで減少している。

保護対策: 雑草の生える小さな溝を必要以上にコンクリート化しないことが大切である。



(山路武夫)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ササユリ

Lilium japonicum Houtt.

被子植物 [単子葉] ユリ科(APGⅢ:同)

三重県: 準絶滅危惧 (NT)

旧県: 準絶滅危惧 (NT)

環境省: —

近畿: —

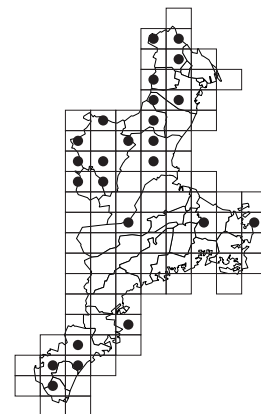
選定理由: 県内に広く分布するが、丘陵地の大規模開発で生育地が減少した。また、アカマツ林などの里山林の荒廃により生育環境が変化し、個体数が激減している。

種の概要: 草地やススキ草原、林縁などに生える多年草。6月頃、淡紅色の花を1~数個つける。葉が笹の葉に似ている。

分布: 国内では静岡県以西の本州、四国、九州。県内では全域の丘陵地から山地にかけて生育している。

現況・減少要因: 1960~70年頃までは県内各地の丘陵地から山地にかけて多数分布していたが、住宅団地、工場、ゴルフ場建設などの大規模開発や里山林の荒廃により、生育地が著しく減少した。

保護対策: もともと里山林に生育していた植物でもあり、里山林の保全対策などの人為的な生育環境の拡大も必要である。種子はよく発芽し、日当たりなどの条件さえよければ増殖する。最近各地で里山保全活動が行われており、徐々に増えつつある。



(桐生定巳)

マイヅルソウ

Maianthemum dilatatum (A.W.Wood) A.Nelson et J.F.Macbr.

被子植物 [単子葉] ユリ科(APGⅢ:キジカクシ科)

三重県: 準絶滅危惧 (NT)

旧県: —

環境省: —

近畿: —

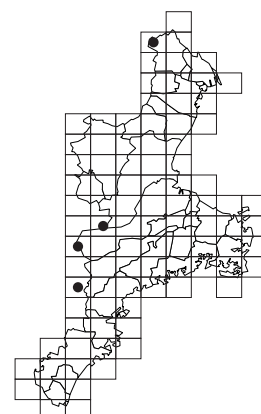
選定理由: 既知の生育地点は3。いずれの個体群も開花個体は非常に少ない。ニホンジカの食害により衰退している。

種の概要: 山地や亜高山帯の針葉樹林下にはえる多年草。地下茎は長く横に這う。茎は高さ10~25 cm、基部は葉鞘で包まれ、2葉をつける。葉は卵心形で長さ3~7cm、基部は深い心形で、先は尖る。花は5~7月、総状に20個ほどつき、白色で花被片は4個。

分布: 北海道、本州、四国、九州、朝鮮、中国東北部、千島、樺太、シベリア東部、カムチャッカ、北アメリカに分布する。県内ではいなべ市、津市、松阪市および大台町の深山から記録されている。

現況・減少要因: 自生地のほとんどは国立公園等に指定され、保護区になっているが、いずれの自生地もニホンジカの食害により以前に比べ、激減している。開花個体を確認できなかった生育地もある。

保護対策: 保護区ではニホンジカへの対策、保護区に指定されていない生育地ではニホンジカの対策および森林伐採の規制が必要。



(山本和彦)

ハマオモト

Crinum asiaticum L. var. *japonicum* Baker

被子植物 [単子葉] ヒガンバナ科(APGⅢ:同)

三重県: 準絶滅危惧 (NT)

旧県: 準絶滅危惧 (NT)

環境省: —

近畿: B (EN)

選定理由: 県内には点々と分布するが、各生育地の個体数は少なく、いずれも50個体未満。さまざまな要因により減少傾向にある。

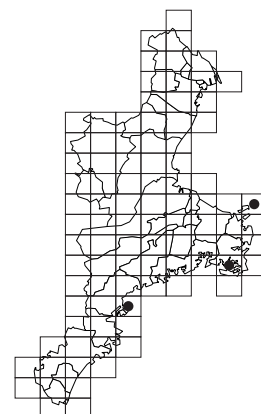
種の概要: 海岸にはえる多年草。鱗茎は長さ30~50 cm、径3~7 cm、葉は带状で長さ30~70 cm、幅4~10 cm、やや多肉で光沢があり、花は7~9月開花。

分布: 国内では本州(関東南部以南)から沖縄、国外では中国(南部、台湾)、マレーシア、インドに分布。県内では鳥羽市以南の熊野灘沿岸の海岸に点々と生育する。

現況・減少要因: 本種の生育地そのものが開発は海岸浸食により減少している。また、近年は外来植物であるアツバキミガヨランの侵入により、生育環境が悪化している地域もみられる。

保護対策: 生育地の環境保全が重要であり、人為増殖は好ましい行為でない。外来植物圧については、志摩市の生育地で駆除活動も行われているが、根絶には莫大な時間と予算を必要とする。外来種のアツバキミガヨラン駆除技術の確立とともに、海岸への外来植物の植栽には厳重な監視が必要である。

特記事項: 志摩市の和具大島暖地性砂防植物群落は県天然記念物に指定されている。



(岡 與一)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ミヤマヌカボ

Agrostis flaccida Hack.

被子植物 [単子葉] イネ科(APGⅢ:同)

三重県: 準絶滅危惧 (NT)

旧県: 情報不足 (DD)

環境省:

近畿: 準 (NT)

選定理由: 既知の生育地点数は3. 個体数は少ないが, 他でも発見が期待される.

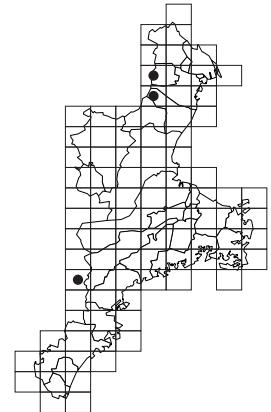
種の概要: 高山や亜高山の岩礫地, 北方の地では平地の岩場にも生える高さ15~30 cmの多年草. 葉身は長さ4~10 cm, 幅0.5~2 mmで内側に巻く傾向がある. 長さ2.5~3 mmの小穂は円錐花序の枝先にまばらに着き, 艶があって紫色を帯びる. 護穎基部のやや上に着く芒は3~5 mmでねじれて折れ曲がり, 花から外出する. 花期は6~8月.

分布: 国内では北海道, 本州, 四国, 九州に分布. 県内では菰野町, 大台町の大台ヶ原で記録がある.

現況・減少要因: 少なくとも菰野町の山地岩場で数株の生育を確認している. 岩場の斜面崩壊が減少要因となる.

保護対策: 現在の環境を維持することである.

文献: 90.



(市川正人)

チョウセンガリヤス

Cleistogenes hackelii (Honda) Honda

被子植物 [単子葉] イネ科(APGⅢ:同)

三重県: 準絶滅危惧 (NT)

旧県:

環境省:

近畿:

選定理由: 既知の生育地点数は10以下で, 各生育地での個体数も少ない. 生育地間の個体の交流もない.

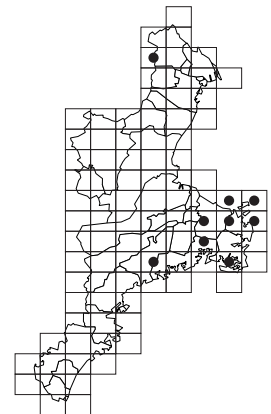
種の概要: 乾いた土壌や岩の割れ目に生え, 細くて痩せており, 葉鞘にはまばらに開出毛が生える. 花序は茎頂に灰緑色ときに帯赤紫色の花穂をつける. また葉鞘から抜け出さない閉鎖花もつける.

分布: 朝鮮, 中国北部. 国内では本州, 四国, 九州. 県内ではいなべ市, 伊勢市, 鳥羽市, 志摩市, 南伊勢町から記録されている.

現況・減少要因: いくつかの生育地では現況が不明になっている. また現在生育が確認されているところでも, げけ崩れや開発により激減する危険性がある.

保護対策: 目立たなく, 著しく地味な種であり, まずは生育地の自治体の関係者が認識する必要がある.

特記事項: 標本は三重県総合博物館および三重県立上野高校にある.



(加田勝敏)

チャボチヂミザサ

Oplismenus undulatifolius (Ard.) Roem. et Schult. var.

microphyllus (Honda) Ohwi

被子植物 [単子葉] イネ科(APGⅢ:同)

三重県: 準絶滅危惧 (NT)

旧県: 準絶滅危惧 (NT)

環境省:

近畿: 準 (NT)

選定理由: 既知の生育地点数は10以下で, 各生育地の個体数は250未満である.

種の概要: やや薄暗い林内に生育し, 全体小形で花序の枝が短いので穂状の観がある. 葉の長さ1~3 cm. 小穂の数は1~3個.

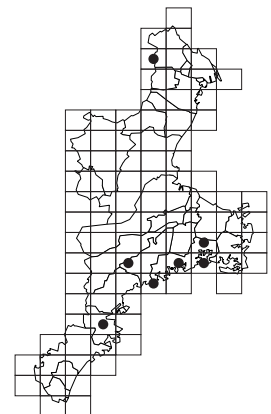
分布: 台湾, ニューギニア, オーストラリア. 国内では本州 (千葉県, 東海地方以西), 九州, 沖縄. 県内ではいなべ市, 伊勢市, 大台町, 南伊勢町, 大紀町, 尾鷲市で記録がある.

現況・減少要因: 微小で目立たない種なので, 減少したり, 絶滅していても気付かない. 森林伐採や林道工事等で大きな影響があると考えられる.

保護対策: より一層のデータ収集を行い, 地域の行政機関に情報を提供しておくことも必要である.

特記事項: 標本は三重県総合博物館にある.

文献: 44.



(加田勝敏)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ナガミノオニシバ

Zoysia sinica Hance var. *nipponica* Ohwi

被子植物 [単子葉] イネ科(APGⅢ:同)

三重県: 準絶滅危惧 (NT)

旧県: 準絶滅危惧 (NT)

環境省:

近畿: A (CR)

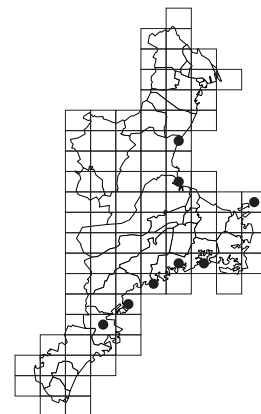
選定理由: 既知の生育地点数は20以下であり、未知の生育地はこれまで知られている生育地点数に比べ多くはない。

種の概要: 海岸の砂地に生える多年草。走出枝は地下性で横走し、その節から稈を直立する。稈は高さ10~25 cm。オニシバに似るが、小穂は長さ4~7 mm, 幅1.2~1.5 mm, 披針形でやや細い。

分布: 国内では本州(関東以西)、四国、九州、国外では朝鮮半島、中国(東北)に分布。県内では中勢から南勢、紀州地域にかけての浜辺で記録されている。

現況・減少要因: 伊勢湾沿いの生育地では、海岸道路の整備や埋め立て等の開発圧が高く、減少傾向にある。紀州地域北東部も今後河川改修が予定されており、減少が懸念される。南伊勢町南島では、内湾の浜辺に多くの生育地が認められるが、一部では埋め立てが進んでいる。

保護対策: 本種だけでなく多くの海岸植物が、自生地を失わずに将来に渡って存続していけるような海岸部の保全策が必要である。



(山本和彦)

ナガエミクリ

Sparganium japonicum Rothert

被子植物 [単子葉] ミクリ科(APGⅢ:ガマ科)

三重県: 準絶滅危惧 (NT)

旧県: 準絶滅危惧 (NT)

環境省: NT

近畿: 準 (NT)

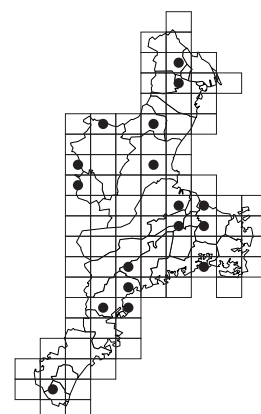
選定理由: 既知の生育地点数は20程度であるが、不安定な環境である水辺の植物のため、減少する可能性がある。

種の概要: 湖沼や水路などに生育する多年草の抽水植物。草丈は70~130 cmであるが、流水中では浮葉状態となり、もっと長くなることもある。下の方の雌性頭花には柄がある。花期は6~9月、花序は分枝しない。

分布: 国外ではアジア、極東地域。国内では北海道西南部、本州から九州。県内ではいなべ市、四日市市、菰野町、亀山市、伊賀市、名張市、津市、松阪市、多気町、明和町、伊勢市、南伊勢町、大紀町、紀北町、紀宝町で記録がある。

現況・減少要因: ミクリ科の中では最も多産し、県内各地の水路等に生育している。個体数やその増減については不明な点が多いが、池の改修時に消滅したところもある。

保護対策: 生育地の水辺にかかわる工事の際には、保全のための配慮が必要である。



(山路武夫)

コガマ

Typha orientalis C.Presl

被子植物 [単子葉] ガマ科(APGⅢ:同)

三重県: 準絶滅危惧 (NT)

旧県: 準絶滅危惧 (NT)

環境省:

近畿: C (VU)

選定理由: 既知の生育地点数は10程度であり、その個体数は少ない。また開発圧が強く、減少傾向にある。

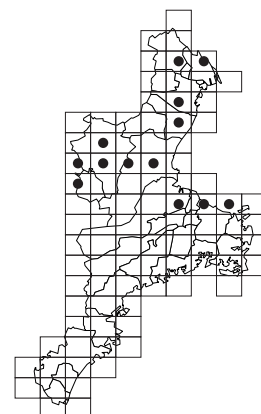
種の概要: 湿地に生える高さ1~1.5 mの多年草。葉の幅は1 cm未満と狭い。6~8月に茎頂に円柱の花序をつけ、雌花群の上に接して雄花群をつける。

分布: 東アジアの温帯から熱帯。国内では本州、四国、九州。県内ではいなべ市、桑名市、四日市市、鈴鹿市、伊賀市、津市、松阪市、鳥羽市で記録がある。

現況・減少要因: 休耕地、池畔、川岸等で確認されているが、耕地整理による埋め立て、管理放棄、乾田化により減少している。

保護対策: 継続的な生育状況の把握が必要である。

文献: 28, 29.



(加田勝敏)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

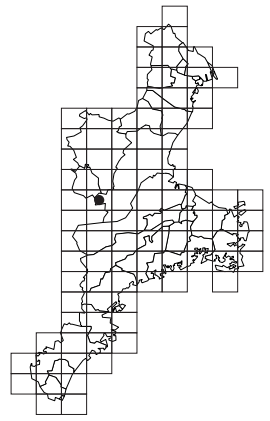
DD

ミセンアオスゲ
Carex leucochlora Bunge var. *horikawae* (K.Okamoto) Katsuyama
 被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)
 旧県：

環境省：
 近畿：

選定理由： 既知の生育地点数は1. 個体数は50株ほどであるが、ニホンジカの食害が認められる。新産地が期待される。
種の概要： 乾燥した樹林内や林縁に生える高さ15~40 cmで叢生する多年草。花茎はきわめて細く、最上部に長い柄(5~10 mm)を持つ雄花穂、下側に数個の花からなる1~3個の離れた雌花穂を付ける。葉は幅1~2 mmで花茎より短い。果胞は2.5~3 mmで毛がある。
分布： 日本固有種。本州(長野、愛知、三重、瀬戸内海沿岸)、四国(瀬戸内海沿岸)、県内では津市で記録されている。
現況・減少要因： 津市美杉町の1か所に点在する。比較的安定した岩壁や山の斜面に生育している。ニホンジカの食害と植生遷移が減少要因である。
保護対策： 遷移が進みにくい安定した環境に生育しているが、ニホンジカの食害防護と頭数管理が待たれる。
特記事項： イトアオスゲに類似するが、ミセンアオスゲは雄花穂の柄が長く目立つ。



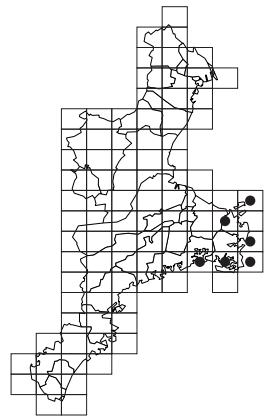
(市川正人)

ヒゲスゲ
Carex oahuensis C.A.Mey. var. *robusta* Franch. et Sav.
 被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)
 旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：
 近畿：C (VU)

選定理由： 既知の生育地点数は10以下であり、各生育地の個体数も限られているが、今後の調査により新たな生育地が発見される可能性がある。
種の概要： 海岸の岩上にはえる多年草。匍枝がなく、大きな株をつくる。茎の高さ30~50 cm, 葉は硬く光沢があり深緑色。雌鱗片は芒で終わる。
分布： 国内では本州(石川県、千葉県以西)から沖縄、国外では台湾、朝鮮半島に分布。県内では鳥羽市、志摩市、南伊勢町で記録がある。
現況・減少要因： 現在の分布は志摩地域から南伊勢町に限定されている。生育地への開発圧が減少の主要因となる。
保護対策： 生育状況を把握する必要がある。また、目立たない植物であるので、関係機関への周知や地域住民への啓発も大切である。



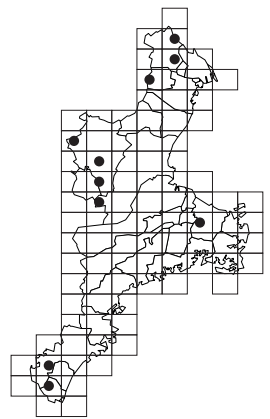
(岡 與一)

マメスゲ
Carex pudica Honda
 被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)
 旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：
 近畿：C (VU)

選定理由： 既知の生育地点数は10以下であるが、他でも発見が期待される。
種の概要： 丘陵地や山地の林内、とくに湿地周辺に生育する多年草で植物体サイズの変異は大きい。葉は密に叢生し、幅2~3 mmである。花期は4~5月頃。稈はきわめて短く葉の中に隠れて目立たない。雌花穂は根生状であり、雄花穂には細い柄がある。果胞は卵形で毛があり、長さは約3 mmである。
分布： 日本固有種。関東地方から近畿地方に分布。県内では桑名市、いなべ市、菰野町、津市、伊賀市、名張市、伊勢市、熊野市、紀宝町にみられる。
現況・減少要因： 湿地周辺の湿った林内が生育環境のため、未発見の生育地が多いと予想されるが、現在、県内では桑名市多度町2、いなべ市北勢町1、菰野町1、津市美杉町1、伊賀市3、名張市1、伊勢市1、熊野市紀和町1、紀宝町1か所である。
保護対策： 生息地の環境を現状のまま維持する必要がある。



(市川正人)

エゾハリイ

Eleocharis maximowiczii Zinserl.

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：—

環境省：—

近畿：—

選定理由： 既知の生育地点数は10以下。総個体数は500未満。

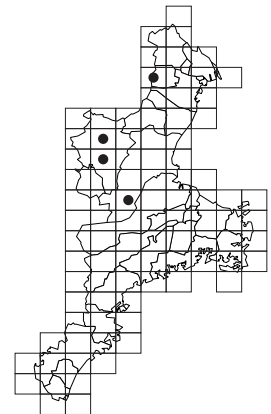
種の概要： 湿地や溜池の縁に生え、稈の高さ5~15 cmで叢生する一年草、または多年草。稈は細く、ハリイに比べてやや外向きに曲がる傾向がある。基部の鞘は淡赤褐色。小穂は頂生し、花はハリイやオオハリイに比べて少ない。果実の長さはハリイ (0.7~0.8 mm) より大きく、オオハリイほどで1~1.2 mmである。成熟果実は濃い鶯色で、黄緑色のハリイやオオハリイとの識別点の1つとなる。なお、鱗片は両者に比べて濃く、濃褐色が目立つ。

分布： 国内では北海道、本州、四国、九州に分布。県内では菰野町、伊賀市で記録されている。

現況・減少要因： 少なくとも菰野町と伊賀市の2地点では現存している。減少要因は溜池改修などの湖沼開発である。

保護対策： 溜池改修や湖沼開発にあたっては保護対策を取り入れた施工をする。

特記事項： エゾハリイはハリイやオオハリイに類似する。3種は混生することが多い。



(市川正人)

アンペライ

Machaerina rubiginosa (Sol. ex G.Forst.) T.Koyama

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

近畿：C (VU)

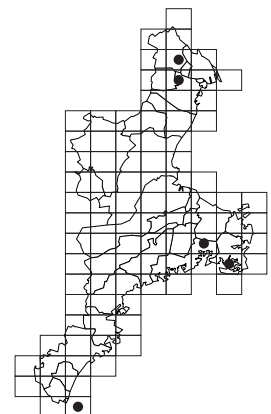
選定理由： 既知の生育地点数は5以下であり、開発圧を受けやすい場所に生育するが、今後の調査により新たな生育地が発見される可能性が高い。

種の概要： 湿地に生え、鱗片に被われた長い匍枝をつける。茎は高さ60~100 cmで、円くて平滑。葉は大部分根生し、平滑円柱形で径2~3 cm、粉白色で光沢なし。

分布： 国内では本州 (東北地方以西) から沖縄。国外ではインド、セイロン、インドネシア、オーストラリアに分布。県内では北勢、南勢、紀州地域で記録がある。

現況・減少要因： 南勢地域1か所と紀州地域の記録は古い標本によるものであり、現況は不明。他の地域は健在。生育環境である湿地は開発の影響を受けやすい。

保護対策： 生育地の保全と、県内における生育状況の把握が必要である。



(岡 與一)

コシンジュガヤ

Scleria parvula Steud.

被子植物 [単子葉] カヤツリグサ科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

近畿：C (VU)

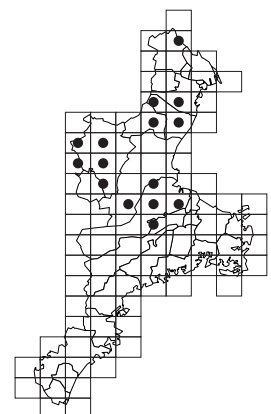
選定理由： 既知の生育地点数はおおそ20であり、生育地が減りつつある。

種の概要： 一年草で根茎はなく、高さ30~50 cm。分花序は小さく、長さ1~3 cm。果実には明らかな格子紋があり、7~10月に熟す。

分布： 国外では朝鮮半島、中国、インドネシア、インド、アフリカ。国内では本州から九州の湿地に分布。県内では北勢地域、中勢地域、伊賀地域で記録がある。

現況・減少要因： いなべ市1、四日市市1、亀山市1、津市一志町1、津市美杉町1、松阪市2、多気町勢和1、伊賀市5、名張市1か所で生育が確認されている。山間・丘陵地の湿地や溜池の周囲にみられるが、開発による立地の減少が危惧される。

保護対策： 生育地である湿地全体の保全が重要である。



(後藤稔治)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

シラン

Bletilla striata (Thunb.) Rchb.f.

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 準絶滅危惧 (NT)

旧県: 準絶滅危惧 (NT)

環境省: NT

近畿: C (VU)

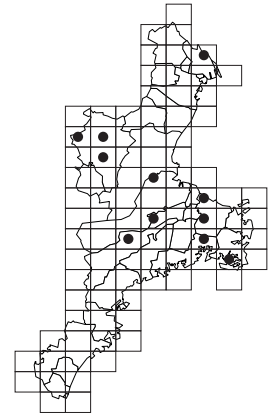
選定理由: 県内では広く分布するが、各生育地の個体数は50未満であり、園芸採取により減少している。

種の概要: 川沿いなどの日当たりの良い、湿り気のある岩場に生える。偽球茎は多肉、扁平な球形で横に並ぶ。茎は高さ30~70 cm。葉は数個、茎の基部につき、長さ20~30 cm、幅2~5 cm、披針形で鋭尖頭。4~5月、やや大型の紅紫色花を3~7個茎の先端につける。苞は開花時に脱落する。花被は長さ2.5~3 cm、唇弁はくさび状倒卵形、先端は3裂し、中裂片は円形で縁は波状、内面に5個の隆起線がある。

分布: 国内では本州(中南部)から沖縄。国外では中国(本土、台湾)。県内では北勢から南勢地域まで広く分布する。

現況・減少要因: 花が大きく目立つため、園芸採取され個体数は減少している。

保護対策: 園芸採取の禁止が必要である。



(中馬千鶴)

マメヅタラン

Bulbophyllum drymoglossum Maxim. ex Okubo

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 準絶滅危惧 (NT)

旧県: NT

環境省: NT

近畿: 準 (NT)

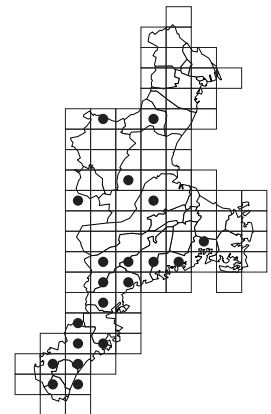
選定理由: 既知の生育地点数は20程度で生育地が限られている。

種の概要: 常緑の着生ラン。根茎は長く這い、まばらに葉をつける。葉は肉質で長さ7~13 mm、幅5~6 mm、葉腋から出た長さ7~10 mmの花茎の先に小さな淡黄色の花を1個つける。

分布: 国内では本州(茨城県以西)、四国、九州、沖縄、国外では朝鮮半島(南部)に分布。県内では北勢、中勢、伊賀、南勢、紀州地域に生育する。

現況・減少要因: 県内ほぼ全域に分布し、ムギランと同様、垂直的にも暖温帯林から冷温帯林付近までみられるが、ムギランよりは個体数が少ない。おもに山地林内の古木や岩上に着生するため、森林伐採や林道工事等で消失した自生地もある。

保護対策: 園芸目的の採取圧はそれほど強くないと思われる。マメヅタランが着生するような山地の古木には、他の着生ランやシダ植物も混生することが多い。これらの着生植物も含めて保護するためにも、本種が生育する森林の伐採は避ける必要がある。



(山本和彦)

ムギラン

Bulbophyllum inconspicuum Maxim.

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 準絶滅危惧 (NT)

旧県: 準絶滅危惧 (NT)

環境省: NT

近畿: 準 (NT)

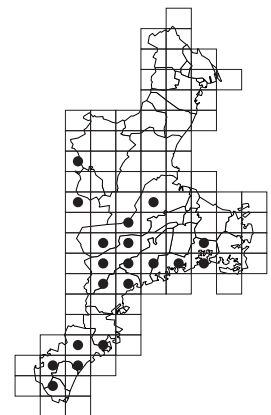
選定理由: 既知の生育地点数は比較的多いが、一時は激減した。未知の生育地は多くはない。

種の概要: 常緑の着生ラン。根茎は横に這い、長さ6~8 mmの偽球をつけ、先端に1個の葉をつける。葉は長楕円形で長さ1~3 cm、幅6~8 mm。6~7月、偽球の基部より花茎を出し、帯黄白色の小さな花を1~3個つける。

分布: 国内では本州(関東地方以西)、四国、九州に分布。県内では中勢、伊賀、南勢、紀州地域と幅広く確認されている。

現況・減少要因: 県内では常緑広葉樹林域から温帯林にかけて垂直的にも幅広くみられるが、一時の天然林の皆伐により、個体数は激減した。その後、皆伐跡地へはスギ、ヒノキが植栽されているため、個体数の復元は難しいものと思われる。ただ現在残っている自生地は、社寺林や人目につきにくい山林内が大部分であることや、それほど採取圧が強くないこともあり、個体数はある程度維持されていくものと思われる。

保護対策: 道路脇の古木や岩上、あるいは里地に植栽されているウメやカキ等に着生していることもあるため、道路開発や土地造成には注意が必要。



(山本和彦)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

エビネ

Calanthe discolor Lindl.

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 準絶滅危惧 (NT)

旧県: 準絶滅危惧 (NT)

環境省: NT

近畿:

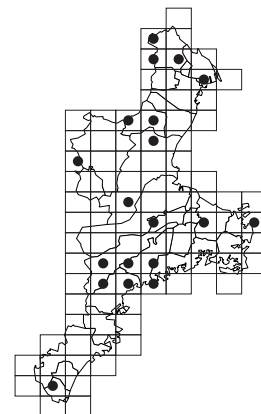
選定理由: 県内に広く分布するが、各生育地の個体数は50未満であり、園芸採取により激減している。

種の概要: 雑木林の下などに生える。葉は2, 3枚ついて、長さ15~25 cm, 幅5~8 cm。花茎は高さ20~40 cm。花序は短毛があり、4~5月, 8~15花を付ける。花被片は暗褐色。唇弁は帯紅色または白色。中裂片にうね状の条が3本ある。

分布: 国内では北海道西南部から沖縄, 国外では朝鮮半島 (済州島) に分布。県内では全域に、低地から山地まで広く分布している。

現況・減少要因: かつて広範囲に生育していたが、現在は園芸採取により、手当たり次第に持ちさらわれるため、激減した。

保護対策: 園芸採取の禁止が必要である。



(中馬千鶴)

ナツエビネ

Calanthe puberula Lindl. var. *reflexa* (Maxim.) M.Hiroe

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 準絶滅危惧 (NT)

旧県: 準絶滅危惧 (NT)

環境省: VU

近畿: A (CR)

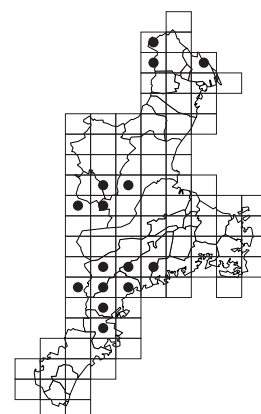
選定理由: 既知の生育地点数は20以下であり、各生育地の個体数は50未満と少ない。

種の概要: 樹林の林床に生える多年草。葉は数個根生し、長さ10~30 cm, 幅3~8 cm, 表面は光沢がなく白みを帯びた緑色で、縦じわが多い。高さ20~40 cmの花茎を伸ばし、7~8月に淡紫色の花を10~20個つける。

分布: 国内では本州から九州, 国外では朝鮮半島 (済州島), 中国 (南部, 台湾) に分布。県内では北勢, 中勢, 伊賀, 南勢, 紀州地域の比較的明るく、やや湿った林内に散見される。

現況・減少要因: 自生地の中には園芸目的による乱獲や森林伐採, ゴルフ場造成等により、すでに絶滅したところもみられる。

保護対策: マニアによる採取圧が強く、発見されると持ち去られることが多い。保護に関しては、生育地の公表は避けることや自生地周辺の森林を保全することが必要である。



(山本和彦)

セッコク

Dendrobium moniliforme (L.) Sw.

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県: 準絶滅危惧 (NT)

旧県: 準絶滅危惧 (NT)

環境省:

近畿: C (VU)

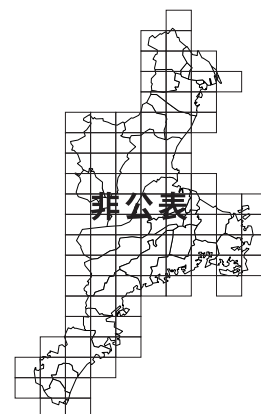
選定理由: 既知の生育地点数は10以下であり、採取圧はきわめて強い。

種の概要: 常緑の多年草。根茎はごく短い。地上茎は束生し、円柱形。高さ5~25 cmになり、数年残存するが古いものには葉がない。花期は5~6月, 古い茎の上部の節に1~2個つき、白色かわずかに淡い紅色を帯びる。

分布: 国内では本州, 四国, 九州。県内では伊賀市, 伊勢市, 大紀町, 尾鷲市, 熊野市等で記録がある。

現況・減少要因: 園芸採取が大きな圧力となっている。また、森林伐採により大木がなくなることも減少要因となっている。

保護対策: 園芸目的の乱獲を防止するために、分布情報の公表には留意する。また、着生樹の伐採防止につとめる。



(花尻 薫)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

カキラン

Epipactis thunbergii A.Gray

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

近畿：

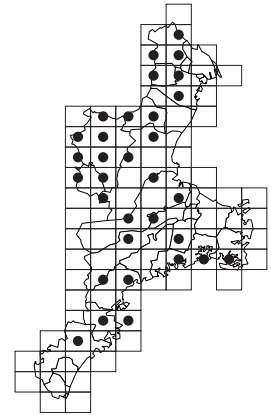
選定理由： 既知の生育地点数はおおよそ50であり、生育地が減りつつある。

種の概要： 日当たりの良い湿地に生える多年草。茎は高さ30~70 cm, 少数の鞘状葉に包まれる。葉は狭卵形から広披針形で、長さ6~13 cm, 巾3~5 cmで互生。6~8月、黄褐色の10個あまりの花がつく。柿蘭の名は花の色に基づく。

分布： 国外では朝鮮半島, 中国東北部, ウスリー。国内では北海道から九州に分布。県内では北部に多いが、全域で記録がある。

現況・減少要因： いなべ市3, 菰野町1, 四日市市2, 亀山市4, 伊賀市19, 名張市2, 津市美杉町1, 松阪市3, 多気町1, 大紀町1, 南伊勢町2, 熊野市1か所で生育が確認されている。丘陵地, 低山の谷筋や湿地にみられるが、開発による立地の減少が危惧される。園芸採取も減少要因である。

保護対策： 生育地は湿地であるので、湿地全体の保全が重要である。



(後藤稔治)

クロヤツシロラン

Gastrodia pubilabiata Sawa

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：

環境省：

近畿：

選定理由： 既知の生育地点数は4。総個体数は約100。

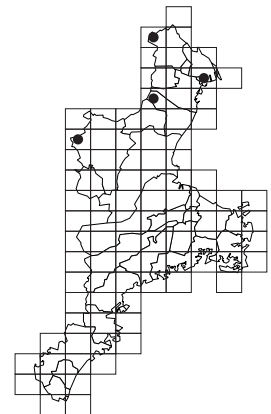
種の概要： 竹林や杉林, 常緑広葉樹林下のやや湿った腐植土壌に生育し、花期に茎の長さが2~3 cmの腐生ラン。多年草。しばしば1~2 cmの蛹形の塊茎を持つ。茎には小鱗片を着け、葉はない。花序は短縮し、茎の頂に柄が約2 cmの数花を束生する。花は濁った帯紫色の褐色で長さ11 mm, 先が平開する。唇弁には毛が生え、2条の黒い隆起部がある。花期は9~10月。果期に茎が伸び、長いもので40 cmに達する。

分布： 国内では関東以西の本州, 四国, 九州に分布。県内ではいなべ市, 桑名市, 亀山市, 伊賀市で記録がある。

現況・減少要因： いなべ市1, 桑名市1, 亀山市1, 伊賀市1か所で記録されているが、少なくとも桑名市と亀山市で生育を確認している。ただし、毎年開花するとは限らないようである。竹林や樹林の伐採が減少要因となる。

保護対策： 現在の環境を維持することである。

特記事項： アキザキヤツシロランやハルザキヤツシロランに似る。



(市川正人)

ミズトンボ

Habenaria sagittifera Rchb.f.

被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：VU

近畿：C (VU)

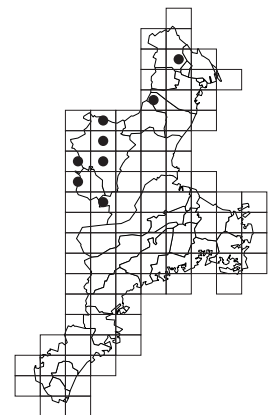
選定理由： 既知の生育地点数は10以下であり、生育立地が限られている。

種の概要： 日当たりの良い湿地に生える多年草。茎は三角柱状で無毛, 高さ40~70 cm。葉は線形で茎の下半分に数枚つく。花は淡緑色, 7~9月, 茎頂にやや多数の総状をつける。

分布： 国外では中国。国内では北海道西南部から九州に分布。県内では北勢地域と伊賀地域で記録がある。

現況・減少要因： いなべ市1, 菰野町1, 伊賀市2, 名張市1か所で生育が確認されている。丘陵地や溜池の周囲の湿地にみられるが、開発による立地の減少が危惧される。

保護対策： 生育地は湿地であるので、湿地全体の保全が重要である。



(後藤稔治)

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

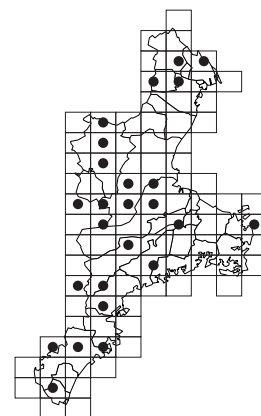
VU

NT

DD

トンボソウ <i>Platanthera ussuriensis</i> (Regel et Maack) Maxim. 被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)	三重県: 準絶滅危惧 (NT) 旧県: 準絶滅危惧 (NT)	環境省: 近畿: 準 (NT)
--	-----------------------------------	--------------------

選定理由: 既知の生育地点数は10以上であるが、生育に適した環境が減少している。
種の概要: 山地林下の涼しい所を好んで生育する多年草。葉は下の2枚が大きくあとは鱗片状である。茎は15~35 cmになり、7~8月に穂状花序をつけ、淡緑色の花をたくさん咲かせる。
分布: 国外では朝鮮半島、中国、ウスリー。国内では北海道から九州。県内では桑名市、菰野町、伊賀市、名張市、津市、松阪市、多気町、大台町、鳥羽市、大紀町、尾鷲市、熊野市、御浜町で生育の記録がある。
現況・減少要因: 目立った花ではないので採取される心配は少ない。森林伐採で明るくなれば枯死する。
保護対策: 森林伐採は林床植物が絶滅しない配慮をして計画的に進めることが大切である。



(山路武夫)

シモツケ <i>Spiraea japonica</i> L.f. 被子植物 [双子葉・離弁花] バラ科(APGⅢ:同)	三重県: 情報不足 (DD) 旧県: 情報不足 (DD)	環境省: 近畿: 準 (NT)
---	---------------------------------	--------------------

菰野、松阪、熊野などに生育することが確認されているが、評価できるほどの生育情報がない。(文献: 57. 81.)

(山本和彦)

アリマゲミ <i>Elaeagnus murakamiana</i> Makino 被子植物 [双子葉・離弁花] グミ科(APGⅢ:同)	三重県: 情報不足 (DD) 旧県:	環境省: 近畿:
---	-----------------------	-------------

桑名市多度町と津市美里町で標本記録がある(OSA, MPM)。美里町で数個体生育。新産地が期待される。

(市川正人)

マルバノイチヤクソウ <i>Pyrola nephrophylla</i> (Andres) Andres 被子植物 [双子葉・合弁花] イチヤクソウ科(APGⅢ:ツツジ科)	三重県: 情報不足 (DD) 旧県: 情報不足 (DD)	環境省: 近畿: 準 (NT)
--	---------------------------------	--------------------

いなべ市藤原岳、伊賀市、名張市赤目峽、松阪市白猪山で標本記録がある (MPM)のみで、評価できるほどの生育情報がない。

(山本和彦)

フジツツジ (メンツツジ) <i>Rhododendron tosaense</i> Makino 被子植物 [双子葉・合弁花] ツツジ科(APGⅢ:同)	三重県: 情報不足 (DD) 旧県:	環境省: 近畿:
--	-----------------------	-------------

熊野市紀和町で目視。ウンゼンツツジとモチツツジの雑種が考えられるが、この交雑種は見出されていない。

(市川正人)

オオツルコウジ <i>Ardisia walkeri</i> Yuen P.Yang 被子植物 [双子葉・合弁花] ヤブコウジ科(APGⅢ:サクラソウ科)	三重県: 情報不足 (DD) 旧県:	環境省: EN 近畿:
--	-----------------------	----------------

尾鷲市、紀伊長島町で4か所の生育が確認されているが、認識の低い種で、既知生育地の他にもあると考えられる。(文献: 35. 36. 66.)

(吉田國二)

シロバナイナモリソウ <i>Pseudopyxis heterophylla</i> (Miq.) Maxim. 被子植物 [双子葉・合弁花] アカネ科(APGⅢ:同)	三重県: 情報不足 (DD) 旧県: 情報不足 (DD)	環境省: 近畿: A (CR)
---	---------------------------------	--------------------

紀勢で絶滅の可能性が高いとの文献情報があるが、評価できるほどの生育情報がない。(文献: 90.)

(山本和彦)

維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

トウオオバコ <i>Plantago japonica</i> Franch. et Sav. 被子植物 [双子葉・合弁花] オオバコ科(APGⅢ:同)	三重県: 情報不足 (DD) 旧県: 情報不足 (DD)	環境省: 近畿:
---	---------------------------------	-------------

四日市市, 伊賀市, 松阪市, 志摩市で記録があるが, 内陸の情報は再確認が必要である.

(山本和彦)

コウゲイスカグラ <i>Lonicera ramosissima</i> Franch. et Sav. ex Maxim. var. <i>ramosissima</i> 被子植物 [双子葉・合弁花] スイカズラ科(APGⅢ:同)	三重県: 情報不足 (DD) 旧県: 情報不足 (DD)	環境省: 近畿: 準 (NT)
---	---------------------------------	--------------------

いなべ市藤原岳で文献記録があるが, 評価できるほどの生育情報がない. (文献: 90)

(山本和彦)

コウガイモ <i>Vallisneria denseserrulata</i> (Makino) Makino 被子植物 [双子葉・合弁花] トチカガミ科(APGⅢ:同)	三重県: 情報不足 (DD) 旧県: 情報不足 (DD)	環境省: 近畿: C (VU)
--	---------------------------------	--------------------

北勢で文献記録があるが, 評価できるほどの生育情報がない. (文献: 90)

(山本和彦)

キイヒメシライトソウ <i>Chionographis cordifolia</i> N.Tanaka 被子植物 [単子葉] ユリ科(APGⅢ:シュロソウ科)	三重県: 情報不足 (DD) 旧県:	環境省: 近畿:
--	-----------------------	-------------

大台町大杉谷で文献記録, および標本記録がある(KYO, TEU). 新産地が期待される. (文献: 120.)

(市川正人)

ヒメナベワリ <i>Croomia japonica</i> Miq. 被子植物 [単子葉] ビャクブ科(APGⅢ:同)	三重県: 情報不足 (DD) 旧県: 情報不足 (DD)	環境省: 近畿: C (VU)
---	---------------------------------	--------------------

尾鷲市で文献記録があるが, 評価できるほどの生育情報がない. (文献: 90)

(山本和彦)

イトスズメガヤ <i>Eragrostis brownii</i> (Kunth) Nees 被子植物 [単子葉] イネ科(APGⅢ:同)	三重県: 情報不足 (DD) 旧県: 情報不足 (DD)	環境省: 近畿: A (CR)
--	---------------------------------	--------------------

熊野市 (1950年代), 紀宝町 (1930年代) の標本記録がある (KYO)が, 評価できるほどの生育情報がない.

(山本和彦)

コゴメカゼクサ <i>Eragrostis japonica</i> (Thunb.) Trin. 被子植物 [単子葉] イネ科(APGⅢ:同)	三重県: 情報不足 (DD) 旧県: 情報不足 (DD)	環境省: 近畿: A (CR)
---	---------------------------------	--------------------

桑名市長島町 (三輪豊標本), 伊賀市上野 (KYO), 熊野市 (MPM) で標本, 鈴鹿市で文献記録があるが, 評価できるほどの生育情報がない. (文献: 43)

(山本和彦)

ナンゴクウラシマソウ <i>Arisaema thunbergii</i> Blume subsp. <i>thunbergii</i> 被子植物 [単子葉] サトイモ科(APGⅢ:同)	三重県: 情報不足 (DD) 旧県: 情報不足 (DD)	環境省: 近畿: 準 (NT)
--	---------------------------------	--------------------

紀勢に分布するとの情報はありますが, 評価できるほどの生育情報がない. (文献: 90)

(山本和彦)

クゲヌマラン <i>Cephalanthera longifolia</i> (L.) Fritsch 被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)	三重県: 情報不足 (DD) 旧県:	環境省: VU 近畿:
---	-----------------------	----------------

南伊勢町で1か所の生育が確認されているが, 現況不明.

(吉田國二)

維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ツククサシュスラン

Goodyera foliosa (Lindl.) Benth. ex C.B. Clarke var. *foliosa*
被子植物 [単子葉] ラン科(APGⅢ:同)

三重県：情報不足 (DD)

旧県：

環境省：

近畿：

熊野市, 紀和町で標本 (OSA) があるが, 評価できるほどの生育情報がない。

(大洞浩一)

文 献

1. 阿児町グリーンクラブ. 1993. 阿児町植生調査報告書.
2. 赤井賢成・三宅 尚・三宮直人・小林史郎・永益英敏. 2005. 高知県室戸市で確認されたカミガモソウ *Gratiola fluviatilis* (ゴマノハグサ科) の新産地とその生育状況. 植物地理・分類研究, 53(2): 207-211.
3. 青木 繁ほか. 1999. 朽木の植物. 滋賀県朽木村教育委員会, 朽木.
4. 青山 晶. 1993. 東阿倉川イヌナシ自生地. 三重県の天然記念物. 三重生物教育会.
5. 芦田 馨・山川修吉・森下賢一・加納康嗣・南 正祝. 1997. 赤目溪谷の植物誌. 名張みどり生き物の会, 141 pp.
6. 中馬千鶴. 1979. 三重県産種子植物の再検討 (1). 三重生物, 28: 25-27.
7. 中馬千鶴. 1980. 神宮宮域林の腐生植物 (1) ウスギムヨウランについて. 植物研究雑誌, 55(10): 18-21+1.
8. 中馬千鶴. 1982. 神宮宮域林の腐生植物 (2) タシロランについて. 植物研究雑誌, 57(6): 182-187.
9. Endo Y. and H. Ohashi. 1986. Variation and infraspecific diversity of *Viciavenosa* (Leguminosae) in Japan. Sci. Rep. Tohoku Univ. 4 th ser. (Biology), 39: 121-141.
10. 藤井伸二. 1998. 滋賀県で生育が再確認されたヌマゼリの生態. 植物分類地理, 49(2): 201-204.
11. 藤井伸二. 2008. 三重県座佐池におけるツツイトモの分布記録と生育に関するノート. 水草研究会誌, 89: 31-33.
12. 藤井伸二・市川正人・山脇和也・藤井俊夫. 2010. 紀伊半島におけるソハヤキミズとコケミズ (イラクサ科) の新産地 (新産地報告). 分類, 10(2): 163-166.
13. 藤井伸二・市川正人・吉田國二. 2013. 三重県から記録された希産植物2種: ヒメニラ, マイヅルテンナンショウ. 分類, 13: 129-131.
14. 藤井伸二・山本和彦. 2007. 三重県におけるツツイトモ (ヒルムシロ科) の新産記録. 水草研究会誌, 86: 29-32.
15. 藤井伸二・山本和彦・市川正人・山脇和也. 2011. オニナルコスゲ (カヤツリグサ科) を三重県から記録する. 分類, 11: 155-160.
16. 藤井伸二・山本和彦・狩山俊悟・瀬戸 剛・市川正人・海老原 淳. 2012. 近畿地方新産のヒメキカシグサとその生育環境. 分類, 12: 53-57.
17. 藤井伸二・吉田國二・山本和彦・市川正人. 2009. ケチドメ (セリ科) を紀伊半島から記録する. 分類, 9: 173-177.
18. 福岡誠行. 2001. エゾミソハギ (ミソハギ科) の無毛品. 国立科博専報, 37: 169-172.
19. 福岡誠行・迫田昌宏・三宅慎也・永益英敏. 1993. カミガモソウの新産地. 植物分類地理, 44: 210-211.
20. 後藤稔治・菊池多賀夫. 1997. 東海地方の丘陵地にみられるシデコブシ群落とその立地について. 日本生態学会誌, 47: 239-247.
21. 浜島繁隆. 1988. 木曾三川下流域の水生植物. 水草研究会会報, 33/34: 10-13.
22. 原 寛. 1976. 東亜植物注解 (1) 7) マルバチシャノキ. 植物研究雑誌, 51(3): 71-77.
23. Hayasaka E. and C. Sato. 2004. A new species of *Schoenoplectus* (Cyperaceae) from Japan. J. Jap. Botany., 79: 322-325.
24. 堀江総男. 1968. ムラサキ. 植物と自然, ニューサイエンス社, 2(3).
25. 堀内 洋. 2003. 近畿地方に見られるカンガレイ (カヤツリグサ科) について. 南紀生物, 45: 132-133.
26. 堀内 洋. 2005. 近畿地方におけるヒメハリイとクロハリイ (カヤツリグサ科) の分布. 水草研究会会報, 83: 1-5.
27. 堀内 洋. 2005. 三重県海山町に分布するセイタカハリイ (カヤツリグサ科) について. 南紀生物, 47: 157-160.
28. 星野悦子・加田勝敏. 2002. 四日市市南部の植物相 (予報). 自然環境調査研究者制度活動事例集, (1), pp. 9-34. 三重県環境保全事業団, 津.
29. 星野悦子・加田勝敏. 2003. 四日市市南部の植物相 (I). 自然環境調査研究者制度活動事例集, (2), pp. 1-18. 三重県環境保全事業団, 津.
30. 星野悦子・加田勝敏. 2004. 四日市市南部の植物相 (II). 自然環境調査研究者制度活動事例集, (3), pp. 11-30. 三重県環境保全事業団, 津.
31. 市川正人. 2013. 北勢地域におけるススキに類似のイネ科植物. 自然誌だより, 97: 2.
32. 市川正人. 2014. ハタバカンガレイの三重県内新産地. 自然誌だより, 99: 6.
33. 市川正人ほか. 2015. *Bupleurum quadriradiatum*の再発見. シデコブシ3: 5-10.
34. 員弁高校生物部. 1950. 桑員植物目録. 三重県立員弁高校.
35. 井波一雄. 1977. 紀伊長島の植物. 三重県紀伊長島町, 紀伊長島, 104 pp.
36. 井波一雄. 1980. オオツルコウジ三重県に産す. レポート 日本の植物 No.6: 49-50.
37. 伊藤 洋 (編). 1998. 1998年版埼玉県植物誌. 埼玉県教育委員会, 浦和, 833 pp.
38. 伊藤 洋. 1991. 新種アタカカナワラビ (オシダ科), 植物研究雑誌, 66(4): 191-193.

維管束
植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

39. 伊藤武夫. 1951. 三重縣産生物目録植物の部. 三重縣産生物目録 (三重縣生物調査委員會 編), pp. 149-295. 三重縣生物調査委員會, 津.
40. Iwatsuki K, D. E. Boufford and H. Ohba. 2001. Flora of Japan Vol.IIb.
41. 加田勝敏. 1988. 楠町中央公民館所蔵の明治時代の植物標本目録 (I). 三重生物, 38: 25-29.
42. 加田勝敏. 1989. 楠町中央公民館所蔵の明治時代の植物標本目録 (II). 三重生物, 39: 16-21.
43. 加田勝敏. 1995. 多度町の植物. たどの自然. 多度町教育委員会.
44. 加田勝敏. 1997. 三重県の植物分布ノート(1). 北勢自然科学研究会会報(7). 北勢自然科学研究会.
45. 加田勝敏. 2005. 三国谷の植物相. 三国谷イワメ調査報告書, pp. 43-81. 三重県, 津.
46. 加田勝敏. 2008. 鈴鹿市産維管束植物目録. 鈴鹿市の自然 鈴鹿市自然環境調査報告書 (鈴鹿市環境部環境政策課 編), pp. 100-242. 鈴鹿市環境部環境政策課, 鈴鹿.
47. 加田勝敏. 2010. 金生水沼沢植物群落指定地内植物目録2010. 金生水沼沢植物群落調査記録 平成22年, 鈴鹿市文化課.
48. 加藤雅啓・海老原淳編. 2011. 日本の固有植物. 東海大学出版会, 神奈川, 503 pp.
49. 葛山博次. 1953. 冶田村の植物. 冶田村誌. 冶田公民館.
50. 葛山博次. 1974. 台高山脈北部・飯高町の植物相と植物群落. 台高山脈北部ならびに奥香肌峡一帯自然科学調査報告, pp. 99-110. 三重県立博物館, 津.
51. 葛山博次. 1975. 藤原岳の植物. 中日新聞社.
52. 葛山博次. 1995. クサレダマを県内で初記録 (1966. 8月23日採集, 植物採集ニュースに発表). たどの自然. 多度町教育委員会.
53. 葛山博次. 1995. 多度のイヌナシ自生地. たどの自然. 多度町教育委員会.
54. 葛山博次・蔦岡知恵. 2002. シロシヤクジョウ新生育地について. (財)三重県環境保全事業団研究報告, (8), pp. 131-133. 三重県環境保全事業団, 津.
55. 葛山博次・蔦岡知恵. 2003. 三重県におけるアイアシの分布と植生. (財)三重県環境保全事業団研究報告, (9), pp. 35-47. 三重県環境保全事業団, 津.
56. 川口三好次. 1972. 尾鷲の植物誌 (シダ篇). 尾鷲の自然を守る会, 尾鷲, 41 pp.
57. 川口三好次. 1979. 尾鷲の植物誌 (種子植物篇). 尾鷲市教育委員会, 尾鷲, 170 pp.
58. 川添昭夫. 2008. 三重県内初記録キンボウゲ科スズムシバナ. 藤原岳自然科学館報藤原岳, 30: 22.
59. 川添 護. 1982. 藤原岳のシダ植物. 三重生物, 32: 6-9.
60. 川添 護. 1993. 多度のイヌナシ自生地. 三重の天然記念物. 三重生物教育会, 津.
61. 木村裕之. 1994. 菰野町田光のシデコブシ群落について. 三重生物, 44: 20-26.
62. 木下慶二. 1989. 紀伊半島産カンアオイ属の一新種. 植物地理・分類研究, 37(2): 69-70.
63. 北村四郎, 村田 源. 1971. 原色日本植物図鑑 (木本編I), pp. 124-125.
64. 小林秀樹. 1968. 三重県の海岸植物. 三重生物, 18: 33-41.
65. 小菅桂子・田村道夫. 1988. 日本産のシロカネソウ属. 植物分類地理, 39: 37-46.
66. 小山博滋・國府方吾郎. 1998. オオツルコウジの分類学上の位置. 国立科博専報. 31: 123-134.
67. 倉田 悟. 1979. 日本産羊歯植物論文選集. 日本シダの会.
68. 黒川喬雄. 1958. 興味ある野外植物の観察と実験 (その4). 三重生物, 8: 32-33.
69. 黒川喬雄. 1960. 伊賀地方産植物目録. 三重県立上野高校.
70. Maeda T., C. Sato and A. Uchino. 2004. Variation of *Schoenoplectus gemmifer* in Morphological comparison with *S. mucronatus* and *S. triangulates*. J. Jap. Botany., 79: 29-42.
71. 前川文夫. 1933. 日本産かんあおい類解説. J. Jap. Botany., IX 8:18-21.
72. 孫福 正. 1954. 私の姓を冠した植物. 三重生物, 5: 27-30.
73. 孫福 正. 1971. 三重県シダ植物総目録 (II). 三重生物, 21: 38-50.
74. 孫福 正. 1972. 三重県植物雑録 (10). 三重生物, 22: 49-52.
75. 孫福 正. 1985. 三重県植物雑録 (15). 三重生物, 35: 13-16.
76. 砂子 剛. 1982-1984. ふるさと伊賀の今は昔 (3-12). いがざさ, 三重生物教育会伊賀支部, (3-14).
77. 松本 功. 2009. 南伊勢町でムカゴサイシンを確認. 自然誌だより, 79: 3.
78. 三重県立博物館. 2003. 三重県立博物館収蔵資料服部哲太郎植物標本. 三重県立博物館, 津, 87 pp.
79. 三重県立博物館. 2003. 三重県立博物館収蔵資料筒井養之助物標本. 三重県立博物館, 津, 254 pp.
80. 三重シダの会. 1989. 三重県のシダ植物. 三重県良書出版会, 津, 188 pp.
81. 南川 幸. 1963. 鈴鹿山脈森林植生の研究. 鈴鹿山脈自然科学調査報告書, pp. 311-436. 三重県自然科学研究会, 津.
82. 南川 幸. 1990. 三重県で新たに見出されたシデコブシの自生地とシデコブシ群落の構成. 日本生物地理学会会報, 45(22): 137-143.
83. 南川 幸・清水 実. 1962. イナベアザミの基準産地および周辺における分布と生態. 関西自然科学, (15).
84. 南川 幸・矢頭献一. 1972. 大杉谷森林植生の植物生態学的研究. 大杉谷・大台ガ原自然科学調査報告書, pp. 11-47. 三重県自然科学研究会, 津.
85. 水谷盛立. 1937. 北勢植物目録. 富田中学校, 四日市, 38 pp.
86. 持田 誠・片桐浩司・高橋英樹. 2004. 北海道におけるコバナヒルムシロの再発見と分布記録の整理. 分類, 4:

- 41-48.
87. 森本範正. 2012. 奈良県樹木分布誌. 私刊, 天理, 284 pp.
 88. 村井俊郎. 2004. オニバス 再発見の経緯. 自然誌だより, 62: 6.
 89. 村田 源. 2001. オナモミについて. 山梨植物研究, (14): 1-5.
 90. 村田 源. 2004. 近畿地方植物誌. レッドデータブック近畿研究会. 特定非営利活動法人大阪自然史センター, 大阪, 257 pp.
 91. 村田吉兵衛. 1940. 北勢菰野山植物目録. 村田植物研究所万木草堂, 74 pp.
 92. 名張の自然を調べる会. 2002. なばりの自然. 名張の自然を調べる会, 名張, 60 pp.
 93. 永益英敏. 1992. クロミノニシゴリの分布. 植物分類地理, 43(2): 169-170.
 94. 長野県植物誌編纂委員会. 1997. 長野県植物誌. 信濃毎日新聞社, 長野, 1735 pp.
 95. Naiki, A. 2008. Breeding system in *Mussaenda shikokiana* (Rubiaceae). Bulletin of the Osaka Museum of Natural History, 62: 21-26.
 96. 中 優. 2003. 松阪市・多気町・玉城町のため池における水草の分布. (財)三重県環境保全事業団研究報告, pp. 27-34. 三重県環境保全事業団, 津.
 97. 中井猛之進. 1911. フキヤミツバ新撰植物図編・第I編. 第1集, 第1図
 98. 中西弘樹. 1979. ハマナツメ群落の分布と生態. 植物分類地理, 32: 105-113.
 99. 中西弘樹・川内野善治. 1994. カミガモソウの新産地とその形態. 植物分類地理, 45: 169-171.
 100. 奈良県レッドデータブック策定委員会 (編). 2008. 大切にしたい奈良県の野生動植物 奈良県版レッドデータブック 植物・昆虫編. 奈良県農林部森林保全課, 奈良, 427 pp.
 101. 鳴橋直弘. 1971. アワコバイモとミノコバイモ. 植物分類地理, 25(1): 9.
 102. 鳴橋直弘. 1973. クロユリの仲間. 新花卉, (78).
 103. 日本シデコブシを守る会. 1996. シデコブシの自生地. 日本シデコブシを守る会, 瑞浪, 217 pp.
 104. 織田二郎・山本修平・市川正人・永益英敏. 2010. 紀伊半島におけるミヤマカンスゲ類の分布. 10(1): 63-70.
 105. 大洞浩一. 2013. 熊野地方のシダ植物誌 I. 熊野誌 60: 45-65.
 106. 岡 与一. 1972. 伊賀地方湿地植物採集報告. 三重生物, (22): 61-62.
 107. 大谷勝治. 2011. モンゴリナラが三重県にも自生. 自然誌だより, 87: 1.
 108. 坂部元宏. 1996. 多気町成川に分布するマメナシの実の大きさ. 三重生物, (46): 43.
 109. Sato, C., T. Maeda and A. Uchino. 2004. A New species of *Schoenoplectus* Sect. *Actaeogeton* (Cyperaceae). J. Jap. Botany., 79: 23-28.
 110. 佐藤義輔・大井次郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫 (編). 1982. 日本の野生植物. 草本 I～III. 平凡社, 東京.
 111. 清水 実. 1964. 藤原岳およびその周辺のアザミ. 三重生物, (14): 26.
 112. Shimizu, T. 2009. *Carex benkei*, a New Species of *Carex* (Cyperaceae) from Japan and China. Acta Phytotax. Gebot, 60(1): 41-46.
 113. 須田大樹・星野義延. 2008. 北関東におけるフモトミズナラの葉・堅果・殻斗の形態について. 埼玉県立自然の博物館研究報告, No.2 : 19-2.
 114. 菅沼孝之・鶴田正人. 1975. 大台ヶ原・大杉谷の自然. ナカニシヤ出版, 京都, 259 pp.
 115. 杉本順一. 1979. 日本草本植物総検索誌Ⅲ シダ編. 井上書店, 東京, 481 pp.
 116. 杉野孝雄・諸井芳太郎. 1969. 浮水シダ植物2題. 植物と自然, 3(2), ニューサイエンス社.
 117. Suyama, C. and K. Ueda. 2005. A New Variety, *Scabiosa japonica* var. *brevugula* (Dipsacaceae) from Tokai District, Central Japan. J. Jap. Botany., 80(1): 14-21
 118. 高宮正之. 1999. ミズナラ属の自然誌と分類. 植物分類地理, 50: 101-138.
 119. 武田明正・渡邊定元. 1997. 三重県のイタカムシトリスミレ (新変種) の群落維持機構. 植物研究雑誌, 72(4): 229-237.
 120. 田中教之. 2013. 紀伊半島産シライトソウ属 (シュロソウ科) の1新種. J. Jap. Botany., 88: 30-35.
 121. 津山 尚. 1955. ムヨウラン属の一新種. 植物研究雑誌, 30(6): 21-23.
 122. 津山 尚. 1967. 日本およびその付近に産するタシロラン属について. 植物研究雑誌, 42(10): 137-143.
 123. Ueda K. 1988. Star Magnolia (*Magnolia tomentosa*)-An indigenous Japanese plant. J. Arnold Arboretum, 69: 281-288.
 124. 植田邦彦. 1989. 東海丘陵要素の植物地理. 植物分類地理, 40: 5-6.
 125. 和歌山県. 2012. 保全上重要なわかやまの自然 - 和歌山県レッドデータブック - [2012年改訂版]. 和歌山県環境成果物環境政策局環境生活総務課自然環境室, 和歌山, 442 pp.
 126. 山田耕作. 1989. 孫福正先生採集による新種植物について. 三重生物, (39): 22-24.
 127. 山田耕作. 1997. 植松栄次郎氏の年譜と業績. 三重生物, (47): 13.
 128. 山路武夫. 2006. ケブカツルカコソウ. 自然誌だより, 68: 5.
 129. 山本和彦. 2001. 尾鷲市でヘゴの再発見. 三重自然誌, 7: 89-90.
 130. 山本和彦. 2008. 私のフィールドノートから ～三重県内におけるハマナツメの分布. 自然誌だより, 77: 2-5.
 131. 山本和彦. 2012. 須賀利大池 (三重県尾鷲市) におけるシカ食害にともなうハマナツメ群落の衰退. 植生学会第17回大会講演要旨集.

維管束
植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

132. 山本和彦・市川正人. 2012. 三重県におけるシマエンジュの発見とその現状. 分類, 12: 63-67.
133. 山崎敬. 1993. クロヅルについて. 植物研究雑誌, 68 (6): 363-366.
134. 矢頭献一. 1956. 紀伊長島の大島にオオタニワタリが見つかった. 日本シダの会会報, 23: 117.
135. 矢頭献一. 1963. 鈴鹿山脈の松柏類. 鈴鹿山脈自然科学調査報告書, pp. 437-442. 三重県, 津.
136. 矢頭献一. 1965. 伊勢志摩国立公園の植物 I 英虞湾周辺および先島半島地区. 志摩の自然: 伊勢志摩国立公園自然科学調査書, pp. 23-30. 三重県, 津.
137. 矢頭献一. 1969. イヌナシ (バラ科). 三重生物, (19): 1.
138. 矢頭献一. 1969. 三重大学平倉演習林の種子植物目録. 三重大学農学部演習林資料, No.3: 1-48.
139. 矢頭献一. 1972. 大杉谷産植物目録. 大杉谷・大台ガ原自然科学調査報告書, pp. 49-72. 三重県自然科学研究会, 津.
140. 矢頭献一・葛山博次. 1975. 父ヶ谷一帯における分布上注目すべき植物. 宮川揚水発電計画に伴う父ヶ谷地域自然環境調査報告書, pp. 93-122. 三重県自然科学研究会, 津.
141. 四日市教育委員会社会教育課. 1983. 国指定天然記念物御池沼沢植物群落環境整備事業報告書. 四日市教育委員会, 四日市, 264 pp.
142. 遊川知久. 1999. 日本産菌寄生ラン科の新種, モイワラン(*Cremastra aphylla*). 筑波実験植物園研究報告, 18: 59-63.

文 献 (補遺)

143. 藤井伸二・市川正人. 2010. キンキマメザクラを三重県から記録する. 関西自然保護機構会誌, 32(2): 127-129.
144. 藤井伸二・山本和彦・瀬戸 剛・市川正人・山脇和也. 2007. 奈良県および三重県から見つかったアズマツメクサ (ベンケイソウ科) とその生育環境に関するノート. 水草研究会誌, 86: 21-25.
145. 市川正人. 2014. 鈴鹿山系のジンチョウゲ属3種. 自然誌だより, 101: 4.
146. 市川正人. 2014. 三重県北限のハマボウ. 自然誌だより, 102: 3.
147. 市川正人・山本和彦. 2012. 津市内溜池の植物相. 三重自然誌, 13: 128-136.
148. 織田二郎・山脇和也・市川正人. 2014. ビッチュウヒカゲスゲを三重県藤原岳にて確認. 分類, 14(1): 59-64.

維管束
植 物

蘚苔類

藻 類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD